令和６年度

「令和の日本型学校体育構築支援事業」

モデル校取組事例集

和歌山県立粉河高等学校での保健体育科の様子

和歌山県教育委員会

はじめに

和歌山県教育委員会では、「児童生徒の体力向上」を学校教育において取り組むべき大きな目標の一つとして掲げ、その目標達成に向け「学校体育の充実」及び「運動機会の拡大」に取り組んでまいりました。

このような中、「令和６年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の体力合計点において、小学校５年生は男女とも12回連続全国平均を上回り、中学校２年生も、男女とも６回連続で全国平均を上回りました。令和５年度と比較すると、小学校で低下、中学校では向上しており、小学校と中学校で結果に違いが見られた。さらに、項目別に見ると、小学校５年生において、男女ともに「５０ｍ走」、「立ち幅とび」、「長座体前屈」に課題があり、中学校２年生では、男女ともに「５０ｍ走」、「立ち幅とび」、「持久走」に課題があります。

また、運動習慣等調査の結果において、「体育が楽しい」と回答した児童生徒の方がそれ以外の児童生徒と比べ体力合計点が高いことから、今後も魅力ある授業づくりを推進することで、引き続き運動好きな児童生徒の育成が必要であると考えています。

本年度は、「体育・保健体育指導力向上プログラムモデル校」（小・中・高等・特別支援学校各１校）、「体力向上プログラムモデル校」（小学校１校）、「武道推進モデル校」（中学校 12 校）を指定し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組んでいただくとともに、領域別に授業研究を進めていただきました。

本取組事例集は、各モデル校の取組内容及び成果と課題を掲載していますので、各学校における今後の授業づくりの一助として御活用いただければ幸いです。

結びに、本取組事例集作成に御尽力賜りましたモデル校の関係各位に厚く御礼申し上げるとともに、今回の事業に御協力いただきました当該市町教育委員会及び地域の学校体育研究会に深く感謝の意を表します。

令和７年３月

和歌山県教育庁学校教育局教育支援課長　窪田　光利

目　　次

1　取組事例

	校種	学校名	学年等	領 域 等	授業者	ページ
体育・保健体育指導力向上プログラムモデル校	小学校	橋本市立 西部小学校	６年Ａ組	ボール運動 ゴール型 （ハンドボール）	東山　大次郎	1
	中学校	かつらぎ町立 妙寺中学校	３年Ｂ組	球技 ゴール型 （バスケットボール）	山本 優	27
	高等学校	和歌山県立 粉河高等学校	２年 ４５６７組	球技 ネット型 （バレーボール）	板谷　沙緒里	36
	特別支援学校	和歌山県立 たちばな支援学校	１、２、３学年	器械運動 （マット運動）	東谷　和彦	44
体力向上プログラムモデル校	小学校	田辺市立 三栖小学校	１年１・２組	体つくりの運動遊び	岩井　花心	54

	校種	学校名	学年等	領 域 等	ページ
武道推進モデル校	中学校	九度山町立 九度山中学校	２年	武道（なぎなた）	51
		有田川町立 石垣中学校	１年	武道（剣道・なぎなた）	53
		田辺市立 上秋津中学校	３年	武道（合気道）	55
		田辺市立 上芳養中学校	１年	武道（合気道）	57
		田辺市立 新庄中学校	２年	武道（合気道）	59
		田辺市立 中芳養中学校	２年	武道（合気道）	61
		田辺市立 東陽中学校	１・２年	武道（合気道）	63
		田辺市立 明洋中学校	１～３年	武道（合気道）	65
		田辺市立 龍神中学校	３年	武道（合気道）	67
		田辺市立 高雄中学校	１年	武道（合気道）	69
		田辺市立 近野中学校	１～３年	武道（合気道）	71
		田辺市立 衣笠中学校	１・２年	武道（合気道）	73

2　参考　【平成２１～令和５年度授業研究会開催内容一覧】

体育・保健体育指導力向上
プログラムモデル校
取組事例

体育科学習指導案

日　時	令和６年１２月１３日（金）１３：４０～１４：２５
場　所	橋本市立西部小学校　運動場
学　級	６年Ａ組　２４名
授業者	職名　教諭　東山　大次郎

１　単元名　　Ｅ　ボール運動　「ハンドボール」

２　指導にあたって

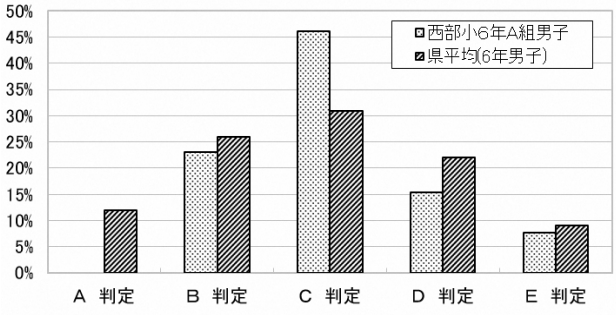
（１）児童の実態（アンケート調査,体力・運動能力調査結果）から見えてくる課題

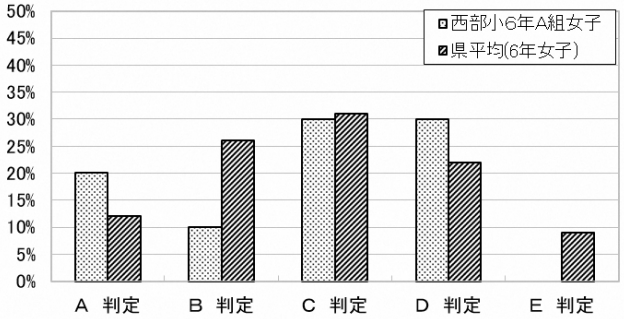
児童アンケート調査

アンケート内容	『はい』	どちらかといえば『はい』	どちらかといえば『いいえ』	『いいえ』
１.体育学習は好きですか	４２％（１０人）	３８％（９人）	８％（２人）	１２％（３人）
２.体育学習は得意ですか	２５％（６人）	２１％（５人）	２５％（６人）	２９％（７人）
３.今回学習する「ボール運動」は好きですか	５０％（１２人）	２９％（７人）	１３％（３人）	８％（２人）
４.３で「どちらかといえばいいえ」「いいえ」と答えた児童生徒の理由	理由 ・ボールを使う競技が苦手だから。 ・運動が苦手だから。 ・走ることが苦手で,しんどいから。			
５.今回学習する「ハンドボール」は好きですか	２５％（６人）	４２％（１０人）	１２％（３人）	２１％（５人）
６.５で「どちらかといえばいいえ」「いいえ」と答えた児童生徒の理由	理由 ・ハンドボールをしたことがないから。 ・ボールを使う運動が苦手だから。 ・ボールを投げるのが苦手だから。			

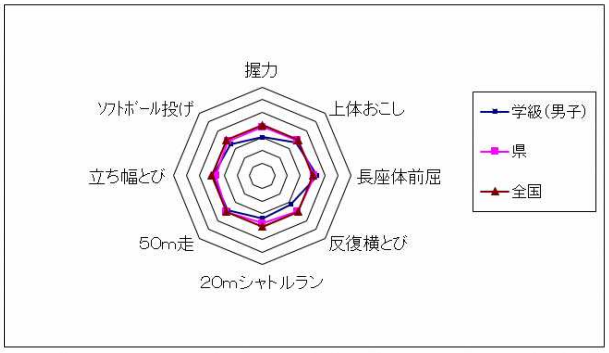
〔令和６年度児童生徒の体力・運動能力調査結果から見た実態〕

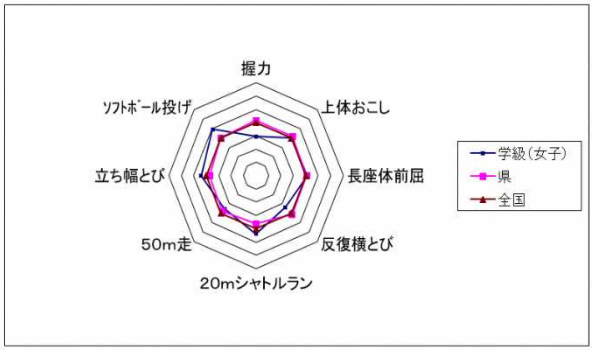
〔グラフ 1〕判定別割合（男女別）





〔図１〕【Ｔスコアによる全国比較図（男女別）】





アンケートの結果からは,“体育学習は好きですか”という質問に対し,８０％の児童が肯定的な回答をしている。しかし,“体育学習は得意ですか”という質問に対しては,５４％の児童が否定的な回答をしている。“今回学習する「ボール運動」は好きですか” という質問には,７９％の児童が肯定的な回答をしている。

これらのことから,体育学習に前向きに取り組める児童が多く,普段の授業でもほとんどの児童が活発に取り組むことができている。しかし,運動に対して自信を持てず,運動嫌いの児童や学習に対して意欲が低い児童もいる。その理由として,「運動が苦手だから。」「ボールを投げるのが苦手だから。」などがある。このことから,技能面でボール運動への抵抗があり,ボールをうまく扱えない,運動が苦手なことから前向きに取り組むことができないというところに課題があると考えられる。

体力・運動能力調査結果から,男子では,B,C,D 層に集中している。しかし,A 層がいないところに課題があると考える。A 判定をとれない理由としては,握力,俊敏性や持久力が課題であると考えられる。女子は,E 判定者がおらず,判定別割合の分布から見ても能力が低いわけではないが,アンケートの問４・６で「苦手だから」と回答したのはほとんど女子であった。このことから運動に対して苦手意識をもつ女子児童が多くいることが分かる。

本学級の児童は,3・4 年生の時にポートボールやラインサッカーを通じて,味方にパスを出す技術やシュート,ボール保持時に体をゴールに向ける動き,ボール保持者と自分の間にディフェンスが入らないようにする工夫などを学んでいる。5 年生ではバスケットボールに取り組んだが,パスがうまく続かない,得意な児童ばかりにボールが渡り,不得意な児童がゲームに参加しにくいといった課題が見られた。ボールを持たないときの動きについても学んできたが,まだ十分に身に付いていない様子であった。

そこで,スリーサークルボール[1)2)]を使ってボールを持たないときの動きを身に付けさせることが,技能の向上に効果的ではないかと考え,スリーサークルボールを取り入れた学習を今後,中学年で取り扱いたい。しかし,本学級では,中学年での系統性を持ったスリーサークルボールの経験がないため,本単元に入る前に,数時間スリーサークルボールを行い,ボールを持たない動きの基礎の学習を行った上で授業計画を立てた。

２学期に取り組んだベースボール型のベースボール５では,男女関係なくチームで励まし合い,ゲームに取り組む姿が見られた。運動経験のある児童は,苦手な児童の守備範囲をカバーしたり,打撃の方向をアドバイスしたりしていた。ルールを理解することが難しく,運動に前向きに取り組めない児童もいたが,チームで試合を振り返って,ルールを説明してあげる児童の姿も見られた。また,休憩時間には多くの男子児童がサッカーに取り組んでお

り,ゴール型の運動に親しんでいる。しかし,教室で休憩時間を過ごすことが多い児童もいる。運動に継続的取り組む児童と運動への苦手意識を持つ児童がおり,運動への興味・関心の二極化が進んでいると考える。

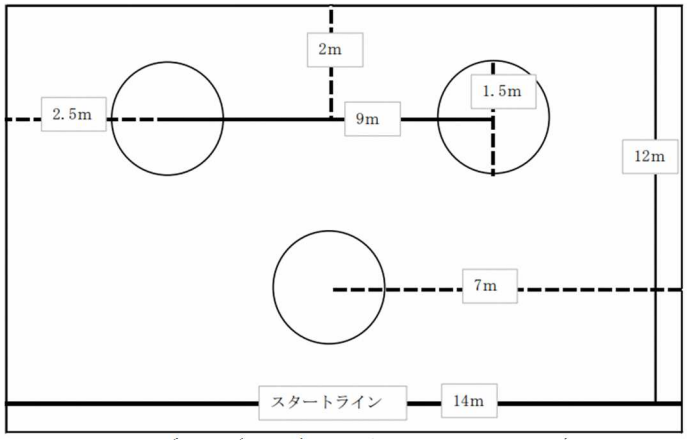
このような児童の実態から,児童が体育科の授業に楽しく,充実感をもって参加するためには,最低限の知識・技能の習得が必要ではないかと考えた。土台となる知識・技能を身に付ける時間を保証することで,授業内での児童の関わり合いの質も向上し,学びが深まるはずである。以上の点を考慮した単元を計画し,運動の得意な児童も・不得意な児童も楽しく参加できるゴール型のボール運動の授業を提案したい。

スリーサークルボール[1)2)]について

ねらい
・3つのサークルが設置されており,ゴール内に入り込んでボールをキャッチすれば得点になるため,ボールを持たない時の動きを効果的に学ぶことができる。 ・アウトナンバー制で行ったため,フリーでパスを受けることができ,ボールを持たない時の動きを習得できる。 ・スリーサークルボールは,攻撃側が有利な状況でプレイできる。そのため,児童は成功体験を積みやすく,運動の特性を味わわせることができる。

ルール

①縦12m,横14mの長方形コートに,直径1.5mのサークルを3つ設置する。
②試合は攻守交代制で行う。1ゲームは1分で行い,タイムアウトで攻守交代となる。
③サークルの中に入り,ボールを受けると10点とする。
④3対2のアウトナンバー制で行う。
⑤ゲームはパスのみで行い,ドリブルは無し。ピボットは認める。
⑥攻撃はスタートラインに並んで,守備者にパスを出し,リターンしたところからスタートする。
⑦パスをつなぎ,サークルの中に入り込んだ味方にパスを通して,キャッチできれば得点とする。
⑧サークルからサークルへのパスは得点としない。得点するためには必ず一度,中継者にパスをしなければならない。
⑨同じサークルでの連続得点は認められない。
⑩ボールがコートの外に出たり,守備者に取られたりすればアウトになる。
⑪アウトになったときは,スタートラインからリスタートとする。
⑫同じサークルに長い時間（3秒以上）留まってはいけない。
⑬守備者はボール保持者に身体接触したり,ボール奪取をしたりしてはいけない。
⑭ボールはスポーツボール（8.5インチ）を使用する。



（２）研究主題について

研究仮説

教師が教材について系統的に理解し,児童の実態を踏まえ「授業づくり」を工夫していくことで,児童の,「体育が楽しい」,「運動に取り組んでみようかな」と,充実感をもって体育学習に取り組む姿が見られるであろう。

内容的条件に関する授業づくりの視点

① 学習目標の設定

低学年から高学年までのつながり（学習内容の系統性）を理解したうえで,児童の課題に見合った具体的な目標を設定する。

③ 多様な学習方法

授業の目標と児童の実態を照らし合わせながら,様々な指導スタイルやアプローチを適用することで,児童を意味ある学びに導く。

④教師の指導性

教師の肯定的な関わり（特に称賛,助言,励まし,補助）の機会を多くとり,学習全体の肯定的な雰囲気づくりにつなげる。

研究の中心

② 教材・教具づくり

課題を捉えやすくなるような教材・場づくりを意識し,学習目標の達成に向け，課題にチャレンジできる工夫を行う。

体育科に特化した“技能習得のための活動”と,“他教科でも活かすことができる力（例えば,自分の考えを相手に伝える力など）を伸ばすための活動”をバランスよく設定し,「どんな学習活動」で,児童が「どんな楽しさ」を実感することができるのかを明確にする。

（３）教材・教具づくりついて

（ア）ゴール型のボール運動の特性

ゴール型のボール運動には,「ボール操作」と「ボールを持たないときの動き」の二つの側面があるが,その活動の大部分は「ボールを持たないときの動き」で構成されている。「ボール操作」は,教師や児童が注目しやすく,課題として取り上げられることが多い。しかし,ゲームにおいてプレイヤーが重視すべきなのは型に共通する動きである「ボールを持たないときの動き」である。

（イ）メインゲームについて[1）2）]

表１　教材・場の工夫とねらい

教材・場の工夫	ねらい
台形型ゴール	・コート内側に飛び出た台形にすることで得点するチャンス場面や得点する楽しさを味わわせたい。
ドリブル禁止	・「ボールのないときの動き」を意識させ,得点するために有効な空間を見つけて,走り込み,得点のチャンスを狙わせたい。
４対３のアウトナンバー制	・攻撃側の数的優位を意図的に作り出し,得点につながる「ボールのないときの動き」を意識させるようにする。

表２　メインゲームの主なルール[1）2）]

①縦 24m,横 14mの長方形コートで行う。
②試合は前後半制で行う。（１ゲームは　３分)。
③1 回のゴールで１得点とする。
④フィールドプレイヤーは４対４で行う。オフェンス専門プレイヤーを設置し,攻撃時は４対３のアウトナンバー制で行う。また,キーパーは他チームから出すようにする。
⑤攻撃はセンターラインに並んで,守備者にパスを出し,リターンしたところからスタートする。
⑥ゲームはパスのみで行い,ドリブルはできない。ピボットは認める。
⑦パスの回数の制限はない。
⑧パスをつなぎ,ゴールに向かってシュートし,ゴールネットに触れれば得点とする。
⑨ボールがコート外に出たときは,攻守交代をし,アウトになったラインからリスタートする。サイドラインの場合，フィールドプレイヤーから始める。エンドラインの場合,キーパーから始める。
⑩守備者はボール保持者に身体接触したり，ボール奪取をしたりしてはいけない。
⑪ボールはスポーツボール（8.5 インチ）を使用する。

表３　反則の種類

ラインクロス	フィールドプレイヤーがゴールエリアラインを踏み,エリア内に入る。
プッシング	相手を押し,突き飛ばす。
キック	ゴールキーパー以外のプレイヤーが足でボールを扱う。

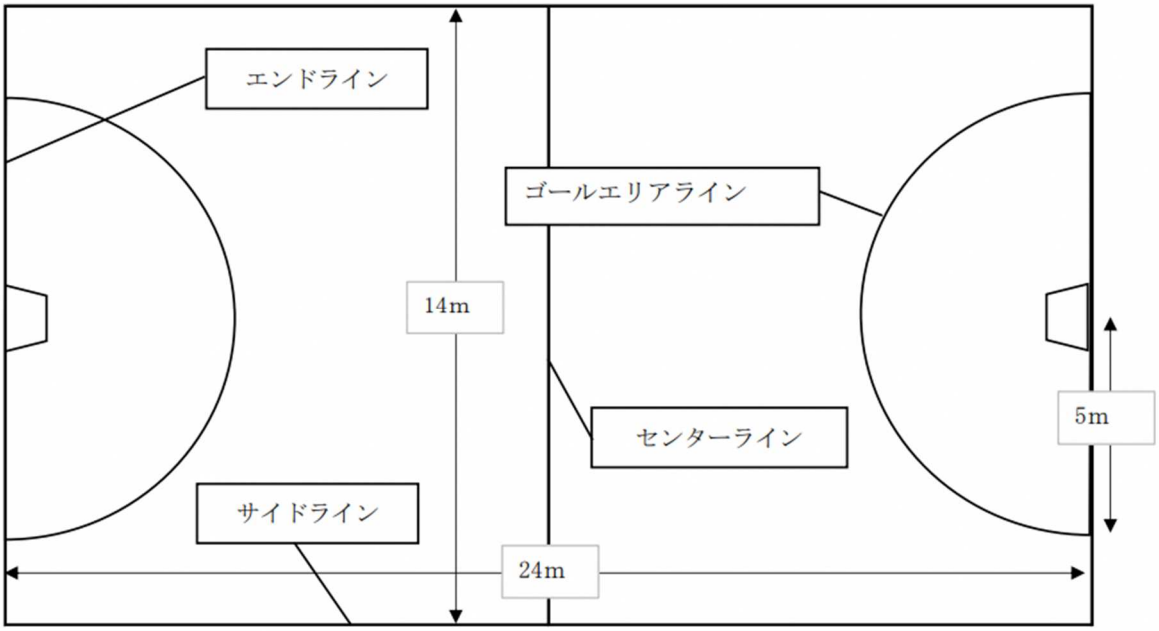


図２　メインゲームのコート

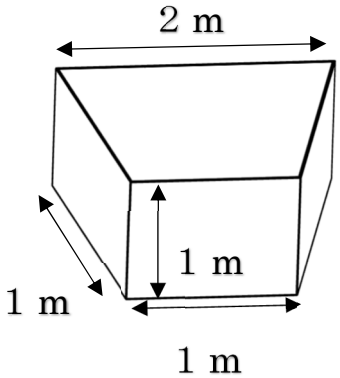
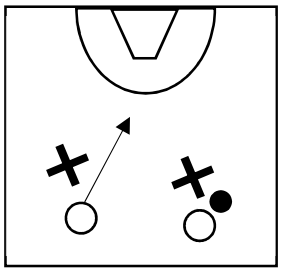
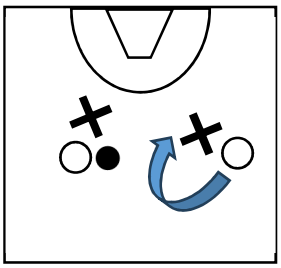
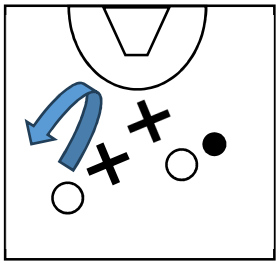
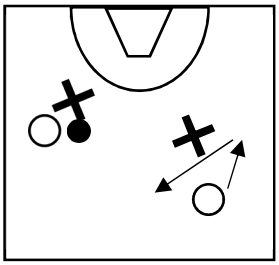
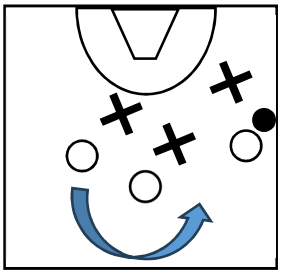


図３　ゴールの形状

（ウ）タスクゲームについて

タスクゲームとは,個人や集団の技術的・戦術的能力の育成を目的とした,課題の明確なミニゲームである。ゲーム形式でより「ボールのないときの動き」を意識させるための活動として３対１,３対２を行う。

表４　「ボールを持たないときの動き」の例

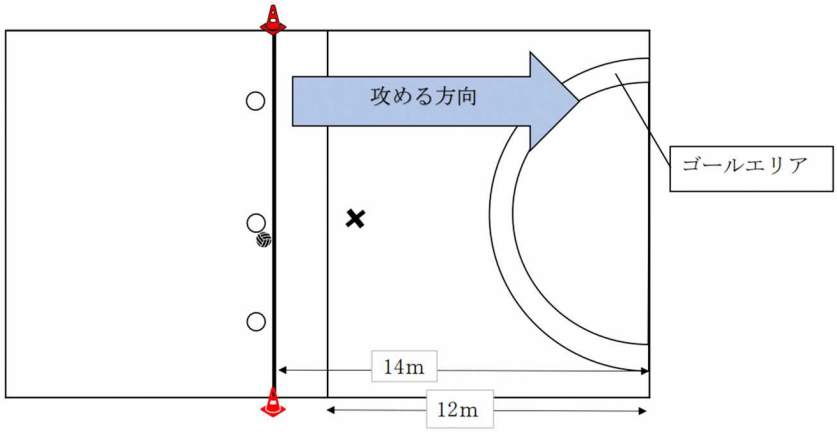
レベル１ （プレーヤーとゴールの関係）	①ゴールに向かって移動する。	
レベル２ （オフェンスプレイヤーとディフェンスプレイヤーとの関係）	②ボールサイドに移動する。	
	③ゴールと反対に移動する。（相手コートのゴールライン付近に至った上で）	
	④フェイントをかけて移動する。	
レベル３ （プレイヤー同士の関係）	⑤ディフェンスから離れて移動する。	

※○…オフェンス　×…ディフェンス　●…ボール

①3 対 1

ねらい	内容
・ボールを持たない選手が得点につながる適切なスペースに移動することでサポートし，効果的な位置取りやボールを持たない時の動きを習得させることを目指す。 ・数的優位で得点することができる嬉しさを味わわせる。	・１分で３人の攻撃側がハーフライン手前からゴールエリアを目指してボールを運ぶ。 ・1 人の守備者が攻撃を阻止するが，攻撃側はパスを使ってゴールエリアに入ると１０点。

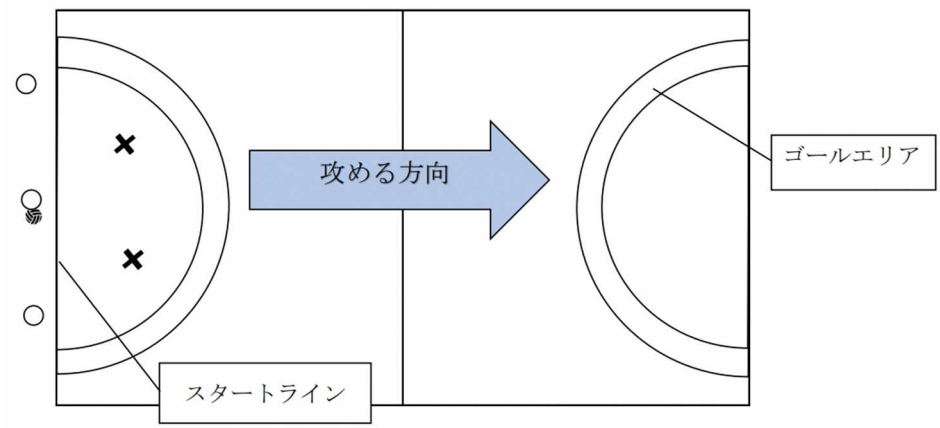
図



②3 対 2

ねらい	内容
・ボールを持たない選手が適切なスペースに移動することでサポートし，効果的な位置取りを学ぶ。これにより，ボールを持たない時の動きを習得し，よりメインゲームに近い状況で得点することを目指す。	・１分で３人の攻撃側がエンドラインからゴールエリアを目指してボールを運ぶ。 ・２人の守備者が攻撃を阻止するが，攻撃側はパスを使ってゴールエリアに入ると１０点。

図



（エ）ドリルゲームについて

ドリルゲームとは，ボールゲームにおける個人技能の習得を目的とし，主に記録達成を目指すゲームである。

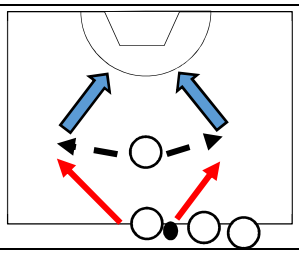
このゲームでは，パス・シュートの技能やボールを持たない時の動きに注目し，基本的な技能を磨くことを目指す。高橋ら[1]および岡田ら[2]の研究におけるドリルゲーム（①②）は，個々の技術向上やパス，キャッチの基本動作を磨くのに効果的であり，個人のスキルアップに適している。しかし，実戦的な要素が少ないため，フィジカルの強さを養う機会や守備の学びが限られる点が課題として挙げられる。

この点を補うために，タスクゲームの練習を加えている。

①パスキャッチ[1][2]

ねらい	内容
・パスの正確さや力加減を調整し，適切なボール操作の技能を高める。特に，ボール保持時の体の使い方や姿勢に注意し，安定したパス技術を習得する。 ・ボール操作の技能を高めたり，記録更新したりできるようにチームメイト同士のコミュニケーションを図る。	・20 秒間で前回よりもどれだけパスを続けられるか競う（ミスしてもそのまま続行）。 例：前回よりも 2 回増えた。→2 点 ・手のひらを胸の高さに構え，正しい姿勢でパスキャッチを行う。
図	

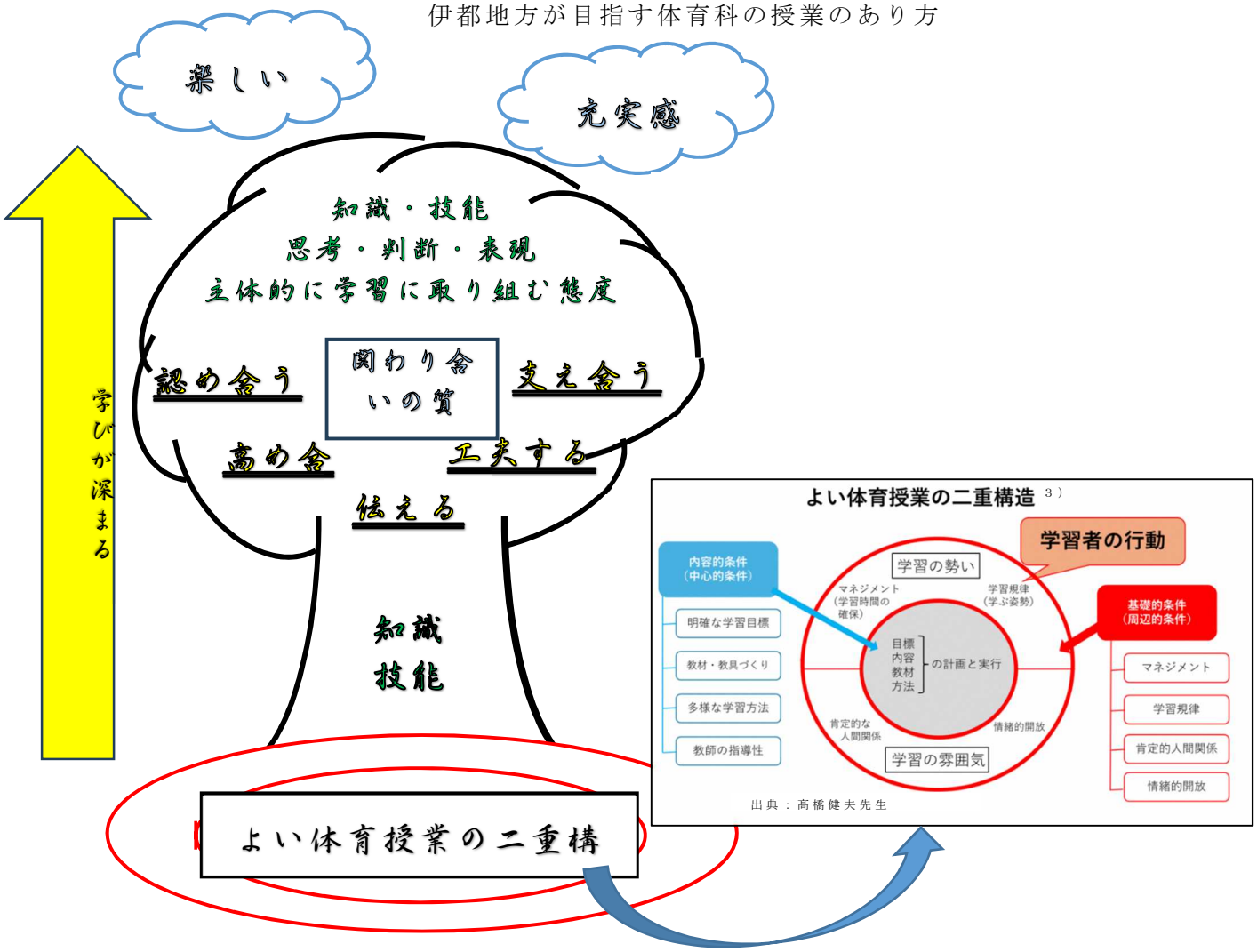
②パス＆ゴーシュート[1][2]

ねらい	内容
・力強いシュートを打つことで，シュートのパワーと精度を向上させる。試合に近い状況での反復練習を通じて，シュート技術を習得し，実践的な技能を身に付ける。 ・制限時間以内にどれだけシュートを決めることができるかを楽しむことができる。	・2 分間で前回よりもどれだけシュートを決められるか競う（ミスしてもそのまま続行）。 例：前回よりも 2 回増えた。→2 点 ・力強くシュートを打ち，精度と勢いを意識する。 ・チームでボールを急いで回し，パスからシュートまでの流れを素早く行う。 ・シューター→パサーの順に役割を交代しながら繰り返す。
図	
	

（オ）単元構成の提案

単元の前半に基本的な知識・技能を指導し,後半に話し合いを中心とした思考・判断・表現する活動（認め合う・高め合う・支え合う・伝える・工夫）を取り入れている。そうすることで児童が効率よく話し合い,関わり合いの質が高まり,児童が「楽しい」「もっとやってみたい」と充実感を持って体育学習に取り組むことができるのではないかという提案をしたい。

伊都地方が目指す体育科の授業のあり方



今回は,ゲーム中の活動時間の大部分を占める「ボールを持たないときの動き」に重点を置いた学習活動を行う。ハンドボールの授業を通して,得点やアシストをする過程で友達の良いところを見つけ,互いに認め合う楽しさを学ばせたい。

全 8 時間の授業計画では,前半に「技能習得のための活動」を中心に据え,後半には「自分の考えを相手に伝える力」を育む活動を取り入れている。本時の 4 時間目は,「技能習得のための活動」から「自分の考えを相手に伝える力」を育む活動へと移行する段階として位置づけている。

単元構成として,単元後半にメインゲームを設定したのは,ハンドボールを通して身に付けたい「ボールを持たないときの動き」の技能について,児童がその意味や意図を理解してから臨ませるためである。単元前半で学んだ技能の意味や意図を十分に理解した上で,攻守が入り乱れるメインゲームに取り組むことで,より実践的な学びが深まることを目指している。

3　指導と評価の計画（小学校・特別支援学校小学部用）　表５

単元の目標	知識及び技能	ハンドボールの基本的なルールや行い方を理解し,パスやシュートなどのボール操作とボールを持たないときの動きを意識して,簡易化されたゲームを行うことができるようにする。
	思考力,判断力,表現力等	ルールを工夫したり,チームの特性に応じた作戦を選んだりするとともに,自分や友達の考えを他の友達に明確に伝え合うことができるようにする。
	学びに向かう力,人間性等	ハンドボールに積極的に取り組む姿勢を持ち,ルールを守りながら助け合って運動しようとしていたり,勝敗を受け入れたり,チームメイトの考えや取り組みを認め,場や用具の安全に気を配りながら活動することができるようにする。

	時	1	2	3	④	5	6	7	8	授業づくりのポイント
ねらい		メイングームのルールを確認し,学習の見通しをもつことができる。	フリーの位置を見つけてボールをもらうことができる。	ボールをつなぐことができる。	ボールをつないで得点することができる。	チームで多様な攻め方を考えることができる。	チームで課題を設定し,改善点を見つけることができる。	チームの特性に合った攻め方を選ぶことができる。	勝敗に関わらず,ゲームを楽しむことができる。	【運動が苦手な児童への配慮】 ・簡単なボール操作や動きから始め,段階的に難易度を上げる。 ・パスやキャッチの基本を繰り返し練習し,成功体験を積ませるようにする。 ・子ども同士のアドバイスや肯定的な言葉をお互いに掛け合うことで運動を楽しめるようにする。 【タスクゲームの活用】 ３対１や３対２を通じて,数的優位やボールを持っていない時の動きを理解させるようにする。攻撃側と防御側の人数を変えることで,状況に応じた攻め方を考える力を養う。 【授業の振り返りと次回の見通しを持たせる】 各時間の最後に問いかけを行い,児童が自分の学びを振り返る機会を作る。
学習の流れ	0	１　整列,挨拶,健康観察　　２　準備運動（準備運動）								
	10	3 単元の学習内容,本時のめあての確認をする。 4 ルールを確認し,試しのメイングームをやってみる。 【３分×３回】 5 ドリルゲームの方法を確認しながらやってみる。	3　ドリルゲームをし,本時のめあてを確認する。 ・ペアでパスキャッチ（対面）【２０秒】×１ ・チームでパス＆ゴーシュート【２分】×２ 4 ３対１（タッチなし）のやり方を確認する。	4 ３対１（タッチあり）をする。 ①１分×４ 【兄弟チーム】 ②話し合い 【どうしたらボールをつなぐことができるのか？】 ③１分×４ 【兄弟チーム】	4 ３対２（タッチなし）をする。 ①１分×４ 【兄弟チーム】 ②話し合い 【どのような動きをすれば得点できるようになるのか？】 ③１分×４ 【兄弟チーム】	4 ３対２（タッチあり）をする。 ①話し合い 【自分たちの得意な動きは何か？】 ②１分×８ 【兄弟チーム】	4 メイングームをする。 【対戦チーム】 前後半戦で３試合をする。 前半 【２分】 インターバル＆作戦タイム 【５分】 後半 【２分】	4 メイングームをする。 【対戦チーム】 前後半戦で３試合をする。 前半 【３分】 インターバル＆作戦タイム 【４分】 後半 【３分】	3 本時のめあての確認する。 4 メイングームをする。 前後半戦で３試合をする。 前半 【３分】 インターバル＆作戦タイム 【４分】 後半 【３分】	
	20		5 ３対１（タッチなし）をする。 ①１分×４ 【兄弟チーム】 ②話し合い 【パスをもらうためにどのような動きをするか？】 ③１分×４ 【対戦チーム】							
	30			5 ３対２（タッチなし）のやり方を確認する。 １分×４		5 ３対２をする。 （タッチなし） ①１分×４ 【兄弟チーム】 キーパーあり				
	40									
	45	本時の振り返り・片付け・挨拶								

		1	2	3	4	5	6	7	8	評価方法
評価機会	知		②	①	③					観察,学習カード
	思					①	②			観察,学習カード
	態	③		④				②	①	観察,学習カード

単元の評価規準	知	①ハンドボールの行い方について,言ったり書いたりしている。 ②フリーの味方へのパスや相手に捕られない位置でのパスを受けて得点することができる。 ③ボール保持者と自己の間に守備者が入らない位置への移動をしたり,得点しやすい場所への移動をしたりすることができる。
	思	①ルールを工夫したり,自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだり,考えたりしている。 ②課題の解決のために自己や仲間の考えたことを他者に伝えたり,自分やチームメイトの動きの工夫について,友達に伝えたりしている。
	態	①簡易化されたゲームや練習に積極的に取り組もうとしている。 ②ゲームや練習の中で互いの動きを見合ったり,話し合ったりする際に,仲間の考えや取組を認めようとしている。 ③場の安全を確かめている。 ④ルールを守り,助け合って運動しようとしている。

※知…「知識・技能」,思…「思考・判断・表現」,態…「主体的に学習に取り組む態度」

４　本時について

（１）　目標

（知識及び技能）

ボール保持者と自己の間に守備者が入らない位置への移動をしたり,得点しやすい場所への移動をしたりすることができるようにする。

（思考力,判断力,表現力等）

課題解決のために自己や仲間の考えたことを他者に伝え,自分やチームメイトの動きの工夫について,友達に伝えることができるようにする。

（学びに向かう力,人間性等）

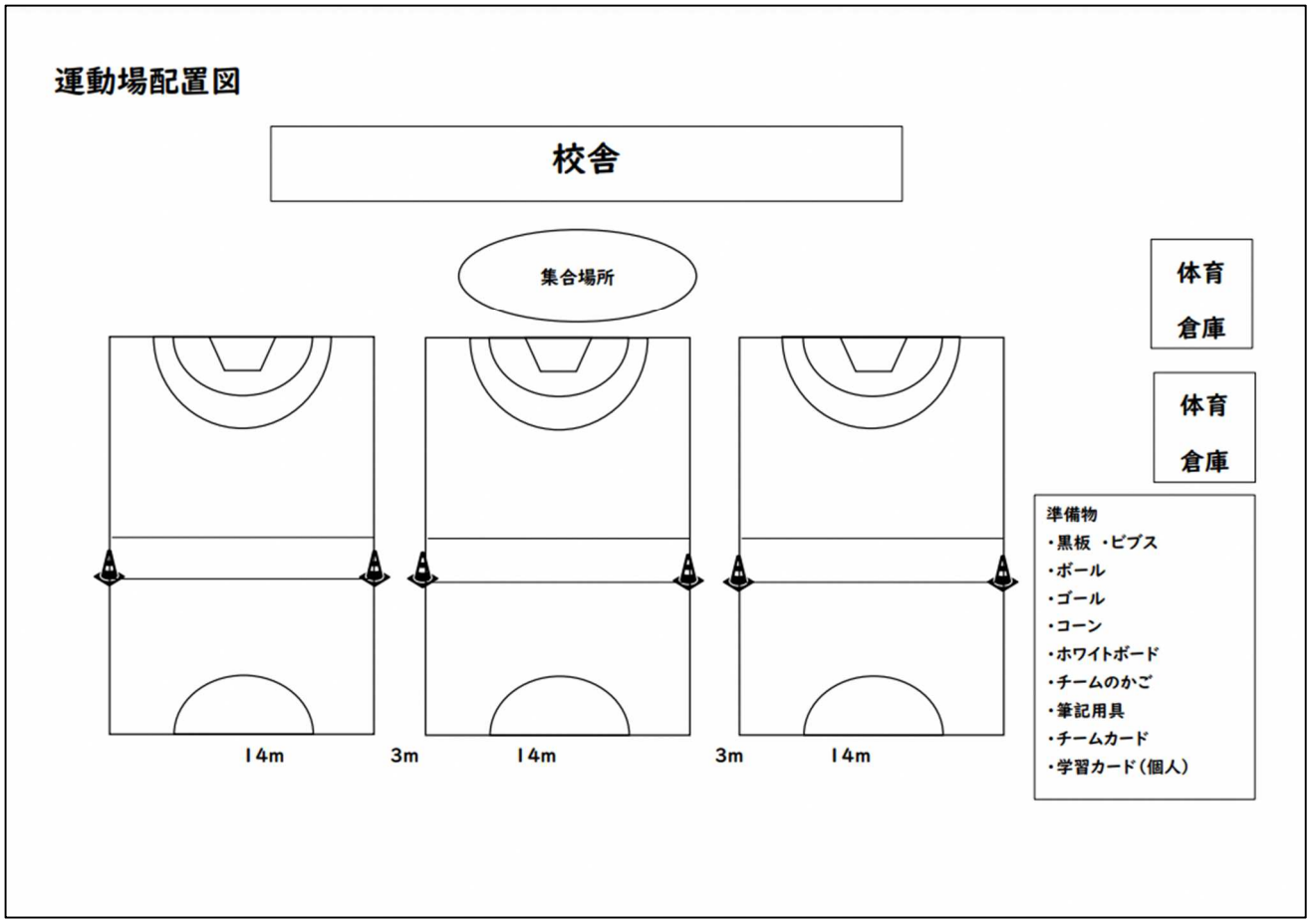
ゲームや練習の中で互いの動きを見合ったり,話し合ったりする際に,仲間の考えや取組を認めたりすることができるようにする。

（２）　展開（本時：４／８時）

	学習内容・活動	○授業者の指導・支援　☆評価
導入	**１場の準備をする。** ・ゴール,ボール,コーンを準備する。 **２準備運動をする** ・チームで準備体操をする。	○役割分担や安全な準備の仕方を確認する。 ○けがの防止のために適切な準備運動を行うように伝える。
展開	**３ドリルゲームをする。** ・パスキャッチ（２０秒×１） ・パス＆ゴーシュート（２分×２）	○安定したパス技能を習得できるよう,ボール保持者の体の使い方や姿勢を意識させるようにする。 ○前回より記録が伸びているか確認させるようにする。 ○キーパーを想定してコーンを配置する。
	４前時までの学習を全体で振り返り,本時の課題を確認する。	○めあてを示す。 ○前時までのボールを持たないときの動きを振り返らせるようにする。
	めあて：３対２でどのような動きをしたら得点できるようになるのか考えよう。	
	５兄弟チームと３対２をし,課題を明確にする。１分×４セット（２セットで攻守交替） ①コート　A 対 B ②コート　C 対 D ③コート　E 対 F	○前時に出た動きを思い出させながら各チームでテーマを決め,兄弟チームで共有し,取り組む視点をもたせるようにする。

	６　良かったところや難しかったことについて全体で考え,話し合う。 ・うまくいったことはありましたか。 →・ボールサイドに出て来たから得点できた。 →・前に空間を見つけて,走り込んだら得点できた。 →・ボールをもらいにいったから得点できた。 →・ディフェンスから離れて,動いたから得点できた。 **７　チームで話し合い,良かったところや改善すべき点をもとに攻め方を考える。** **・話し合ったことをもとに自分のチームでどういかせるか話し合ってみよう。** **８　話し合ったことから対戦チームと３対２の練習をする。１分×４セット（２セットで攻守交替）** ①コート　Ａ対Ｃ ②コート　Ｄ対Ｅ ③コート　Ｆ対Ｂ	○得点に至っているチームや得点できていなくて困っているチームの状況を取り上げて考えさせるようにする。 ○「ボールサイドに出る動き」「前の空間に走り込む動き」「ボールをもらいに来る動き」「ディフェンスから離れる動き」の視点を持たせるようにする。 ○自分たちのチームの話し合いに活かせるよう出た意見をホワイトボードにまとめる。 ○全体での話し合いからわかったことをもとに自チームの現状に合わせた攻め方を考えさせるようにする。 ☆ボール保持者と自分の間に守備者が入らない位置への移動をしたり,得点しやすい場所への移動をしたりすることができる。【知識・技能】 【観察・ワークシート】
まとめ	**９　学習を振り返る。** ・チームの活動を振り返る。 ・場の片づけをする。	○改善が見られたチームを取り上げたり,友達の動きの工夫を見つけたり児童の考えを取り上げたりして,称賛する。 ○友達と協力して片づけさせるようにする。

（３）場の設定



５　引用参考文献

１）岡田雄樹　末永祐介　高田大輔　白旗和也　髙橋健夫．ゴール型ボール運動教材としてのスリーサークルボールの有効性の検討―ゲームパフォーマンスの分析をとおして―．スポーツ教育学研究．2013,p.33

２）岡田雄樹　近藤智靖　末永祐介　宗像洋．小学校６年生の体育授業を対象としたハンドボールに対するスリーサークルボールの有効性の検討.日本体育大学スポーツ科学研究．2013,vol2,p.31－39

３）高橋健夫　岡出美則　友添秀則　岩田　靖．新版体育科教育学入門．2010,p.49

6　学習資料

めあて：3対2でどのような動きをしたら得点できるようになるのか考えよう。

【ボールを持っていないときの「これ大事！」】
- 前のスペースに飛び込む
- ディフェンスから離れる
- ボールサイドに出てくる
- もらいにくる

【大事なこと】
☆励まして、ほめて、学び合おう
☆できたことに目を向けよう
☆次にできることは何だろう

【今日の流れ】
①準備
②グループで体操
③パス・シュート練習
☆前回の記録を超えられるか？！
④ミニゲーム①【3対2】
※各チーム2セットずつ
※2セット終わったら交代
⑤レベルアップタイム
⑥ミニゲーム②【3対2】
⑦振り返り

（　）月（　）日

名前（　　）

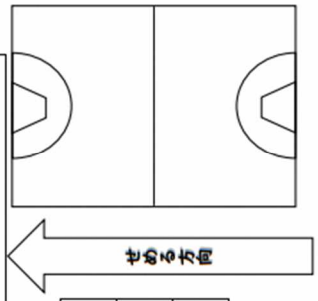
①今日のめあて

②今日のめあてを達成することができた。【O・△・×】

③全員が、今日の学習内容を「できる」ために、自分は友達と協力して学習に取り組むことができた。【O・△・×】

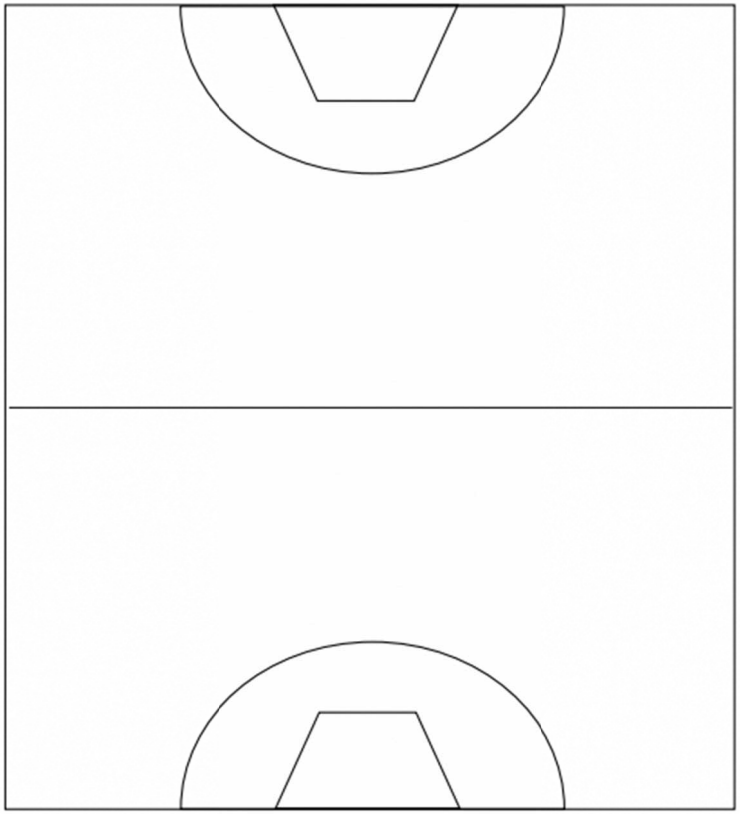
④全員が、今日の学習内容を「できる」ために、友達とどのような関わりをしましたか。

⑤学習に取り組む態度や様子について友達の「いいね！」を書きましょう。



⑥今日の学習で難しかったこと

攻め方（　　）



○…攻撃　×…守備　●…ボール

7　考察（成果と課題）

（１）児童アンケートからわかる取組の客観的な成果・分析

児童アンケート調査

	『はい』	どちらかといえば『はい』	どちらかといえば『いいえ』	『いいえ』
１.「ハンドボール」は楽しかったですか 。	７１％（１７人）	２１％（５人）	８％（２人）	０％（０人）
２.「ハンドボール」の学習で上手にできるようになったことがありますか。	６２．５％（１５人）	３７．５％（９人）	０％（０人）	０％（０人）
３．「ハンドボール」の学習で「なるほど。」「そうだったのか。」と感じたことがありますか。	８０％（１９％）	８％（２人）	８％（２人）	４％（１人）
４.「ハンドボール」の学習で考えたことを友達に伝えることができましたか。	５８％（１４人）	２５％（６人）	４％（１人）	１３％（３人）
５.「ハンドボール」の学習で友達と協力しあうことができましたか。	８７．５％（２１％）	１２．５％（３％）	０％（０％）	０％（０％）

・「ハンドボール」は楽しかったですか。という質問に対し、「はい」及び「どちらかといえば『はい』」と回答した児童の割合の合計が 92%（22 人）と高く,多くの児童がハンドボールの学習を楽しいと感じていることがわかる。授業への意欲が高まり,活動に積極的に参加する姿勢が育まれたと考えられる。

・上手にできるようになったことがありますか。という質問で,100%の児童が肯定的な回答をしている（「はい」62.5%,「どちらかといえば『はい』」37.5%）。技能習得を実感している児童が多く,授業での技能習得を目的としたドリルゲームやタスクゲームが効果的であったといえる。

・「なるほど」「そうだったのか」と感じたことがありますか。という質問に対し、肯定的な回答をした児童が 88%（21 人）にのぼり,学びの内容が児童に新たな気付きや発見を与えたことがわかる。学習の意図や目標を児童が理解し,それを実感できる形で授業が進められた成果である。

・友達と協力しあうことができましたか。という質問では,全児童が肯定的な回答をしている（「はい」87.5%,「どちらかといえば『はい』」12.5%）。チームプレイを重視した活動や話し合いの場を通じて,協力する楽しさを児童が実感できたと考えられる。

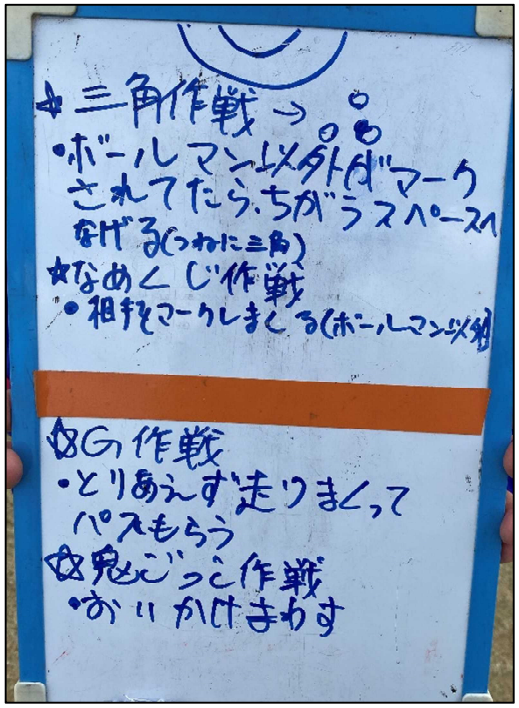
・考えたことを友達に伝えることができましたか。という質問では,肯定的な回答をした

児童の割合が 83%（20 人）にとどまり,13%（3 人）が「いいえ」と回答している。一部の児童において,考えを伝える場面や方法が不足していた可能性がある。また,自分の考えを伝えることに苦手意識をもつ児童へのサポートが課題として浮き彫りになった。
・「なるほど」「そうだったのか」と感じたことがあると回答した児童の割合は高いものの,一部の児童（12%）が否定的な回答だったことから,全員が学びの意図を共有できるような説明やフォローが必要である。
・「ハンドボール」は楽しかったですか。という質問に対し、肯定的な回答をした児童が大多数を占めるものの,「どちらかといえば『はい』」の割合が 21%（5 人）であり,完全には楽しさを実感できなかった児童も存在している。
・児童個々の興味関心や技能レベルに応じた配慮が,より多くの児童に楽しさを感じさせるために必要といえる。
　以上のことから,ハンドボールの授業は大多数の児童にとって楽しく,技能的な向上や新たな発見が得られる学びになっていることが示された。また,協力して活動する力が育まれている点も評価できる。一方で,自分の考えを伝える力や,全児童が楽しさや学びを均等に実感できる授業には改善の余地がある。今後は,個々の児童がより深く学びに参加できるよう,伝える力を育成する活動や,学びの意図を共有する仕組みを強化する必要があると考えられる。

（２）**課題解決のための学習形態の工夫**

①話し合い活動
　2 時間目から 6 時間目までの各時間で,自分たちのチームの課題を解決するための話し合い活動を実施した。全体での話し合いだけでなく,全体の話し合いで得られた気付きを基に,自分たちのチームでどのように生かすかを議論する時間も設けた。回数を重ねるごとに児童の話し合いは具体性を増し,より実践的な内容になっていった。

②ホワイトボードの活用
　文章での表現に課題を感じる児童が多かったため,ホワイトボードを活用し,図式化やキーワードの整理を行うことで,言語化を助ける手立てとした。ホワイトボードを用いることで,視覚的に学習内容を整理しやすくなり,児童が考えを共有しやすくなる効果が見られた。

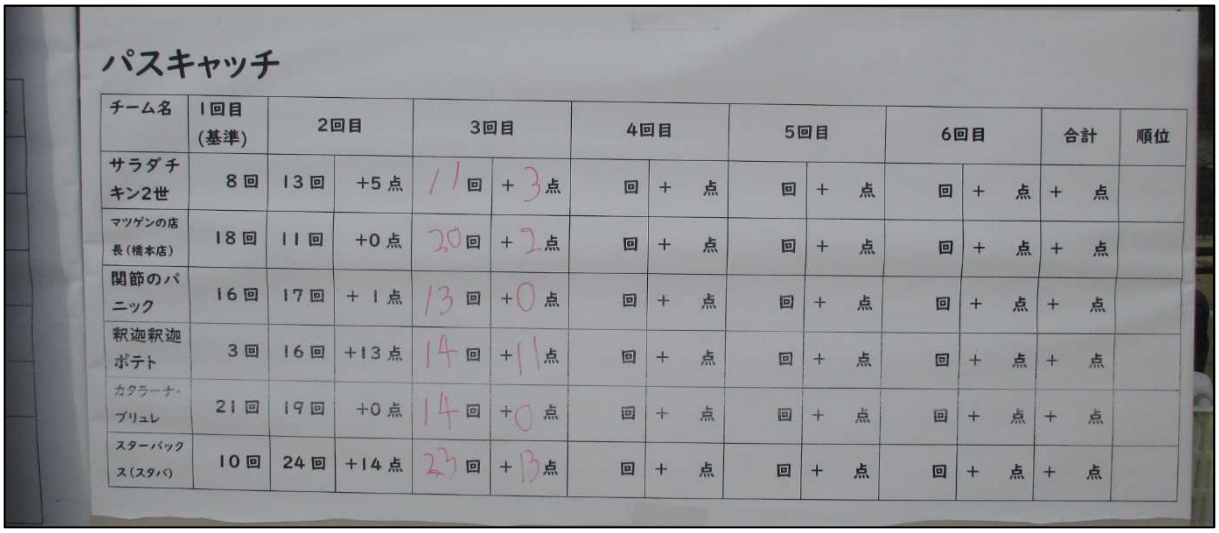


③ドリルゲームとタスクゲームの教材配置

今回は,単元全体でゲームを進めるのではなく,単元前半にタスクゲームを配置し,後半にメインゲームを設定した。これは,「知識と技能に基づく基礎がしっかりと身に付くことで,体育科の楽しさを実感できる」という仮説に基づく教材配置である。

タスクゲームでは,メインゲームにつながるような具体的なミニゲームを採用し,「ボールを持たないときの動き」を児童に意識させる内容とした。この配置により,児童が基礎的な技能を身に付けたうえで,実践的なメインゲームに取り組む流れを作ることができた。

ドリルゲームでは,児童が着実に知識や技能を習得していることを確認できるよう,記録する工夫を取り入れた。また,児童自身が進歩を実感できるよう,基準値に対してどれだけ投げたり,シュートしたりする力が向上しているかを可視化し,ドリルゲームの進め方を工夫した。この取り組みにより,児童は自身の成長を実感しながら,意欲的に活動に取り組むことができた。



パスキャッチ

チーム名	1回目(基準)	2回目		3回目		4回目		5回目		6回目		合計	順位
サラダチキン2世	8回	13回	+5点	11回	+3点	回	+点	回	+点	回	+点	+点	
マツゲンの店長(橋本店)	18回	11回	+0点	20回	+2点	回	+点	回	+点	回	+点	+点	
関節のパニック	16回	17回	+1点	13回	+0点	回	+点	回	+点	回	+点	+点	
釈迦釈迦ポテト	3回	16回	+13点	14回	+11点	回	+点	回	+点	回	+点	+点	
カタラーナ・ブリュレ	21回	19回	+0点	14回	+0点	回	+点	回	+点	回	+点	+点	
スターバックス(スタバ)	10回	24回	+14点	23回	+13点	回	+点	回	+点	回	+点	+点	

（３）**指導と評価の進め方について**

単元の前半に基本的な知識及び技能を指導し,後半に話し合いを中心とした思考力,判断力,表現力等に関する活動（認め合う・高め合う・支え合う・伝える・工夫）を取り入れた。そうすることで児童が効率よく話し合い,関わり合いの質が高まり,児童が「楽しい」「もっとやってみたい」と充実感をもって体育学習に取り組むことができるのではないかという仮説をもとに実践を行った。

今回は,ゲーム中の活動時間の大部分を占める「ボールを持たないときの動き」に重点を置いた学習活動を行った。全８時間の授業計画では,前半に「技能習得のための活動」を中心に据え,後半には「自分の考えを相手に伝える力」を育む活動を取り入れた。

単元構成として,単元後半にメインゲームを設定したのは,ハンドボールを通して身に付けたい「ボールを持たないときの動き」の技能について,児童がその意味や意図を理解してから臨ませるためである。単元前半で学んだ技能の意味や意図を十分に理解した上で,攻守が入り乱れるメインゲームに取り組むことで,より実践的な学びが深まることを目指した。

<u>【1時間目】ハンドボールのルールを知り,ゲームをやってみよう</u>

単元の学習内容と進め方を確認し,試しにゲームを行った中で,前に空間を見つけてボールをもらう動きをする児童や,早速作戦を立てるチームも見られた。児童からは「楽しい」といった声が上がり,これまでやったことのないスポーツへの期待感が感じられた一方で,「ルールが難しい」「連携が難しい」といった意見も出されたため,ゲーム中に必要に応じてルールの説明を行った。

その結果,ゲームの中で「パス」や「シュート」が特に重要であることを確認した。これを踏まえ,次時以降のドリルゲームでは,パスやシュートの回数で得点を獲得できる仕組みを取り入れ,児童が楽しく取り組めるよう工夫することとした。単元が始まったばかりで,声をかけ合う場面やシュートを狙う場面はまだ少なかったが,今後の成長に期待がもてるスタートとなった。

【2時間目】パスをもらうためにどのような動きをすればよいか考えよう

ドリルゲームの基準となる記録を測定したところ,チームによって結果にばらつきが見られ,特に制限時間内でのボール操作において,得意な児童と苦手な児童の差が大きいことが明らかになった。また,3対1の練習を実施した際,多くの児童が簡単だと感じる一方で,互いの距離が短くなりすぎてディフェンスしやすい状況が見られた。

さらに,「投げたい相手がいるが,ボールが届かない」という技能面の課題や,「裏を取ってボールをもらう」「ディフェンスから離れる」といった児童の発言があった。しかし,「空間を見つけて動く」といった動きの本質に関わる発言は見られなかった。そのため,具体的なシチュエーションを提示しながら,「空間を見つけて動く」ことを指導した。これを基に,第3時以降の学習では「ボールを持たないときの動き」を身に付ける活動を重点的に進めていくこととした。

【3時間目】どうしたらボールをつなぐことができるのか考えよう

パスキャッチでは,前回よりも記録が向上したチームも見られたが,パスゴーシュートでは記録を更新できたチームが少なかった。今回の3対1のタスクゲームでは,新たにタッチアウトルールを追加した。このルールにより,児童はボールを素早く出す必要が生じ,「ボールをもらいに行く」「ボール側に動く」といった動きが促されることを狙った。児童からは「相手が迫ってくるので急がなければならない」「相手が来てくれるのでどこにパスを出そうか迷うが,楽しい」といった発言があり,一定の課題意識をもたせることができたように思われる。

後半では,3対2をタッチなしで実施した。児童からは「難しい」「パスが回らない」「難易度が上がった」などの発言が見られ,ゲームの難しさを実感している様子がうかがえた。この第3時の活動を通じて,児童に「どうすれば得点できるのか」という課題を考えさせるきっかけを児童に与えるようにしたことで,本時の学習につなげることができたと考える。

【４時間目】３対２でどのような動きをすれば得点できるようになるのか考えよう

本時では,前回までの3対2の難しさを踏まえ,「どのようにしたら得点につなげられるのか」という課題意識を児童にもたせることを目的とした。また,これまで3対1の練習で培ってきた「ボールを持たない動き」をさらに発展させるため,「空間を見つけて走り込む」「ボールをもらいに来る」「ディフェンスから離れる」といったポイントを児童に意識させた。児童からはこれらの考えが出てきたものの,「ボールサイドに出てくる」という視点は見られなかったため,授業者から指導を行った。

以上の重要なポイントを押さえた上で,兄弟チームによる3対2のタスクゲームを実施した。今回はゴールへのシュートを省略し,ゴールエリアライン外側に得点エリアを設定することで,シュート技能に関わらず「ボールをどこに出すか」「どこで受け取るか」というゴールにつながるまでの動きを意識させるようにした。

ゲーム中,児童の動きには「空間を見つけて走り込む」「ボールをもらいに来る」「ディフェンスから離れる」「ボールサイドに出てくる」といった意識が見られる場

面が増えた。そのような動きが見えた際には,肯定的な声かけを行い,児童の意欲を高めた。

さらに,各試合後にアドバイスタイムを設け,兄弟チーム同士で攻め方に対するアドバイスや,良かった点を共有する時間を確保した。この活動を通じて,児童が互いに学び合い,次のゲームに向けた改善点を考える機会を設けた。

【５時間目】得点につながるような攻め方を３つ考えよう

協議会での振り返りを受け,授業の流れとルールを変更した。こどもたちに１５分間の持ち時間で１分１セットのミニゲームを何度もやってよいこととした。また,メインゲームへのつながりも考慮して「バウンドパスもあり」とした。このことによって,児童が自主的に運動に取り組め,タイムマネジメントの意識をもたせることができた。また,バウンドパスを許容したことによって各チームに攻撃の幅が広がり,得点につながる場面が増えた。

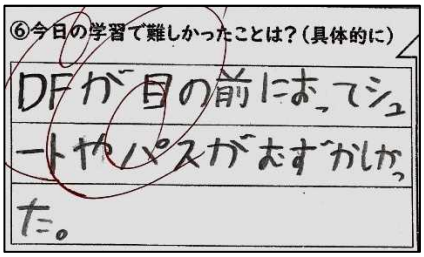
ホワイトボードを活用して,言語化するのが難しい児童が伝えたいことを表現することができるようにした。また,自分たちのチームの作戦を３つ立てさせるようにした。

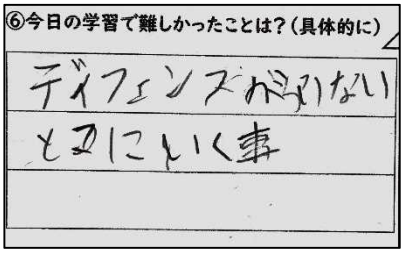
【６時間目】チームの改善点を見つけよう

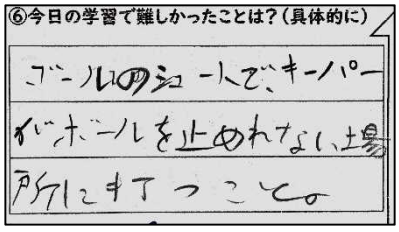
第６時では、メインゲームに取り組んだ。第１時以来のメインゲームであったが,多くの児童がルールに混乱することなく取り組むことができた。一方で,これまでの学習では攻守が入り混じった練習を行っていなかったため,難しさを感じる児童も一部見られた。

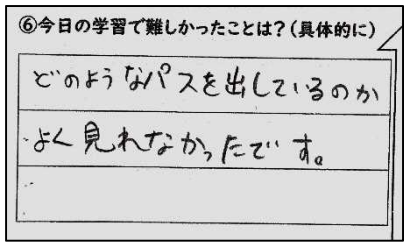
しかし,第１時と比較すると,児童の動きには大きな成長が見られた。これまで指導してきた「空間を見つけて走り込む」「ボールをもらいに来る」「ディフェンスから離れる」「ボールサイドに出てくる」といった動きが多く見られ,運動が苦手な児童もボールに対して積極的に動けるようになっていた点が特に印象的だった。

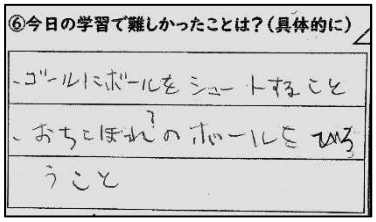
児童の振り返りでは,「ボールを持たないときの動き」に関する課題を挙げた児童は２人だけで,多くの児童は「シュートが入らない」「パスが通らない」といった技能的な面での課題を記述していた。これにより,「ボールを持たない動き」がある程度習得されている一方で,次のステップとして技能面の向上が必要であることが明らかになった。

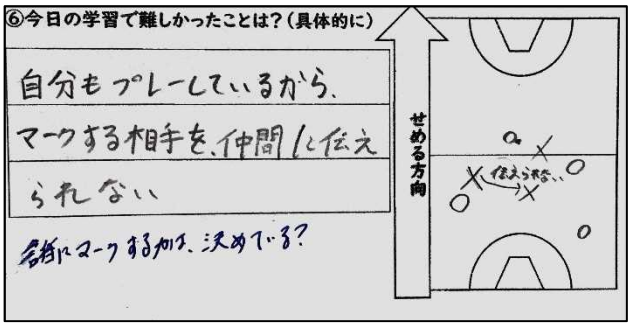








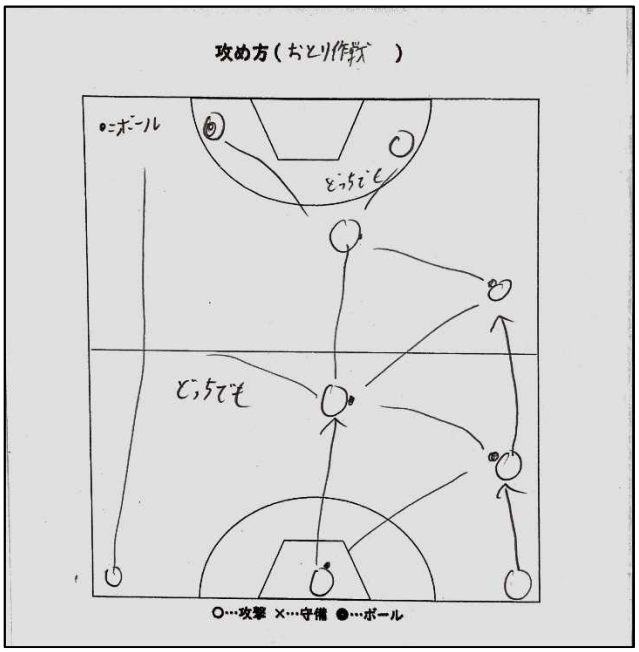


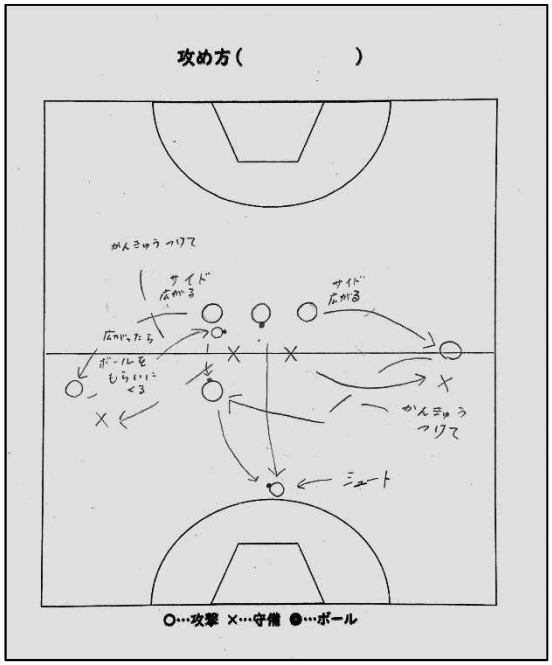


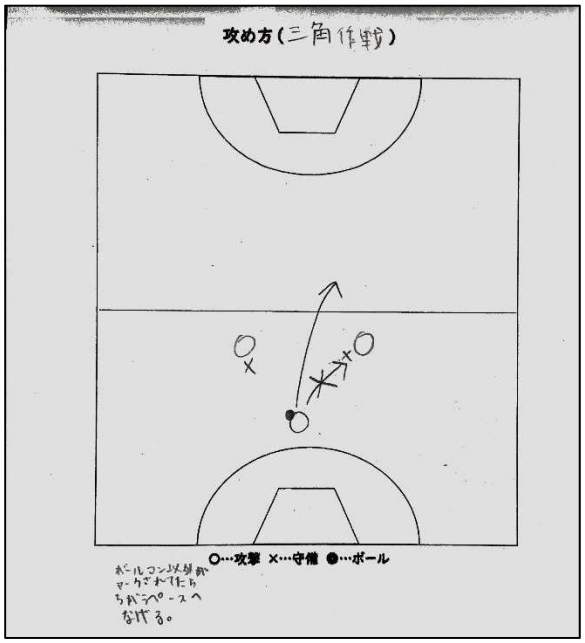
【７時間目】いろいろな攻め方を試してみよう

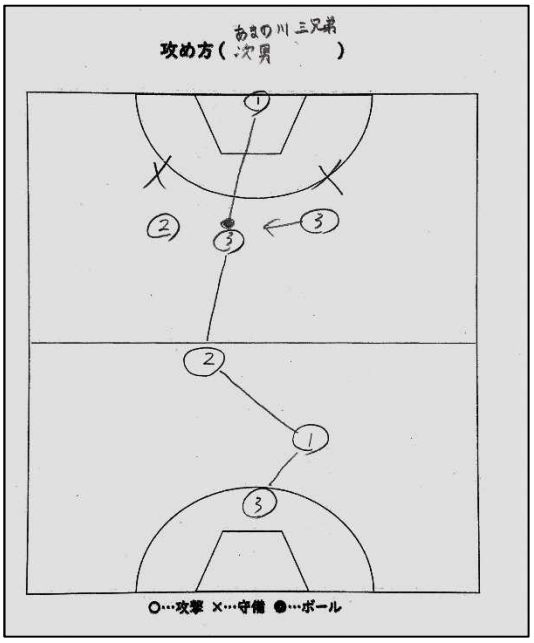
前時の振り返りで,児童から「ディフェンスとオフェンスの距離が近い」との意見が上がった。運動が得意な児童は距離が近くても問題ないと感じていたが,運動が苦手な児童からは「ディフェンスが近いことで投げにくさを感じる」との声があった。この課題を解決するため,「自分の腕を伸ばした距離よりも近づかない」というルールを追加し,メインゲームを進めることとした。

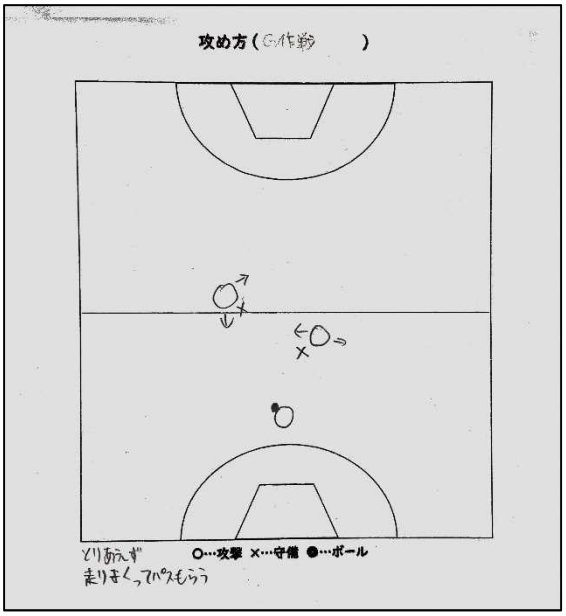
児童はこれまで蓄積してきた攻め方を生かしつつ,ゲームに取り組んでいたが,試合が進むにつれて作戦が流動的に変化していく様子が見られた。また,児童の試合への意欲はさらに高まり,「早くゲームをしたい」という声が多く聞かれ,積極的な姿勢が顕著であった。

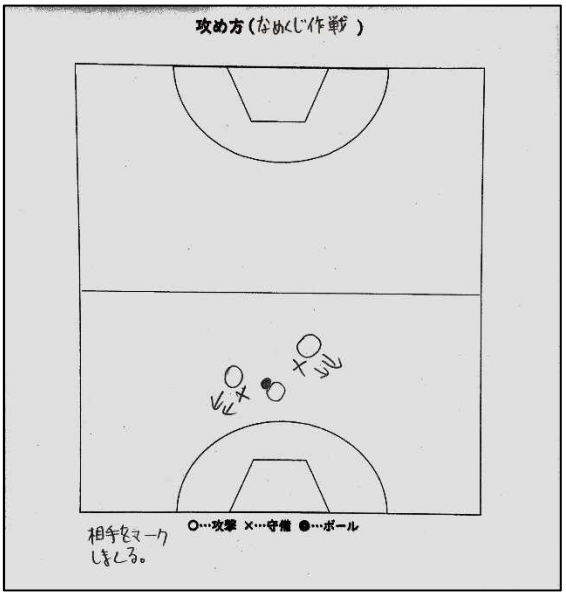


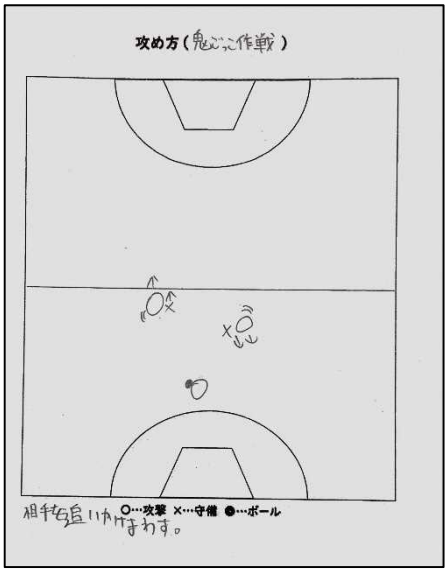



攻め方（三角作戦）
○…攻撃 ×…守備 ●…ボール
ボールコンジメが
マークされたら
ちがうペースへ
なげる。


攻め方（あまの川三兄弟 次男）
○…攻撃 ×…守備 ●…ボール


攻め方（G作戦）
○…攻撃 ×…守備 ●…ボール
とりあえず
走りまくってパスもらう


攻め方（なめくじ作戦）
○…攻撃 ×…守備 ●…ボール
相手をマーク
しきとる。


攻め方（鬼ごっこ作戦）
○…攻撃 ×…守備 ●…ボール
相手を追いかけまわす。

【８時間目】勝ち負けに関係なくゲームを楽しもう

第 7 時に続き,児童はゲームへの意欲が非常に高い様子を見せていた。ゲーム中では,互いに声を掛け合いながらボールをつなぎ,シュートまでつなげる場面が増えてきた。特に,前回以上に広い空間を活用した攻撃を行うチームが多く見られた点が印象的であった。

初回の試しゲームと比較すると,児童の動きのレベルは格段に向上しており,「ボールを持たない動き」や「空間の使い方」の習得が着実に進んでいることが感じられた。

最後の振り返りでは,「ボールを持たない動き」がこれから中学校での運動にもつながる重要なスキルであることを指導し,今後も意識して取り組むよう声を掛けた。児童の成長と意欲を確認できた単元の締めくくりとなった。

保健体育科学習指導案

日　時：令和６年１１月２２日（金）１３：３５～１４：２５	
場　所：かつらぎ町立妙寺中学校　体育館	
学　級：３年Ｂ組　２８名	
授業者：教諭　山本　優	

１　単元名　　Ｅ球技　ゴール型　バスケットボール

２　指導にあたって

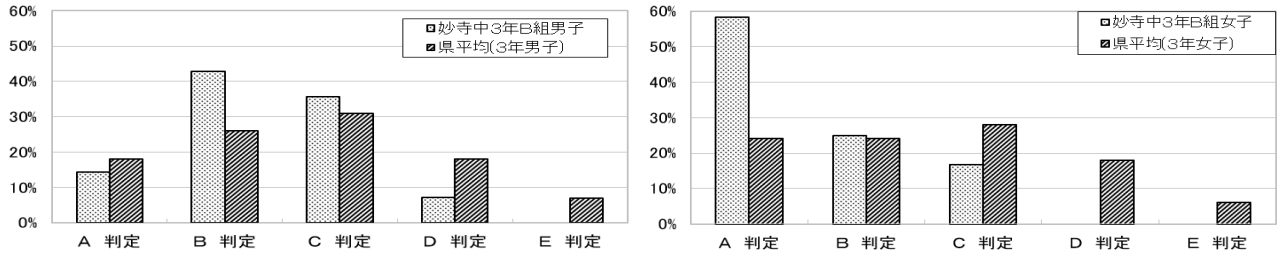
（１）生徒の実態（アンケート調査・体力・運動能力調査結果）から見えてくる課題

生徒アンケート調査

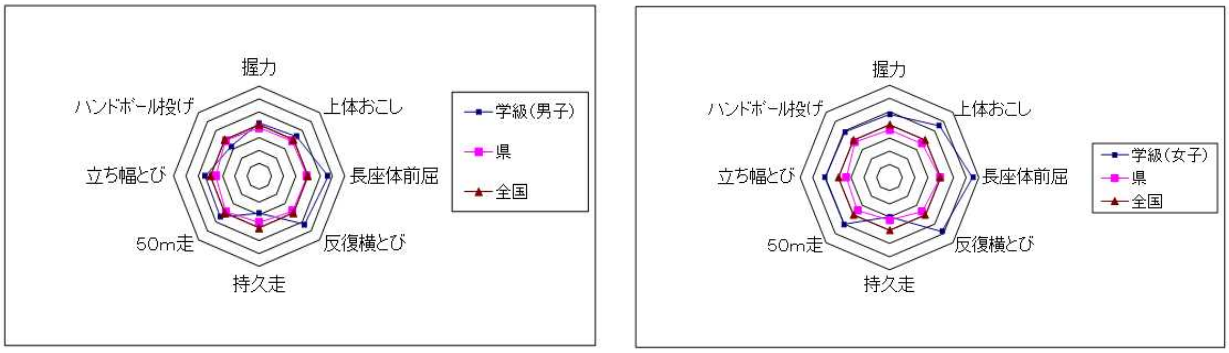
アンケート内容	はい	どちらかと言えば「はい」	どちらかと言えば「いいえ」	いいえ
体育の学習は好きですか？	６４％	２９％	５％	２％
体育学習は得意ですか？	２１％	４８％	２４％	７％
球技は得意ですか？	１７％	５０％	２６％	７％
３で『どちらかといえばいいえ』『いいえ』と答えた理由を教えてください。	・経験があまりないから、得意ではないから ・へたくそだから ・バレー、バスケなどの球技が苦手だから ・ボールが思った方向に飛んでいかないから ・バスケットボールなどが嫌いだから ・野球以外は体育でしかやったことがないから ・運動がそもそも苦手だから・あまり好きではないから			
『バスケットボール』は好きですか？	３８％	３１％	１９％	１２％
５で『どちらかといえばいいえ』『いいえ』と答えた理由を教えてください。	・難しいから ・あまり得意ではないから ・あまり楽しくないから ・苦手だから ・ドリブルが苦手で、チームに貢献できているか不安だから ・きつい ・興味がないから ・ルールが難しいから ・シュートをするのが苦手だから ・球技が苦手だから ・ケガしたくないから			

〈令和６年度児童生徒の体力・運動能力調査結果から見た生徒の実態〉

〔グラフ１〕判定別割合（男女別）



〔図１〕【Ｔスコアによる全国比較図（男女別）】



本学級は全国平均と比較して男子は、ハンドボール投げ、持久走では劣っているが、Ａ・Ｂ判定の生徒の割合は５８％と高く、全体的に上回っている項目が多い。

女子では、持久走を除く全てで全国平均を大きく上回っており、Ａ判定の生徒が全体の約６０％を占めており、運動能力はとても高い。また、男女ともに「長座体前屈」「反復横とび」が高いことから敏捷性・柔軟性が高いことが伺える。しかし、「持久走」の値が非常に低く、運動を持続する能力が課題である。

アンケート結果を見てみると、『体育の学習は好きですか』という問いについては、肯定的な回答をした生徒が９３％と多かった。また『体育の学習は得意ですか』という問いに関しても６９％の生徒が肯定的な回答をした。新体力テストの結果と合わせて考えると、運動が好きで得意な生徒が多いことが分かる。

『球技は得意ですか』『バスケットボールは得意ですか』の問いに対しては、約３０％の生徒が否定的な意見を持っており、その理由は、運動が苦手だから、苦手だから、ボールが思った方向に飛ばない、ドリブルが苦手、シュートが苦手など、基本的なボール操作に関する不安を一部の生徒が持っていることが分かった。

本単元では、安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きを学習に取り入れ、グループに合った作戦を仲間と考え、課題を見付けさせるようにする。また、発見した課題に対して、グループで練習内容を工夫させることで、仲間と連携したゲームを展開できる喜びと楽しさを味わわせたい。

（２）課題解決のための学習形態の工夫

球技は、ゴール型、ネット型及びベースボール型などから構成され、いずれも個人やチームの力を生かした作戦を立て、集団対集団、個人対個人で得点を競うことを通して楽しさや喜びを味わうことができる運動である。

バスケットボールは、その中でも「ゴール型」として位置づけられ、第１学年及び第２学年では、空間に仲間と連携して走り込み、マークをかわしてゴールの前での攻防を展開することをねらいとして授業を行った。そして、第３学年では、仲間と連携してゴール前の空間を使ったり、空間を作りだしたりして攻防をすることをねらいとしている。

単元序盤はパス、ドリブル、シュート練習を毎時間行い、基本技能向上につなげたい。また、２人対１人や３人対２人でのハーフコートでのゲームでは、人数有利の状況で「空間を作りだす動き」の練習をさせる。空間を作りだす動きについて、チーム間で話し合い、何度もチャレンジできる環境を設定する。

単元中盤からは、４人対４人や、５人対５人のゲームを行い、人数有利の状況で練習した空間を作りだす動きを、人数が同じ状況でも作りだすことができるか体験させる。チームでの話し合い活動を経て出てきた課題をどうすれば解決できるか考えさせる時間を設ける。

後半では、ドリブルやパスなどの基本技能と、人数有利の状況での空間作りのためのスクリーンの動きを復習させ、チームの課題を解決させるための練習に取り組むように指導する。すべてのプレーが一連の流れでつながっていることにも気付かせたい。そうすることで、自分や他者の違いに応じたプレーの選択や、仲間との学習の関わりを持つことで主体的な学習を深めていきたい。

安定したボール操作や空間を作りだすなどの動きを通して、勝敗を競う楽しさや喜びを味わいながら、バスケットボールを「する」、仲間や相手チームの動きを「見る」、仲間と協力したり助言したりして「支える」、バスケットボールの特性や名称、攻防を繰り広げるための動きを「知る」といった多様な関わり方の重要性に気付かせたい。

（３）指導と評価の在り方等

授業の流れを毎時間共通の形式として生徒が単元および授業の見通しを持ちやすいようにしている。これによりチーム活動の活発化をねらい、生徒同士の主体的な思考や表現による試行錯誤を観察して、思考・判断・表現及び主体的に学習に向かう態度の評価に繋げたい。また、段階的に発展するゲームを毎時同じ展開で取り入れた。単元を通して連続した流れの中で生徒の成長を見取り、評価につなげたり、個人やチームで前時に達成できなかった課題を発見して自己評価にもつなげたりしていきたい。

本時において、振り返りのワークシートを使用し、これまでの授業を通して作り上げてきた「空間を作りだす動き」についてまとめさせたい。また、自己の動きだけでなく、他者の動きにも着目させ、評価としての幅が広がるようにさせたい。

３　指導と評価の計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・【別紙様式参照】

３ 指導と評価の計画（中・高等学校、特別支援学校中学・高等部用）

単元の目標	知識及び技能	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。 ア ゴール型では、安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができるようにすることができるようにする。
	思考力、判断力、表現力等	攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
	学びに向かう力、人間性等	（球技に自主的に取り組むとともに）、（フェアなプレイを大切にしようとすること）、（作戦などについての話合いに貢献しようとすること）、（一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとすること）、互いに助け合い教え合おうとすること（など）や、健康・安全に気を配ることができるようにする。

時間	1	2	3	4	5	6（本時）	7	8	9	授業づくりのポイント
ねらい	流れをつかむ	ボール操作の習得	ゲームを通して仲間と話し合い、課題解決に向けて作戦を立てる。					チームで作戦を練り、ゲームを楽しむ。		・ゴール前の空間の攻防をめぐる学習に課題を追求しやすいようにプレイヤーの人数、コートの広さ、プレイ上の制限を工夫したゲームを取り入れる。 ・攻めのポイントを提示してわかりやすいようにしておく。
学習の流れ（0）	オリエンテーション	健康観察 ・ 本時のねらいの確認 ・ 準備運動								
学習の流れ（10）		ボール操作 ドリブル パス シュート		ボール操作 シュートなどの反復練習				チームでの課題 練習の選択 動きの確認	チームでの課題 練習の選択	
学習の流れ（20）		ボール操作 個々の能力を高める	タスクゲーム 人数・コート・ルール等の簡易化 空間を作りだす動き		課題の確認と解決の練習 空間を作りだす 仲間との共有 動きの確認			最終リーグ戦１	最終リーグ戦２	
学習の流れ（30）	既習事項の復習									
学習の流れ（40）									単元のまとめ	
学習の流れ（50）		学習の振り返り ・ 次時の確認								

評価機会	1	2	3	4	5	6	7	8	9	評価方法
知	①		①				②		総括的な評価	学習カード
技			①		②					観察
思				②		①		③		観察、学習カード
態		②					①			観察、学習カード

単元の評価規準	
知	①球技の各型の各種目において用いられる技術や戦術、作戦には名称があることを理解し、身に付けるためのポイントを言ったり書き出したりしている。 ②練習やゲーム中の技能を観察したり分析したりするには、自己観察や他者観察などの方法があることを言ったり書き出したりしている。
技	①ゴール前に広い空間を作りだすために、守備者を引きつけてゴールから離れることができる。 ②ボール保持者が進行できる空間を作りだすために、進行方向から離れることができる。
思	①自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術について自己の考えを伝えることができる。 ②チームで分担した役割に関する成果や改善すべきポイントについて、自己の活動を振り返っている。 ③自己やチームの課題解決に有効な練習方法を選択しつつ、仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている。
態	①互いに練習相手になったり仲間に助言したりして，互いに助け合い教え合おうとしている。 ②健康・安全を確保している。

※知…「知識」、技…「技能」、思…「思考・判断・表現」、態…「主体的に学習に取り組む態度」

4　本時について

（1）目標

・ゴール前に広い空間を作りだすために、守備者を引きつけてゴールから離れることができるようにする。（知識及び技能）

・自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術について自己の考えを伝え、課題解決に有効な練習方法を選択することができるようにする。（思考力、判断力、表現力等）

・互いに練習相手になったり仲間に助言したりして，互いに助け合い教え合おうとすることができるようにする。（学びに向かう力、人間性等）

（2）展開（本時：６／９時）

	学習内容・活動	○授業者の指導・支援　☆評価
導入	1　整列、準備運動（ランニング・体操・レイアップ）	
	2　挨拶、前回の復習 ・前回撮影した映像を観る。	○前回の振り返りを行い、本時の確認をする。
	3　本時の内容を確認する めあて　チームでシュートにつながる作戦を考えよう	
展開	4　各グループで作戦を確認する。	
	5　ゲーム①（３対２） ・ハーフコートで行う。 ・守備側にボールを保持されると攻守交替し元の位置からスタートをする。 ・パスを３回以上回してからシュートを打つようにする。 ・ボールを保持できるのは５秒以内とする。 ・待機しているグループはアドバイザーになる。	○レイアップシュートで終えるように意識させる。 ○タブレットで動きを撮影させる。
	6　各グループで課題を話し合う。 ・どうすればシュートにつなげられるのかを話し合い、作戦を立てる。	○人の動き、パスの速さ、空いているスペースに着目し作戦を考えさせる。 **☆自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術について自己の考えを伝えることができる。（観察・学習カード）** （思考・判断・表現）
	7　ゲーム②（３対２）	

	・ルールはゲーム①と同じ。 ・話し合った課題について、自分たちが考えた動きをする。	
まとめ	8　本時の振り返り、まとめ ・次の時間に向けた目標を考える。	

5　学習資料（添付）

3年　　組　　番 氏名

バスケットボール（6時間目）

【本時のねらい】

チームでシュートにつながる作戦について考えよう

【本時の流れ】

作戦の確認 → ゲーム① → 作戦の練り直し → ゲーム②

【考えよう①】（前回考えた作戦を確認しよう！）

【考えよう②】（作戦の振り返りをしよう！）

※人の動きやパスの速さについて考えてみよう！

【今日の一言】

できたこと！

できなかったこと！

６　考察（成果と課題）

（１）生徒アンケートからわかる取組の客観的な成果・分析

生徒アンケート調査

	『はい』	どちらかといえば『はい』	どちらかといえば『いいえ』	『いいえ』
１.「バスケットボール」は楽しかったですか 。	７５％	２５％	０％	０％
２.「バスケットボール」の学習で上手にできるようになったことがありますか。	４０％	４０％	１０％	１０％
３.「バスケットボール」の学習で「なるほど。」「そうだったのか。」と感じたことがありますか。	６０％	２０％	１０％	１０％
４.「バスケットボール」の学習で考えたことを友達に伝えることができましたか。	８０％	１５％	５％	０％
５.「バスケットボール」の学習で友達と協力しあうことができましたか。	８５％	１５％	０％	０％

本単元の事前アンケートでは、「バスケットボールは好きですか」の質問に「どちらかと言えば『いいえ』」、『いいえ』と答えた生徒を合わせて３１％いたが、単元終了後に実施したアンケートでの「バスケットボールは楽しかったですか」という質問に『はい』、「どちらかと言えば『はい』」と答えた生徒が１００％であった。これらのことから、苦手である生徒も自分ができることを見出し、仲間と協力して参加することの楽しさを味わうことができたと考えられる。また、事前アンケートの「バスケットボールが好きですか」という質問に対し、「どちらかといえば『いいえ』」、『いいえ』と答えた生徒の理由として、「ドリブルが苦手」や「シュートが苦手」、そもそも「球技が苦手だから」と答えた生徒がいたが、単元終了後のアンケートでの「バスケットボールの学習で上手にできるようになったことはありますか」という質問に対し、『はい』、「どちらかといえば『はい』」と答えた生徒が８０％もいた。これは、シュートやドリブルなどの個人技能が向上しただけでなく、空間を作りだすための動きなどの仲間と連携したプレーがあることに気付き取り組めたのだと考える。しかし、「バスケットボールの学習で、考えたことを友達に伝えることができましたか」という質問に「どちらかといえば『いいえ』」と答えた生徒が５％いたことから、理解を深めることができず、自分の考えに自信がない、あるいは考えをもつことができなかったのではないかと考える。

ただ、バスケットボールに前向きに参加できていた生徒が多く、仲間と協力することで、

自分のグループだけでなくクラス全体で向上心をもって取り組むことができていたと考える。

（２）生徒が、主体的に学習に取り組めるような授業づくりや学習形態の工夫点について

今回行った授業では、どのようにすれば空間を作りだしシュートを打つことができるのかを、各チームで作戦を考えさせるようにした。自分たちで選んだ作戦がスムーズに行えているか、また、チームに合った作戦であるかを客観的に見せるために動画撮影し、見返すことでチームの動きを共有させた。その後、新たな作戦を立てる際には、全員から意見が出てくるように雰囲気づくりをしてきたが、中にはバスケットボール部の生徒に作戦を委ねるチームもあったので、全員が常に主体的に取り組むことができていたかは疑問が残るところもあった。

ただ、本単元の３時間目以降は同じチームで課題解決に取り組んできたために、自分たちの課題が何なのかを明確にしていくことができ、解決に向けての話し合いがスムーズに行われていたように感じる。

（３）指導と評価の進め方について

バスケットボールが苦手だという生徒も含めて、全員が積極的に授業に参加できるようにすることが重要だと考え、単元計画を作成した。ボールを保持しているプレイヤーの個人技能だけでなく、ボールを持っていないプレイヤーの動きも重要であることを模範動画をみせながら理解させるようにした。その動きを習得していく中で、プレイヤーそれぞれに役割があることを実感させ、「自分もチームに貢献できる」と生徒たちの意欲向上に繋げた。

毎時間、授業の初めに目標達成するためにどうすればよいかを考えさせ、それを実行し試行錯誤を繰り返す場面を設定した。生徒の動きを映像で残すことで、自分たちが見返して自己評価でき、授業後に回収することで生徒の学びを見取ることができ、効率の良い評価に繋がった。授業の最後に、実際に考えたことを実行してみてどうだったかを振り返えさせ、自らの個人課題と、チームの課題に向き合わせた。そのワークシートを毎時間ファイルに綴じて回収することで、生徒たちが自らの課題をどのように解決しようとしているのか、個人の考えを評価することができた。

保健体育科学習指導案

日　時：令和６年１０月１１日（金）１３：２５～１４：１５	
場　所：和歌山県立粉河高等学校　体育館	
学　級：１年４５６７組（女子２３名）	
授業者：教諭　板谷　沙緒里	

１　単元名　球技（ネット型）「バレーボール」

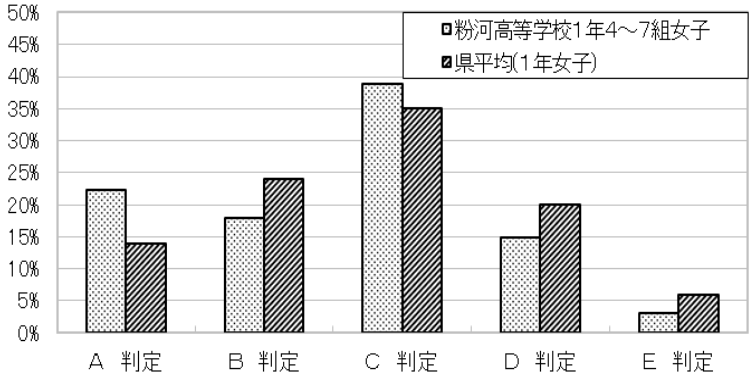
２　指導にあたって

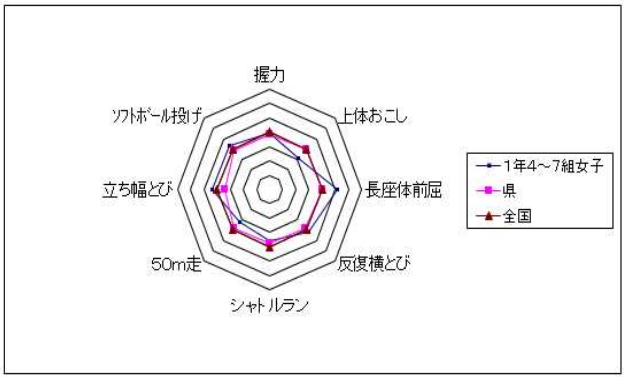
（１）生徒の実態（アンケート調査、体力・運動能力調査結果）から見えてくる課題

生徒アンケート調査

アンケート内容	『はい』	どちらかといえば『はい』	どちらかといえば『いいえ』	『いいえ』
1.体育学習は好きですか	9	5	5	1
2.体育学習は得意ですか	3	6	6	5
3.今回学習する「球技」は好きですか	8	6	2	4
4.3.で「どちらかといえばいいえ」「いいえ」と答えた生徒の理由	理由　むずかしい！！！／好きやけどどんくさいから。／痛いから。／とにかくボールコントロールとかボールの動きの予測とかボールを見て動くのが苦手／運動が苦手だから。／ボールを上手にコントロールすることができなくて変な方向に行ってしまうから。			
5.今回学習する「バレーボール」は好きですか	１２	5	3	0
6.5.で「どちらかといえばいいえ」「いいえ」と答えた生徒の理由	理由　サーブが難しくて入らないから。／授業自体は楽しかった思い出はあるけれど、球技というのに苦手イメージがある。／球技で中学でやったことがあるけど、あまり上手にできなかったから。			

〔令和６年度生徒の体力・運動能力調査結果からみた生徒の実態〕





体力・運動能力調査結果をみると、長座体前屈が県・全国の平均を大きく上回り、柔軟性はかなり高いが、５０ｍ走・上体おこしで下回り、筋力と瞬発力が不足しているようである。しかし、判定別割合をみるとＣ判定の次にＡ判定の割合が多く、運動能力は高い方であると思われる。新体力テストを実施した時期が、入学してすぐの測定ということもあり、今後の体育授業の活動内容によっては、体力の向上に繋がる可能性を秘めていると考えている。今回のバレーボールの授業全体を通して、全身を大きく使った運動が筋力強化に繋がるよう心がけたい。

生徒へのアンケート調査の結果を見ると、「体育学習が好きですか」という質問に対し、『はい』「どちらかと言えば『はい』」と回答した生徒が半数以上だったが、「体育学習は得意ですか」問いには、どちらかと言えば『いいえ』、『いいえ』と回答した生徒が半数以上いた。バレーボールを含む球技全般について、ボール（球）をうまく扱えないことから生まれる球技への苦手意識が強いようである。球技は、直接ボールを保持できる場合や用具を使用してコントロールする場合もある。その中でも特にボールを保持できないという難しさがあるバレーボールだが、この集団に限ると、バレーボールの印象は全体的に良いようである。上記のアンケート調査は、バレーボール授業の１時間目に行ったものであるが、それまでに球技「ソフトテニス」の授業を一定時間行ってからの調査である。

（２）課題解決のための学習形態の工夫

特に女子は普段から体を動かさない傾向にあり、週に２時間の体育では、継続して技能を習得するのは難しいのではないかと感じている。途中に学校行事等が入り、週に２時間のところが１時間に、もしくは０時間となり、二週間ぐらいのブランクができてしまい、なかなか技能を習得するに至らない。しかし、中学校である程度の技能の習得がなされているとした上で、体力向上を目指しつつ、「思考力、判断力、表現力等」がしっかりと身に付く高校生という年齢に合わせた学習形態にしたい。具体的には、周囲の人々との調和を図りつつ、言葉や表情で相手に物事を伝える機会を多くつくり、生徒同士の気遣いや遠慮も乗り越えさせたい。各個人によって思考や体力に差があることを認識した上で、学習した技能や知識を基に個人や集団の課題を発見し、解決する糸口を見出せるような意識を育てたい。なお、これらの力には「学びに向かう力、人間性等」の涵養があって初めて身に付くものであると考えているため、同時に常に指導していきたい。

（３）指導と評価の計画における工夫

本校生徒の実態を踏まえ、まずは毎時間の活動について運動量を確保し、体力の向上が図ることができるよう計画している。異常な気候が続き、体調管理において心配な点もあるが、しっかりと汗を流し、体力をつけさせたい。次に、集団の中で人間関係を築くことが不得意な生徒が多いため、ペアで課題を発見したり、チームの課題を話し合ったりする際に、自分の意見や考えを相手に上手に伝えるという機会を、タイミングを見て随所に設けたい。

活動時間を多く確保した上で、ペアやチームで話し合う、個人の課題を考察する機会も設定したいため、チーム課題は基本的に授業内で解決を図り、ふりかえり等の個人課題についてのワークシートは Office365Forms を活用する。本校では学校全体で Teams を使用しており、生徒はタブレットの扱いに慣れているため、容易に導入しやすいことも背景にある。

3　指導と評価の計画

単元の目標	知識及び技能	次の運動について、（勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、）技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。
	思考力、判断力、表現力等	攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
	学びに向かう力、人間性等	球技に自主的に取り組むとともに、（フェアなプレイを大切にしようとすること、）作戦などについての話合いに貢献しようとすること、（一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとすること、）（互いに助け合い教え合おうとすること）（など）や、健康・安全を確保することができるようにする。

時間		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	授業づくりのポイント
学習の流れ	0	本時学習の見通しの確認・準備運動・健康観察														・毎時間の活動にしっかりと運動量を確保し、体力の維持向上に努める。 ・毎時間、タブレット（Forms）にて振り返りをさせ、次時の活動に活かせるよう意識づける。 ・チーム活動を通して、周囲の人々との調和を図りつつ、言葉や表情で相手に物事を伝える機会を多くつくる。
	10	オリエンテーション	基礎運動（ボール活動）					チーム活動 作戦会議								
			アンダーハンドパス	パス練習	サーブ練習	パス練習	パス練習	チーム練習								
	20	基礎運動（ボール活動）				サーブ練習	ネット際	ゲーム（特別ルール）			ゲーム（通常ルール）					
	30		オーバーハンドパス													
	40		円陣パス	円陣パス	ゲーム（簡易ルール）			チーム活動 改善							単元ふりかえり	
	50	整理運動・ふりかえり・次時の確認														

評価機会		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	評価方法
	知		(①)										①		②	観察・ワークシート
	技				(①)		(③)	①	(②)			③		②		テスト・観察
	思								①	②						ワークシート・観察
	態					③					②		①			観察・ワークシート

単元の評価規準		
	知	①バレーボールの技術や戦術（作戦）を知ることで、ゲーム中の攻防に活かすことができると理解している。 ②個人やチームの課題を分析し練習を繰り返すことで、体力を高めることに繋がっていることを理解している。
	技	①ねらった場所にサービスを打つことができる。 ②味方の動きに合わせてコートの空いた場所へ移動するなどして攻防をサポートすることができる。 ③ネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりできる。
	思	①自己やチームの課題について、成果と課題を発見し、書き出している。 ②課題解決に向けた練習方法や作戦について自分の考えを伝えている。
	態	①学習に主体的に取り組もうとしている。 ②作戦などの話合いに貢献しようとしている。 ③健康・安全を確保している。

４　本時について

（１）目標

（知識及び技能）バレーボールの技術や戦術（作戦）を知ることで、ゲーム中の攻防に活かすことができると理解するとともに、**ネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりできるようにする。**

（思考力、判断力、表現力等）課題解決に向けた練習方法や作戦について自分の考えを伝えることができるようにする。

（学びに向かう力、人間性等）健康・安全を確保しながら互いに助け合うことができるようにする。

（２）展開（本時：６／１４時）

	学習内容・活動	○授業者の指導・支援　☆評価
導入	1.準備・整列・点呼 2.本時のねらい説明 3.準備体操	 ○前回までのふりかえりと本時の活動について確認する
展開	4.基礎運動（ボール活動） 5.ネット際のボールを扱う ・アタック（攻撃）跳ぶタイミングやボールに触れるタイミングを練習する ・ブロック（防御）跳ぶタイミングやボールに触れるタイミングを練習する 6.チームで相談し、アタックとブロックのタイミングを調整し、実践してみる 7.ゲーム（簡易ルール） ・ネット際の攻防を活かしたゲームを行う	 ○ネット際のボールの扱いについて説明する ○周囲の安全に留意する ○実践後、各チームで工夫しているところを全体で共有させるようにする。 ○修得した技術を活かせるよう支援する。 ☆ネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりできる。（技能③に向けた指導）
まとめ	8.片付け・整理体操 9.本時のまとめ ・タブレットを活用し、Forms に回答する	○けが有無の確認 ○本時の総括をする。

６　考察（成果と課題）

（１）生徒アンケートからわかる取組の客観的な成果・分析

生徒アンケート調査

アンケート内容	『はい』	どちらかといえば『はい』	どちらかといえば『いいえ』	『いいえ』
1.「バレーボール」は楽しかったですか	１６	4	0	0
2.「バレーボール」の学習で上手にできるようになったことがありますか	１３	6	1	0
3.「バレーボール」の学習で「なるほど」「そうだったのか」と感じたことがありますか	１５	4	1	0
4.「バレーボール」の学習で考えたことを友達に伝えることができましたか	8	8	4	0
5.「バレーボール」の学習で友達と協力しあうことができましたか	１８	2	0	0
6. 体育学習は好きですか	９（９）	７（５）	３（５）	１（１）
7. 球技は好きですか	６（８）	６（６）	３（２）	５（４）
8. バレーボールは好きですか	１０（１２）	９（５）	１（３）	０（０）

＊設問 6.7.8（　）内は単元開始時の回答数

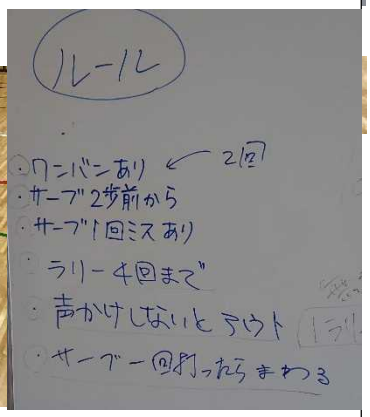
回答した生徒の全員がバレーボールは基本的に「楽しかった」と回答した。最初はぎこちなかった生徒間の関係も、授業が進むにつれ、お互い気軽に声をかけられるようになっていったことも「楽しかった」と回答した要因の一つだろう。設問 2･3 の回答では、ほとんどの生徒が技術の向上や、学習における気付きや学びを実感したと考えられる。実際にゲームを通して生徒の学びが深まっていることが見てとれた。これらの学びも設問１の「楽しかった」に繋がっていると考えられる。しかし、設問４で、自身の考えたことをうまく仲間に伝えられなかった生徒が４名いたことは課題である。授業内で話し合う機会を多めに設けたつもりであるが、更なる工夫が必要であると考える。設問 6･7･8 は単元開始時にとったアンケートと同様の設問とし、比較してみたが、球技が好きかどうかの問いには「いいえ」の回答が多くなってしまった。それでもバレーボールが好きかどうかについては、「はい」の回答が多くなったことは、授業の成果でもあると考える。

また、自由記述の感想については、全員が肯定的な感想であった。技術面でできるようになったことや、仲間との関わりが深まったこという感想も多かった。

（２）課題解決のための学習形態の工夫

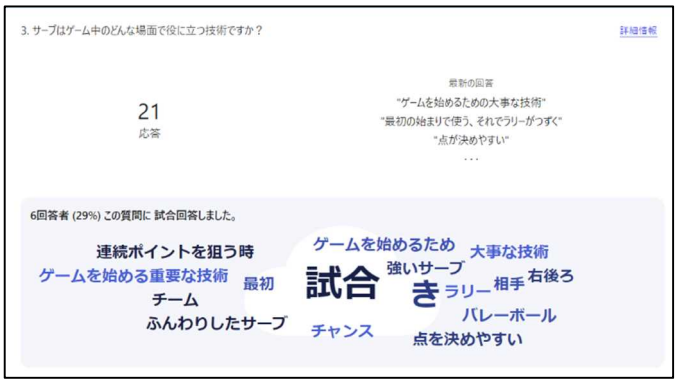
①チーム編成の仕方：単元を通して、自分たちで自由にチーム編成をさせたり、くじを引いたり、レクリエーション的にチーム分けを行った。これらの基準は、生徒間の関係性を見ながら、生徒に意見を聞くなどし、状況に応じて教員で判断した。途中、自由なチームの方がうまくいったりいかなかったりと、状況に応じてチーム編成の仕方を変えることも大切であると生徒が気づくことができた様子がみられた。

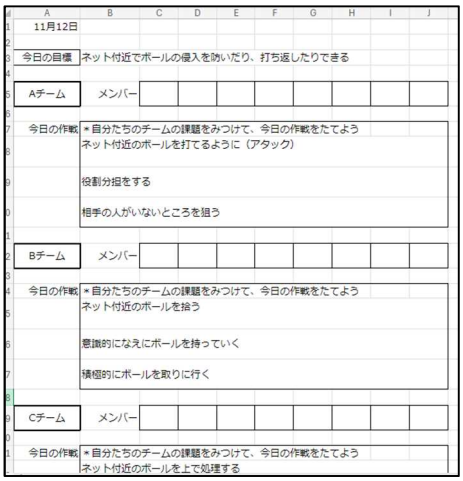
②ルールの工夫：一番初めのゲームは、正規ルールで実施し、サーブが入らない、誰も打ち返せない、繋がらない、といったゲームの難しさを体験させた。その後の２回分は、こちらが提示した簡易ルールを採用し、ゲームをさせたところ、ルールを変更するだけで以前よりサーブが入る、ボールが繋がる、という実感が沸いたようだ。その後は、各チームでルールを考え、全体に提案し、採用したルールに乗っ取ってゲームを展開するということを繰り返した。毎回同じルールもあれば、時間が進むにつれ正規のルールに近づけてみようとチャレンジしたルールもあったが、実際はうまくいかず、「全員が参加できる楽しいゲーム」でなくなったため、次の時間には以前のルールに戻すということもあった。



採用したルールの中で特に「ボールをワンバウンドで拾ってOK」というルールは、ボールが繋がりゲームが楽しくなることに大きく影響した。そして単純にボールを拾えるだけでなく、自分の立っている場所から、ボールの落下地点に動いて拾えるようになり、その後、ワンバウンドならば自分もつなげられるかもしれないという考えが生まれ、他の生徒が「ボールを持たないときの動き」として、ボールが来る前に動き始める準備をし始めるようになった。これらは、こちらの予想を上回った結果となり、学習を通して、自分たちで相談してルール等の工夫をすれば、誰もが楽しめるスポーツになるということを、学びとれたと確信している。

③ＩＣＴ活用：タブレットを活用し、チームで作戦を立てる際に共有のシートに他チームの入力を見ながらオンラインで記入させた。作戦のためではなく、あくまで各チーム課題解決のヒントになるよう共有させた。また、アンケートや日々の振り返り、各技能の知識･理解を問うワークシートも、Office365Forms を活用した。生徒にタブレット活用について聞いたところ、メリットとして、チームのみんなで情報共有ができることや、自分のペースで細かいところまで振り返りができたり、授業外でも確認したり回答したりできること等があがった。デメリットとして、タブレットを忘れてしまうことと、Wi-Fi 環境の悪さがあがってきた。また、紙ベースのワークシートより扱いやすく、集計や評価についてもスムーズに行うことができ、教員の業務削減に繋がった。





④対話の機会：ペアでアドバイスし合う機会や、チームで話し合う機会をなるべく多く設定した。また、話合う際には、固定の生徒が発言するだけでなく、チーム内で全員の声が聞けるよう促した。しかし、アンケートの結果では自分の考えたことをうまく伝える事ができなかった生徒が数名いた。伝え方の方法が発言以外にもあったのではないかと課題が残った。最終的には教員の支援に頼らず、自分で思考・判断し、それを他者に伝える力を身につけ、実践できるようになってもらいたい。今後も多くの対話時間を設けたい。

⑤運動量の確保：単元の前半では基礎練習の時間も多くとれ、たくさんのボールを使用しての活動が生徒の運動量確保に繋がっていたが、チームで作戦会議をおこない、ルールを考案するなどの時間による運動量の低下が懸念された。生徒が学習の流れに慣れてきたので、経過時間を知らせるなどし、活動を促したため活動時間は何とか確保できていた。ただし、対話の機会や、思考する時間が充分にとれたかどうかについては不安の残る状況であった。

（３）指導と評価の進め方について

「学習内容を明確にした授業展開により、生徒が身に付けた力を見取ることができる授業づくり」を意識しながら、指導と評価の計画を立てた。各授業の最初にホワイトボードを利用し、本時の目標を書き出し、見通しをたてて授業に臨むようにした。最後の振り返りを毎回タブレットで簡易に行えた結果、生徒一人ひとりの課題意識の設定が安易になったと感じる。目標に設定した内容を指導し、指導したことを評価するということを授業者側がはっきりと意識し、生徒も意識しながら授業に取り組むことで、一つの目標に集中して授業に臨めていたと感じる。全体的にうまくいかない状況であっても、この時間はまず今日の目標を目指せば良い、という趣旨の言葉がよく聞かれた。評価をする際にも、生徒が身に付けた力を見取ることができる状況が自然とつくられ、観察しながらの評価がしやすかった。終盤は通常のルールでゲームをする予定であったが、生徒の実態に合わせて、生徒が考えたルールに沿ってゲームを進める形に変更した。発言する生徒に自然と賛同する周囲の生徒という関係性が生まれ、生徒が一体となって授業を進めていく雰囲気になっていったことに、大きな達成感を感じた。

また、ＩＣＴの活用により、生徒の知識理解度や、思考・表現の深まりなどが即座にわかり、評価のしやすさに繋がった。生徒個人の課題やチームとしての成果や課題の発見にも大きく貢献できたと思う。

（４）その他

授業研究会では、各校種の先生方から公開授業について協議して頂き、当該授業展開の中で教員側の指導や支援について、足らなかった部分や今後工夫できるポイントを知ることができ、実際にその後に授業に取り入れた。

今回の取組において、和歌山大学教育学部の村瀬教授にご助言頂いたことで、単なる体育の指導ではなく、授業の中で生徒一人ひとりが自分たちで手立てを考える力を身につけさせるために、もっと違った視点も多く取り入れて、授業の工夫改善をしていくことの大切さを学ぶことができた。具体的には、ルール等を工夫することで、男女問わず誰もがゲームに参加することができたり、コート内の手の届く範囲だけの状況から、立っているだけの時間を少なくして、目に見えないところを考えて想像して動いたりするという思考力・判断力を身につけられるようにするなど、最終的に生徒たちに身につけさせたい力を想定しながら、その目的に近づける課程が重要であるということがわかった。研究協議の際の指導助言にあった、「体育の中にある様々な差を活かした、差を包括できる教材づくり」ということを意識しながら、生徒の実態に合わせた授業の工夫に今後とも積極的に取り組んでいきたい。

体育科学習指導案

日　　時：	令和６年１１月２０日（水）１３：００～１３：４０
場　　所：	和歌山県立たちばな支援学校　体育館
学部学級：	中学部　知的障害学級第１、２、３学年男女２１名
授 業 者：	教諭　東谷　和彦

１　単元名　　器械運動「マット運動」

２　指導にあたって

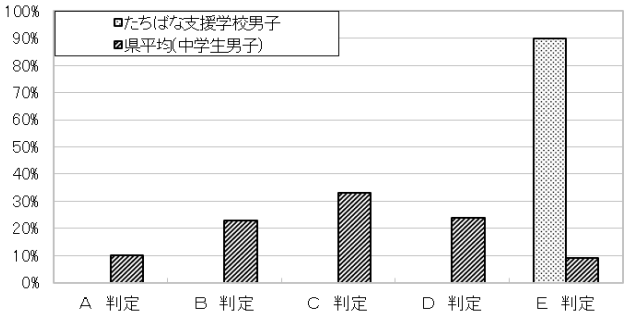
（１）生徒の実態（アンケート調査、体力・運動能力調査結果）から見えてくる課題

生徒アンケート調査(21 名)

アンケート内容	『はい』	どちらかといえば『はい』	どちらかといえば『いいえ』	『いいえ』
１.体育学習は好きですか	１１	8	1	1
２.体育学習は得意ですか	4	１０	4	3
３.今回学習する「器械運動」は好きですか	6	6	5	4
４.３で「どちらかといえばいいえ」「いいえ」と答えた児童生徒の理由	理由 ・運動が苦手だから。 ・器械運動全てが苦手だから。 ・鉄棒が苦手だから。 ・鉄棒で頭から落ちた経験があるから怖い。 ・身体が硬いから。 ・上手くいかないから。 ・イメージしにくいから。			
５.今回学習する「器械運動・マット運動」は好きですか	7	5	4	5
６.５で「どちらかといえばいいえ」「いいえ」と答えた児童生徒の理由	理由 ・苦手だから。 ・得意じゃないから。 ・身体が硬いから。 ・やりにくいから。 ・転がるのが、きついから。 ・側転がすごく怖いから。			
７.やってみたい技はありますか	技名 ・前転 ・後転 ・開脚前転 ・開脚後転 ・側転 ・倒立前転			

〔令和６年度児童生徒の体力・運動能力調査結果から見た実態〕

〔グラフ 1〕判定別割合（男子）



生徒の実態から課題を考察するにあたり、女子生徒は人数が２名ということで、個人が特定される可能性を考慮し、判定別割合（女子）及び、T スコア（男女）を掲載していない。ただし、以後回答人数を示す際には、合計数に男女とも累計した数を載せている。本授業に参加する生徒は全員が新体力テストでＥ判定を受けており、体力や運動能力の面では県平均を下回っている。しかし、体育学習に対するアンケート調査では、「体育学習が好きか」という質問に『どちらかといえば「はい」』『はい』と答えた生徒が１９名いることから身体を動かすことに対し、好意的に捉えていると考えられる。その中で今回学ぶ「マット運動は好きですか」という質問に『どちらかといえば「はい」』『はい』と答えた生徒が１２名いた。反面、「どちらかといえば『いいえ』」『いいえ』と答えた生徒が９名いた。体育は好きだが、器械運動に限定すると、「好き」と感じる生徒数が減少した。質問内容４・６の理由として「できない」や「苦手」、「こわい」というイメージから「好きではない」という回答になっていると考えられる。

上記のアンケート調査から、本対象グループは「体育」には好意的な考えをもっている集団であり、身体の使い方を学べれば、苦手意識のある器械運動にも積極的に取り組めるようになる集団であると考えられる。そのためマット運動の楽しさを仲間と一緒に味わい、仲間と共に課題を考えたり克服したりする過程を繰り返すことで自己肯定感や自己有用感を高め、技を習得するという成功体験に繋げることが理想的だと考える。

（２）課題解決のための学習形態の工夫　等

本対象グループは、発達の段階に幅があり、個別に支援を必要とする生徒もいる。また、器械運動では、技が「できた・できない」ということが生徒にとって最も大きな関心事であり、特に「できない」という感覚が運動に対する苦手意識やつまらなさに直結しやすい。そのため、教師が一方的に指示を与えて授業を進めるのではなく、生徒が自ら課題に気付き、解決に向けて考えて取り組む機会を設けることが重要である。また、一人で考えたり、教師から一方的な指導を受けたりするのではなく、仲間と課題を共有して克服することを目指し、それを達成することができることを期待して、グループ学習を設定した。グルーピングをする際には「学力」、「運動能力」、「コミュニケーション能力」、「生徒同士の相性」など複数の要素を考慮し、生徒同士で自ら学習を深めていけるグループとなるよう 4～5 名程度の班を編成した。授業では、iPad を活用してグループ内で動画を撮影して生徒同士が互いの動きを確認し合い、フィードバックを行える場を設定する。動画を確認する時の視点として、『開始（勢いを付ける）』、『途中（勢いを維持する）』、『最後（ブレーキをかける）』と動作別に注目させた上で技の全体像を理解させるようにする。加えて、グループ活動では、技に繋がる動作を習得させるため、遊び感覚で取り組ませ、生徒が楽しみながら目標に向けた動き（感覚を掴む）を引き出せるように工夫している。また、二人一組（グループにより三人一組もあり得る）で行う発表では、動きをシンクロさせることを目標にする。運動が得意な生徒は、自分のやりたい技だけに取り組むのではなく、相手の特性に気付き２人で一緒にできる技を考えること、互いに協力して動きを合わせたりすること、また技の習得に向けた話し合いを行ったりすることで、協調性と主体性の育成を促していきたい。これにより、生徒は仲間との交流を通じて、主体的かつ対話的に技の習得を目指すことができると考える。

授業では、技の見本動画に普段関わっている教師を複数名登場させ、マット運動に対して親しみやすさや安心感を持たせる工夫を施している。

３　指導と評価の計画・・・・・・・・・・・・・・・・・【別紙様式参照】

３ 指導と評価の計画（中・高等学校、特別支援学校中学・高等部用）

単元の目標	知識及び技能	マット運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方が分かり、基本的な動きや技を身に付けることができるようにする。
	思考力、判断力、表現力等	マット運動についての自分や仲間の課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えることができるようにする。
	学びに向かう力、人間性等	マット運動に進んで取り組み、きまりを守り、友達と協力したり、場の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動ができるようにする。

時間		1	2	3	4	5(本時)	6	授業づくりのポイント
		一次		二次			三次	・簡単な技や難易度の高い技を普段関わりのある教師が見本を見せて紹介することで、「これならできる」や「やってみたい」と思える気持ちを引き出せるようにする。 ・活動グループは運動の得意さなどに偏りが無いようにし、かつ友達との相性や言語力、学力面なども加味して編成する。 ・「自分は他の人よりマット運動ができた」や、「自分だけみんなよりマット運動ができなかった」などの気持ちより、「友達と一緒に学習して技ができるようになった」と肯定的に自己評価や他者評価をしたり達成感を味わえるようにICTを取り入れた練習やペア発表を行う。 ・教師が指導や状況把握がしやすいよう扇状にマットを配置する。
学習の流れ	0	1.単元の学習の流れを確認する。 2.マット運動を安全に行うためにマットのセット方法や服装、ストレッチをする理由について考える。	1.マットの準備　準備運動　2.本時のめあての確認					
	10		3.グループごとに練習内容とお互いの係（練習する順番や動画を撮影する順番など）の確認					
	15		4.グループ内で順番に練習する。 ①練習 ②グループ内で意見の出し合い ③再度同じ人が練習 ④別の人が練習	4.グループ内のペア同士で練習をする。 ①ペアで練習 ②グループ内で意見の出し合い ③再度同じ人が練習 ④別のペアが練習	4.グループ内のペア同士で練習をする。 ①ペアで練習 ②グループ内で意見の出し合い ③再度同じ人が練習 ④別のペアが練習	4.グループ内のペア同士で練習をする。 ①ペアで練習 ②グループ内で意見の出し合い ③再度同じ人が練習 ④別のペアが練習	4.グループ内で発表に向けた練習をする。 5.グループ内で決めた発表ペア順にそれぞれ発表する。	
						片付けと学習の振り返りを行う。		
	40	3.グループ別にマットを準備し環境を整える。	5.ペア（トリオ）決め		5.発表する技を決める			
	50	片付けと学習の振り返りを行う。					片付けと学習の振り返りを行う。	

評価機会		1	2	3	4	5	6	評価方法
	知	②	①②		②		①	観察・カード・ICT
	技		①	①		①		観察・カード・ICT
	思		①	①	①	①		観察・ICT
	態	②	①②		③			観察

単元の評価規準		
	知	①挑戦した技の楽しさや喜びを味わえたことについて、言ったり書き出したりしている。 ②技の動きにポイントがあることを知り、学習した具体例を挙げている。
	技	①マットに身体が着く順序や位置、動かす身体の部位などを考えながら技に取り組むことができる。
	思	①自分や友達の動きを動画で見ながら課題を見付け、改善策を考えたり、工夫している。またそれらの中から代表的なことを活動の最後に発表している。
	態	①マット周辺を移動するときはあらかじめ決められた動線を守っている。 ②ケガ予防のために柔軟体操を授業の前後で仲間と一緒に行おうとしている。 ③発表に向けて仲間と楽しみながら発表内容を決めようとしている。

※知…「知識」、技…「技能」、思…「思考・判断・表現」、態…「主体的に学習に取り組む態度」

４　本時について

（１）　目標

（知識及び技能）

マットに身体が着く順序や位置、動かす身体の部位などを考えながら技に取り組むことができるようにする。

（思考力、判断力、表現力等）

自分や友達の動きを動画で見ながら課題を見付け、改善策を考えたり、工夫することができるようにする。また、それらを自分の言葉で表現できるようにする。

（学びに向かう力、人間性等）

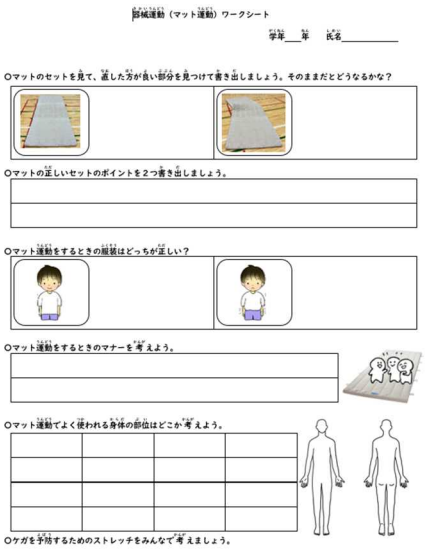
マット運動の発表に向けて仲間と楽しみながら活動内容の工夫をしたり練習に取り組んだりできるようにする。

（２）　展開（本時：５／６時）

	学習内容・活動	○授業者の指導・支援及び評価（☆）
導入	１.挨拶、ねらい、予定の確認 本時の流れ及びねらいの確認をする。 予定の確認 ストレッチ	○学習の流れを説明して、授業に見通しがもてるようにする ○ねらいを伝え、共有する。
	本時のねらい：ペアの動きに合わせて技の練習をしよう。	
展開	２.準備体操（基礎運動） 丸太転がり ゆりかご→ゆりかごタッチ（ペア） 背支持倒立→（チョキ、パー） だるま転がり カエルジャンプ 壁倒立 3.班別に練習（ペア練習） 練習する人（ペア）、動画を撮影する。人、見る人に分かれて順番に練習する。 ①発表する技をペアで練習する。 ②iPad で撮影した動画を見て改善点を話し合う。 ③話し合いで出た改善点を基に再度練習する。 ④別のペアが練習する。 ②、③を行い④に進む。	○授業者が動きの見本を見せて同じ動きを班で順番に取り組ませる。 **☆マットに身体が着く順序や位置、動かす身体の部位などを考えながら技に取り組むことができる。（技）** **☆自分や友達の動きを動画で見ながら課題を見付け、改善策を考えたり、工夫したりしている。また、それらを自分の言葉で表現している。（思・表・判）** ○個別支援・指導が必要な生徒は授業者が練習の補助をする。

まとめ	６.振り返り 　ペアごとに練習した際の気付きポイントを考える。 7.あいさつ・片付け 　班で使用したマットを片付ける。	○班に１つずつ配ったホワイトボードに練習時に出された意見を記入させる。 **☆自分の言葉で表現している。（思・表・判）**

５　学習資料（添付）


器械運動（マット運動）ワークシート

学年＿年　氏名＿＿＿＿

○マットのセットを見て、直した方が良い部分を見つけて書き出しましょう。そのままだとどうなるかな？

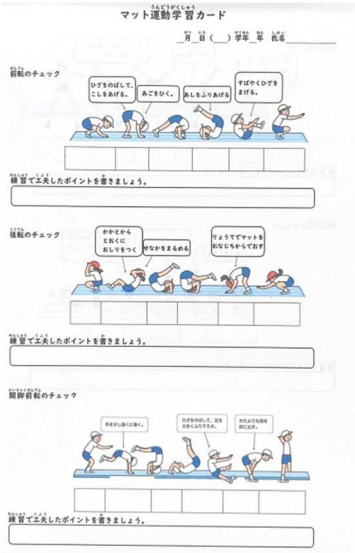
○マットの正しいセットのポイントを２つ書き出しましょう。

○マット運動をするときの服装はどっちが正しい？

○マット運動をするときのマナーを考えよう。

○マット運動でよく使われる身体の部位はどこか考えよう。

○ケガを予防するためのストレッチをみんなで考えましょう。


マット運動学習カード

＿月＿日（＿）学年＿年　氏名＿＿＿＿

前転のチェック

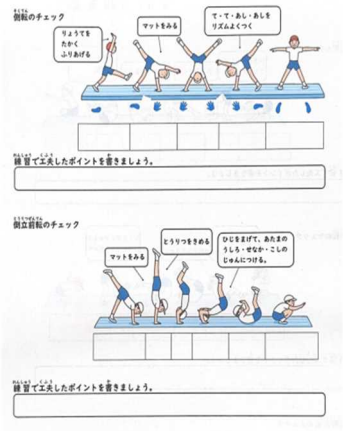
練習で工夫したポイントを書きましょう。

後転のチェック

練習で工夫したポイントを書きましょう。

開脚前転のチェック

練習で工夫したポイントを書きましょう。

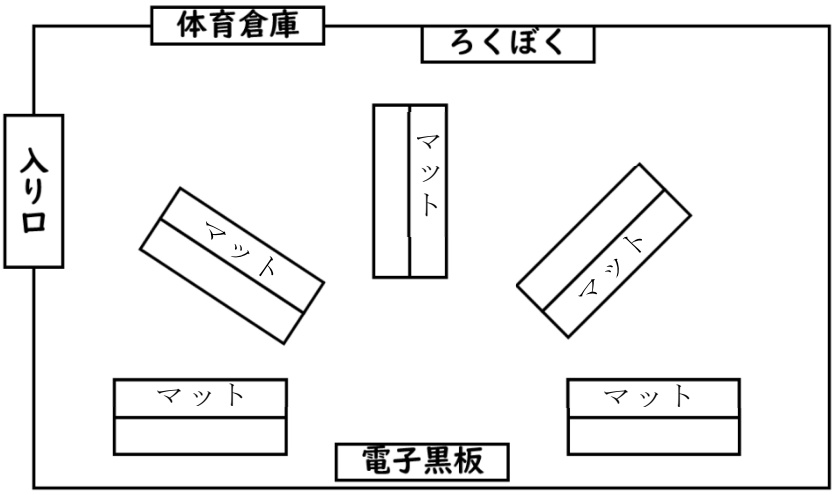

側転のチェック

練習で工夫したポイントを書きましょう。

倒立前転のチェック

練習で工夫したポイントを書きましょう。

【体育館配置図】



6　考察（成果と課題）

（1）生徒アンケートからわかる取組の客観的な成果・分析

生徒アンケート調査

	『はい』	どちらかといえば『はい』	どちらかといえば『いいえ』	『いいえ』
1.「マット運動」は楽しかったですか 。	１６	5		
2.「マット運動」の学習で上手にできるようになったことがありますか。	１２	9		
3．「マット運動」の学習で「なるほど。」「そうだったのか。」と感じたことがありますか。	１２	4	3	2
4.「マット運動」の学習で考えたことを友達に伝えることができましたか。	２０			1
5.「マット運動」の学習で友達と協力しあうことができましたか。	１７	2	1	1
7.やってみたいと考えていた技はできるようになりましたか。	１６	2	1	2

単元終了後のアンケートでは、質問内容１で『どちらかといえば「いいえ」』、『いいえ』が０名となっている。また、「技能」としての質問内容２でも『どちらかといえば「いいえ」』、『いいえ』が０名となっている。事前調査で体育学習が好きと答えた生徒も器械運動に限定すると、「好き」と感じる生徒が減少していたが、単元を通して器械運動（マット運動）に対して好意的な印象に変化し、かつ『技ができるようになった』、もしくは『自信をもってできるようになった』と感じられたようである。質問内容４では『はい』が２０名、『いいえ』が１名であった。技のポイントを示したカードを班ごとで活用したことにより、生徒同士がカードを見て「○○（技名）の○○（肘を曲げる、膝を伸ばすなど）の部分に気をつける」と言葉で確認し合ったり、気を付ける部分ができたかどうかを iPad で動きを撮影して一緒に確認したりと、お互いに共通した視点で意見を言い合える場面が生まれたと考えられる。一方で自身の思考をまとめ、考えを言葉で表出するまで時間がかかる生徒については、個に応じた学習シート（思考を整理するためのツール）を活用するなど、配慮に工夫の余地がみられた。質問内容７では、『どちらかといえば「いいえ」』、『いいえ』を選択した生徒が３名いた。これには、ペア練習を始めた頃に

ペアが体調不良で欠席が続き、思うように練習できなかった生徒や、やってみたい技に挑戦したい気持ちがあるものの失敗を恐れるために挑戦できなかった生徒がいたためだと考えられる。しかし、自分ができる技を友達と息を合わせて行えたことで、達成感は得られたように感じる。

単元全体を通して班ごとの雰囲気は良く、技ができるように身体の動かし方を工夫したり、仲間と意見を交換したりするなど、楽しみながら授業に取り組めていた。また、班の中で「練習する人」、「iPad で動きを撮影する人」、「マットのサイドから気を付けるポイントを見て確認する人」など役割分担をして活動することで各々が存在意義を感じられ、主体的な活動に繋がったと考えられる。

（２）生徒が主体的に学習に取り組めるような授業づくりや学習形態の工夫点について

・体育館の構造化：マットは扇状にセットした。扇状にすることによって、生徒は自分の班だけでなく、別の班の動きも見ることができ、教師（サブを含め４名）は各班の間に位置し、必要に応じて支援や指導ができるようにした。一次（１～２時間目）では、練習用マットの隣にもう一つのマットを用意し、傾斜が必要な生徒が使えるようにした。マット運動初回において安全面やマットのセット方法について学んだことで、２時間目からは授業が始まる前に班ごとに協力してマットの準備（マットの耳を下に入れることや隣のマットとの間隔を考えることを含む）ができるようになった。全授業を通して活動する内容や方法（場所や動線を含む）を生徒に分かりやすく伝えるために教員による見本動画を使用した。良い例だけでなく、悪い例を挙げたり、身近な教師が登場したりすることで、興味をもって見ることができ、行動に生かすきっかけとなった。実際の授業場面でも、「動画に出てきた〇〇の場面はどうだったかな？」と生徒にイメージをもって考えさせることができた。

・グループ設定：本授業対象グループは運動が得意な生徒もいれば不得意な生徒もいる。また、運動が不得意であっても語彙が豊富でアイデアを出せる生徒もいる。成功体験を積みながら仲間と楽しく学び合いができるよう、生徒同士の相性も考えながらも運動能力やコミュニケーション能力に偏りが出ないような班編成を行った。話し合いで支援が必要と考えられる班については、事前に教員間で共有しておきサポートできるようにした。

・練習の仕方：練習では、iPad で動画を撮影することにより自分や友達の動きを客観的に振り返られるようにした。iPad で撮影した動画を仲間で確認するだけの活動にならないよう、自分が気付いたり仲間から指摘してもらったりしたことを改善できるよう、続けて同じ生徒が練習をする機会を設定した。話し合いで出た改善策などをイメージし取り組むことが難しい生徒には授業者が直接的指導を行った。

・事前の学習内容の共有：本単元が始まる前に学習内容とスケジュールを予め生徒に伝えておいた。事前に伝えていたことで、「明日の体育は〇〇するんやんな」と確認に来る生徒もいた。

（３）指導と評価の進め方について

iPad の導入により、自分だけでなく友達の動きも繰り返し見られるようになり、「自分がどこまでできているのか」や「変化に気付いて課題について話し合う」など、お互いを見合い、再度練習するというサイクルをそれぞれの班が生徒主体で作り出せていた。また、撮影した動画は授業者も確認できるため、授業後に生徒評価や次回に向けた指導・支援の手立てを探るきっかけにもなった。

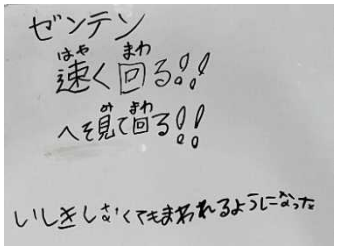
技ができているか、ペアと息を合わせようとしているかなどは、都度生徒の動きを見ながら授業者が即時評価を行った。即時評価をする際には、「発問」、「受理・受

容」、「肯定的フィードバック」はできていたが、動きを直す「矯正的な言葉かけ」はできていない時もあった。矯正的な言葉かけは生徒が理解できる言葉で行う必要があったり、時には直接的指導も行うことも必要であったりするため、種目に関する共通した専門性を教員間でもっておく必要がある。

授業の最後には、練習中に班で出された意見をホワイトボードに記入させ、振り返りを行った。各班から出された言葉は次回の授業で技別で掲示し共有した。

（４）その他

単元を終えて



第２次（５時間目）の班別に行った振り返りで、『前転を意識しなくても回れるようになった』との回答が見られた。この回答をした班の生徒は器械運動に苦手意識があったものの、マット運動では『前転に挑戦したい』と前向きに捉えていた生徒である。授業者の直接的指導を受けて技の練習を繰り返し行い、自身で感覚を掴めた結果、運動学習で理想的な『身体でわかる（運動の自動化）』が実感できたのだと考えられる。

この生徒を含め、本授業対象生徒は全員が繰り返し練習するひたむきな姿を見せてくれた。今回は ICT 機器がインセンティブを与え、体育の授業とりわけマット運動で「できる」「できない」という二極化から、「なぜできたのか」「どうしたらできるのか」という思考を仲間と共に巡らせられた結果だと捉えている。

研究協議から見えてきた課題

①教科指導の専門性

・チェックカードを確認しても技ができない生徒には、直接的指導を充実させる。そのためにはサブの教員を含めた専門性の向上が必要である。

・ST と支援内容をどうするか（傾斜などが必要な場面・直接的指導が必要な場面・言葉かけのみの場面など）、技そのものを工夫するのか、その前後の感覚（接点技群ならば、順次接触と伝導などの感覚（ゆりかごなど））であったり、ほん転技群ならば、両腕で全身を支えたり突き放したりする感覚（カエルジャンプなど）であったりの判断基準を共有しておくことが必要である。

・技ができるようになるために、技の練習と感覚的な運動を往復しながら練習すると効果的である。授業者は、言葉以上に感覚をわかりやすく伝えるスキルが必要となってくる。

②柔軟なグルーピング

・技能の習得に差が出た時には、運動能力の高い生徒を対象に単元途中でグルーピングを再編成することも方法の１つである。（難しい技にチャレンジできるグループ）

体力向上
プログラムモデル校
取組事例

体力向上プログラムモデル校取組報告書

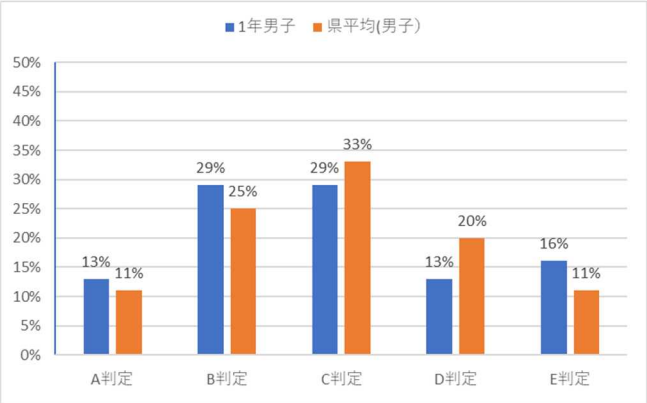
日　時	：令和７年１月１７日（金）～２月１２日（水）
場　所	：田辺市立三栖小学校　体育館
学　級	：１年１・２組（５５名）
授業者	：教諭　岩井　花心

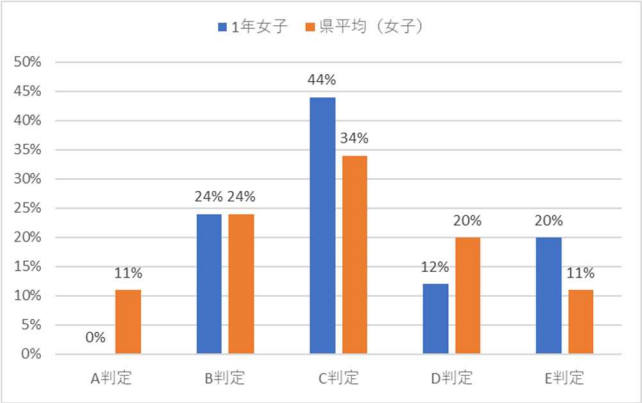
児童の実態〔アンケート調査、体力・運動能力調査結果〕から見えてくる課題

アンケート調査

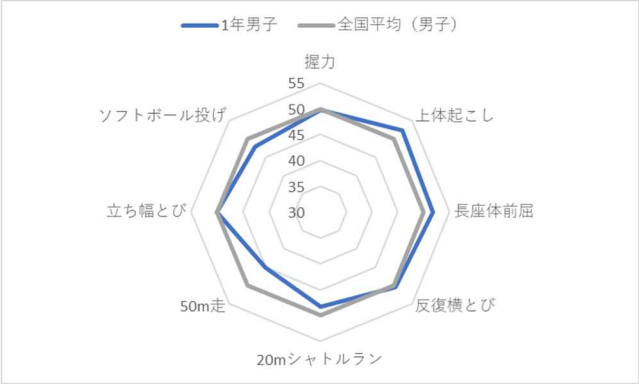
アンケート内容	『はい』	どちらかといえば『はい』	どちらかといえば『いいえ』	『いいえ』
１.体を動かすことが好きですか。	３９ ６９．６％	１０ １７．８％	５ ８．９％	２ ３．６％
２.体を動かすことは得意ですか。	２２ ３９．３％	２１ ３７．５％	１０ １７．９％	３ ５．３％

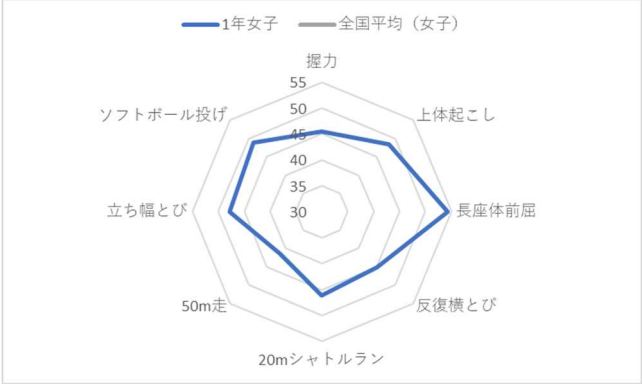
〔グラフ 1〕判定別割合（男女別）





〔図１〕【Ｔスコアによる全国比較図（男女別）】





１　児童の実態（アンケート、体力・運動能力調査結果）から見えてくる課題

判定別割合を見ると、本学年の児童は、男子でＡ・Ｂ判定が県平均よりも多いため、比較的運動能力が高い児童が多いことが分かる。その反面、Ｅ判定が県平均よりも多い

ため、運動能力が低い児童も一定数見られる。また、女子においては、C・E判定が県平均よりも多く、A判定がいないため、運動能力が低い児童が多いことが分かる。

次に、Tスコアによる全国比較図では、男子で４種目、女子で７種目Tスコア５０を下回っている。

また、児童のアンケート調査から、「体を動かすことが好きですか。」という質問に対し、「どちらかといえばいいえ」「いいえ」と回答した児童が１２．５％いた。さらに、「体を動かすことは得意ですか。」という質問に対し、「どちらかといえばいいえ」「いいえ」と回答した児童が２３．２％いた。そのため、まずは運動することへの苦手意識を軽減させる必要がある。

上記のことから、本学年は運動することへの抵抗や苦手意識があることで、体力向上に繋がらないと考える。そのため、男女ともに記録の伸びが期待される上体起こしを選択し、単元終了時には一人でも多くの児童が、「できた！」「楽しい！」という前向きな気持ちになれるよう、実践研究を進めていきたい。また、リズムあそびの要素も取り入れ、楽しみながら運動できる場を作っていきたい。

２　選択した項目　上体おこし

３　体力向上に向けて取り組んだ単元名　　体つくりの運動遊び

４　指導と評価の計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・【別紙様式参照】

５　その他の体力向上に向けた取組

授業導入で行う準備体操については、音楽に合わせて、その時間で行う動きの中で怪我をしやすいと考えられる部位を重点的に伸ばし、リズムよくジャンプして体をあたためるようにしてきた。そうすることで、楽しみながら笑顔で準備体操をする児童が増え、前向きな気持ちで授業を始めることができた。

４　指導と評価の計画（小学校用）

単元の目標	知識及び運動	多様な動きをつくる運動遊びの行い方を知るとともに、体を動かす心地よさを味わったり、体のバランスをとる動き、力試しの動きをして遊ぶことができるようにする。
	思考力、判断力、表現力等	多様な動きをつくったりする遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。
	学びに向かう力、人間性等	運動遊びに進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。

	時	1	2	3	4	5	6	7	8	授業づくりのポイント
ねらい		運動遊びの行い方を知る。	体のバランスをとる運動遊びの基本的な動きを知る。	体のバランスをとる運動遊びについて友達とアドバイスし合う。	楽しい運動遊びを考え、選ぶ。	力試しの運動遊びの基本的な動きを知る。	力試しの運動遊びについて、友達とアドバイスし合う。	楽しい運動遊びを考え、選ぶ。	学習したことをふり返る。	・準備運動は音楽に合わせてしっかり行い、楽しい気持ちで授業を始められるようにする。
学習の流れ	0	1　整列・挨拶・健康観察　2　準備運動（音楽に合わせた体操・ジャンプ）								
	10	3　単元の学習内容の確認	3　本時のねらいの確認 4　身の守り方確認・練習 「ゴロン・グッ・ベタッ」							・もし転けてしまったときの身の守り方を毎時間確認・練習し、単元前に教えてもらったことを意識させながら進める。
	20	4　本時のねらいの確認 5　学習の仕方や約束の確認	5　動きの習得	5　チェックポイントを考える	5　前時のふり返り（チェックポイント、アドバイス）	5　動きの習得	5　チェックポイントを考える	5　前時のふり返り（チェックポイント、アドバイス）	5　これまでの動きのふり返り	・動きが難しいと感じる児童には、一段階易しい動きを用意しておくなどの配慮をして、苦手感をできるだけ味わないようにする。
	30	6　試しの運動		6　ペア・グループでアドバイスし合う	6　音楽に合わせて動く		6　ペア・グループでアドバイスし合う	6　音楽に合わせて動く	6　ふり返りシートの記入	
	40 45	7（6）　本時のまとめ・ふり返り・整理運動・挨拶								

		1	2	3	4	5	6	7	8	評価方法
評価機会	知		②			③			①	観察・カード
	思			①				②		観察・カード
	態	④			③		②		①	観察

単元の評価規準	知	①多様な動きをつくる運動遊びの行い方について、言ったり実際に動いたりしている。 ②体のバランスをとる運動遊びの回る・寝転ぶ・起きる・座る・立つ・バランスをとるなどの動きを身に付けることができる。 ③力試しの運動遊びの人を押す・引く・運ぶ・支えるなどの動きを通して、力を出し切る・入れる・緩める動きを
	思	①友達の感想やアドバイスを聞いたり、友達の動きを見たりして、よい動きやアドバイスを伝えている。 ②友達との話し合いを通して、できそうな運動遊びや友達と行うと楽しい運動遊びを考え、選んでいる。
	態	①多様な動きをつくる運動遊びに進んで取り組もうとしている。 ②順番やきまりを守って、友達と仲良く運動しようとしている。 ③友達と協力して、用具の準備や片付けをしようとしている。 ④運動をする場や用具の使い方などの安全に気を付けている。

※知…「知識・技能」、思…「思考・判断・表現」、態…「主体的に学習に取り組む態度」

６　考察（成果と課題）

（１）取組の成果について

①【上体起こし】測定結果からわかる成果と課題

男子

選択した項目の平均値

	県平均	全国平均
同学年	11.48	11.82
次学年	13.86	14.45

学年の記録

	平均	Tスコア
１回目	12.97	52.41
２回目	13.68	53.89

女子

選択した項目の平均値

	県平均	全国平均
同学年	11.11	11.77
次学年	13.54	13.67

学年の記録

	平均	Tスコア
１回目	11.00	48.35
２回目	11.81	50.09

田中裕之氏から教わったことの１つである、「グッ」の動作は、転んだ際に後頭部を打たないようにするために、おへそを見るという動きである。記録が伸びていることから、その動きが上体起こしで使う筋持久力の向上に繋がっていたと考える。記録の伸びはあまり大きくないものの、これからも継続して続けることで、さらに伸びることを期待する。

②児童生徒アンケート調査結果からわかる成果と課題

アンケート内容	『はい』	どちらかといえば『はい』	どちらかといえば『いいえ』	『いいえ』
１.体を動かすことが好きですか。	４０ ７４．１％	９ １６．７％	３ ５．５％	２ ３．７％
２．今回学習する「体つくり運動」は楽しかったですか。	４４ ８１．５％	８ １４．９％	１ １．８％	１ １．８％
３.体を動かすことは得意ですか。	３５ ６４．８％	１３ ２４．１％	１ １．８％	５ ９．３％

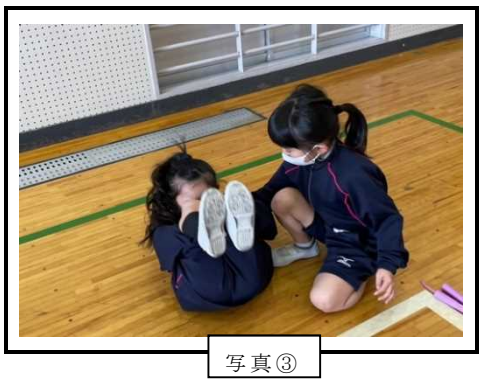
「体を動かすことは好きですか」という質問に対して約９割の児童が肯定的な意見であった。また、「体つくり運動は楽しかったですか」という質問に対してもほとんどの児童が肯定的な意見であった。「楽しくなかった」と答えた一人に理由を聞くと、「難しかったから」という回答であった。「体を動かすことが得意ですか」という質問に対しては、否定的な回答をした児童は約１０％であった。単元学習前のアンケート調査と比較すると、全項目において、肯定的な意見が増えたことが分かる。これらのことから、運動することへの苦手意識が軽減し、自信を持って運動する児童が増えたのではないかと考える。

しかし、「体を動かすことは得意ですか」という質問に対し、「いいえ」と回答した児童が５人であり、単元前よりも２人増えていた。この５人のうち、４人は今回新たに「いいえ」と回答した児童である。このことから、本単元で運動への苦手感が増した児童もいることが分かる。これらの児童が少しでも前向きな気持ちで運動できるよう、これからの体育科授業の改善に努めていきたい。

写真①

本単元に入る前に、田中裕之氏を招聘し、転んだときの安全な身の守り方のポイントを教えていただいた。（写真①）体を丸める「ゴロン」あごをひいておへそを見る「グッ」一カ所だけ着かない「ベタッ」の三点である。これらのことを意識させながら、本単元を進めた。

写真②



写真③

今回体つくりの運動遊びで扱ったのは、多様な動きをつくる運動遊び（ア）体のバランスをとる運動遊び、（エ）力試しの運動遊びの二項目である。それぞれの項目で様々な動きをする中で、万が一転びそうになったときには、田中氏に教えていただいた「ゴロン・グッ・ベタッ」を使えるよう、毎時間３つの動きを行った。その動きを行う中で、今回選択した項目「上体起こし」で使うお腹の力（筋持久力）の向上に繋がることを想定した。

（ア）体のバランスをとる運動遊びでは、回る、寝転ぶ・起きる、座る・立つ、バランスを保つ動きを中心に、第２時で１つ１つの基本的な動作確認を行った。その後、第３時でチェックポイントを全体で確認し、ペア・グループでアドバイスをし合う活動を取り入れた。その際、チェックポイント（図１）を拡大コピーしたものを体育館前に掲示することで、それを見ながらペア・グループでアドバイスし合う児童の姿が多く見られた。（写真②③）第４時では、音楽に合わせてこれまでに学習した動きをつなげて行い、楽しみながら行えるようにした。（エ）力試しの運動遊びにおいても、押す・引く・運ぶ・支える・力比べの動きを中心に、同様の流れで行った。

まわる	★目が　あうように		ねころぶ おきる	★おへそに　グッ
	★おなじばしょで　まわるように			★せなかで　ゴロン
	★まわるほうに　しっかり　うでをふる			★いきおいを　つける
すわる たつ	★2人で　いきをあわせて		バランス	★ピタッと　とまる
	★せなかで　おしあいっこ			★ひざを　のばす

（図１）

単元終了後のアンケートで自由記述欄に、「音楽に合わせて動くのが楽しかった」「他の動きもやってみたい」という回答が多数見られたため、音楽を使うということは、児童の前向きな気持ちを引き出すことに効果的であったと考える。また、「友達にアドバイスしてもらえてよかった」「ペアの子に褒めてもらえて嬉しかった」など、児童同士で見合う活動を通して、運動することに対して自信を持てるようになった児童も増えたと考える。

（３）その他

入学当初の４月は、休み時間になっても毎回外遊びや体育館遊びをしない児童が約半分であった。そのため、外遊びの種類を紹介するなど積極的に体を動かすよう促した。３学期の２月時点では、ほとんどの児童が休み時間に外で体を動かすようになった。

また、２学期の運動会練習時期には、体育授業において表現運動のダンスを練習する姿が生き生きとしていたことから、休み時間や帰りの会の時に音楽を流してみると積極的に踊る児童がほとんどであった。運動会が終わった現在でも、音楽を聴くと楽しそうに踊る児童の姿が見られる。運動を楽しむことは、どの学年でも大事であるが、１年生は特に重要であると感じた。

武道推進モデル校

取組事例

なぎなた	九度山町立九度山中学校

●実践研究のねらい

○　専門的な知識及び技能を有する外部指導者と十分連携することで教員の指導力向上につなげるとともに安全面への配慮や生徒の発達の段階を考慮した指導の充実をはかる。
○　振り方・構え・足さばき・姿勢などの既習事項をリズムに合わせて、技のタイミングを合わせることで協調性を育くむ。
○　なぎなたの片付け、礼法、所作の学習を通して、伝統的な考え方や文化に触れる。
○　運動会の種目で発表の場を設定し表現力の向上を図る。
○　実技テストで学習の成果を披露する場を設定する。

●多様な武道の指導モデル　第２学年（１学級２５名）

<table>
<tr><th></th><th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th><th>6</th><th>7</th><th>8</th><th>9</th><th>10</th><th>11</th><th>12</th><th>13</th></tr>
<tr><td>種目</td><td colspan="13">なぎなた</td></tr>
<tr><td rowspan="4">学習の流れ</td><td rowspan="4">オリエンテーション</td><td colspan="12">導入（体つくり運動、礼法、健康観察、本時の学習の見直し）</td></tr>
<tr><td colspan="10">足さばき、構え、振り方、受け方</td><td rowspan="2">リハーサル</td><td rowspan="2">実技テスト</td></tr>
<tr><td>１年の復習</td><td colspan="2">打突・受け・打ち返しの練習（面打ち・側面打ち・すね打ち）</td><td colspan="3">リズムなぎなた練習（構成）上下振り・斜め振り・横振り・振り返し・受け流し</td><td colspan="2">リズムなぎなた練習（フォーメーション）</td></tr>
<tr><td colspan="12">まとめ（本時の振り返り、次時の連絡、挨拶、片付け）</td></tr>
</table>

●指導の工夫

1　効果的に指導するための工夫
○　学年やクラスの実態を把握し、授業時数を考慮したうえで授業の内容を考える。
○　視覚的に分かりやすいよう映像やパワーポイントを利用するなど、ICTを活用した指導を行う。
○　外部指導者による模範指導を受けることで、武道に対する理解をより深め、学習意欲の向上につなげる。
○　外部指導者との連携を密に行うことで、効果的な指導に努める。
○　現代的な曲に合わせたリズムなぎなたを行い、構成を工夫することで意欲的に取り組めるようにする。
○　静と動を意識させて演技力向上に努める。

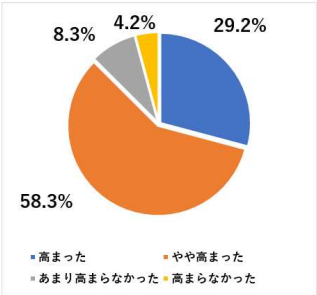
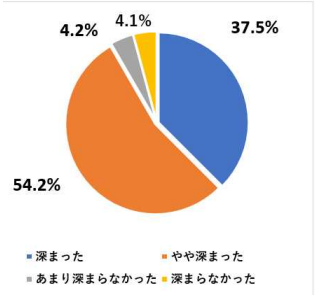
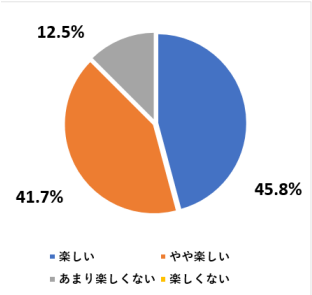
2　生徒の安全を確保するための工夫
○　導入部分で体つくり運動を取り入れ、ウォーミングアップをしっかり行う。
○　礼儀作法や伝統的行動様式について、常に意識した指導を行う。
○　打ち返しをするときは一定の距離を空けて行い、相手や周りをよく観察させるようにする。
○　打ち合いを行う際に、相手を尊重した態度や打ち方についての指導を行う。

●授業の様子

【　打ち返し練習　】
打ち返しの仕方を学習した上で、相手がいることを想定しての素振りをしている様子

【　リズムなぎなた　】
運動会のプログラムで、リズムなぎなたを行っている様子

●生徒の取組み方や意識の変容、感想など

1．多様な武道（※２種目以上または、柔道、剣道、相撲以外の武道）を学習したことで、武道への関心は高まりましたか。	2．多様な武道を学習したことで、伝統的な考え方や行動の仕方への理解は深まりましたか。	3．多様な武道を学習する授業は楽しいですか。
		

○　相手や周りに合わせる能力が少し高まったと思う。リズムなぎなたで、振りすぎないように調節することが難しかった。
○　なぎなたをしたことで打ち方や構え方が身に付いた。細かい手の位置やなぎなたの刃の部分の向きを意識するのが難しかった。
○　自分がどれだけできるようになったか、見てくれる人にすごいと思ってもらえるにはどのようにしたらよいのかを考えたりすることができて、とても楽しかったです。
○　なぎなたにはどのような楽しさがあるかを知ることができた。小さなポイントを意識しながらきれいに見せることがとても難しかった。

●成果

○　リズムなぎなたで武道を学ぶことにより意欲的に取り組むことができた。
○　リズムに乗って、タイミングよく動作をすることで、無駄な動きが少なくなり、静と動のメリハリをつけることができた。
○　タイミングを合わせたりずらしたりすることで、自分だけでなく相手の動きを客観的に見ることができるようになった。
○　１年生で学んだことがリズムなぎなたを通して自然と身に付いた。
○　振り方や動きが分からない生徒に対して生徒同士が教え合い、協力し合う姿が見られた。
○　演技としてなぎなたを取り扱うことにより、全体的に打突時の発声が大きくなった。

●課題

○　振りのタイミングがずれてしまうと、発声が小さくなってしまったり、細かい動きまで意識できなくなったりする時があった。
○　演技の受け流しの途中で、なぎなたが他の人のなぎなたに当たってしまう場面があった。
○　曲のリズムと生徒たちの動きのリズムを合わせるのに時間がかかってしまい、それぞれの技のタイミングが難しかった。
○　外部指導者との連携をさらに強化し、指導の充実を図っていきたい。

剣道・なぎなた	有田川町立石垣中学校

●実践研究のねらい

・　剣道からなぎなたへとつながる単元計画を作成し、基本的な構えや足さばきなどを段階的に学び、武道への興味や関心をもつ。
・　限られた単元計画内における外部指導者からの指導内容を精選することで、安全面を確保した指導体制の確立を目指す。

●多様な武道の指導モデル　第１学年（１学級６名）

<table>
<tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td></tr>
<tr><td>種目</td><td colspan="6">剣道</td><td colspan="2">なぎなた</td></tr>
<tr><td rowspan="6">学習の流れ</td><td colspan="8">導入（あいさつ、健康観察、本時の見通し）</td></tr>
<tr><td colspan="8">準備運動</td></tr>
<tr><td>剣道の歴史</td><td>基本的な構え</td><td rowspan="3">基本技の学習
（打突の仕方）</td><td colspan="3" rowspan="3">基本技・対人技の学習</td><td colspan="2">なぎなた操作の学習</td></tr>
<tr><td>礼法</td><td>足さばき</td><td colspan="2">足さばきの学習</td></tr>
<tr><td>刀剣の知識</td><td>竹刀操作</td><td colspan="2">体さばきの学習</td></tr>
<tr><td colspan="8">まとめ（本時の振り返り、次時の連絡、あいさつ）</td></tr>
</table>

●指導の工夫

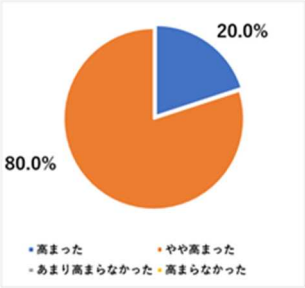
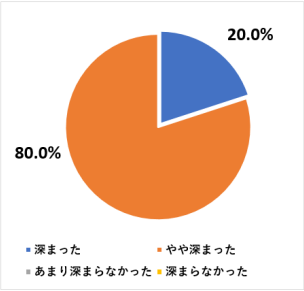
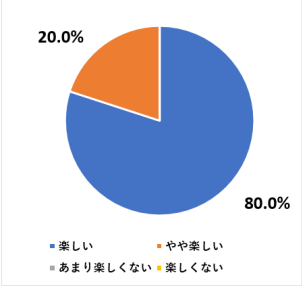
・　外部指導を招き、礼儀作法や基本動作（自然体・中段の構え・間合・足さばき）を中心に指導を行った。
・　安全面の確保として、事前に竹刀の点検（ささくれがないか・先皮が破れていないか等）を行い、生徒にも竹刀の扱い方や安全な運動の仕方について説明する場を設けた。
・　段階的な指導として、基本動作から対人的技能につなげるように指導した。

●授業の様子

【剣道】
竹刀操作、足さばき、打突の仕方など、基本的技能の習得を目指した。

【なぎなた】
剣道で学んだことを通して、基本動作や対人的技能の練習をした。

●生徒の取組み方や意識の変容、感想など

1．多様な武道（※２種目以上または、柔道、剣道、相撲以外の武道）を学習したことで、武道への関心は高まりましたか。	2．多様な武道を学習したことで、伝統的な考え方や行動の仕方への理解は深まりましたか。	3．多様な武道を学習する授業は楽しいですか。
		

【生徒感想】

2人でナギナタをやるとき前や前前、後、後後、あゆみ足前あゆみ足後、を言うやつと逆のことをすることがむずかしかったです。足のむきやうでのむきがまちがえやすかったです。なきなたとけんどうとちがって竹の長さがちがかたなどちがってむずかしかったです。

なぎなたを初めてして、面打ちや側面打ち、すね打ちが印象に残りました。すね打ちと打ち返しが難しかったです。足の動かし方も6つ習い、あゆみ足前、あゆみ足後は4歩進むのがびっくりしました。すね打ちをするときのすね当ての付け方やすね打ちを受ける時のかまえなども知ることができました。

●成果

- 外部指導者と連携して授業を行ったので、生徒の基本的な動きを細かく指導することができた。また運動量の確保にもつながった。
- 剣道の歴史や礼儀作法について学ぶことができた。

●課題

- 生徒の実態に応じて、学習が深まるように単元計画を見直す。
- 外部指導者と相談して、指導方法や評価の仕方を明確にする。

合気道	田辺市立上秋津中学校

●実践研究のねらい

○　基本動作、受け身、対人的技能を３年間継続して学び、ペアワークでより発展的な受け身の習得を図ることによって、技能の定着を図る。
○　外部指導者による専門的な指導、TTとの連携で生徒の知識及び技能の習得を目指す。指導、援助の役割分担を明確にし、より効果的な指導を目指す。

●多様な武道の指導モデル　第3学年（1学級 25名）

<table>
<tr><th></th><th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th><th>6</th><th>7</th><th>8</th></tr>
<tr><td>種目</td><td rowspan="10">オリエンテーション（合気道）</td><td colspan="7">合気道</td></tr>
<tr><td rowspan="9">学習の流れ</td><td colspan="7">導入（挨拶、健康観察、本時の学習の見通し）</td></tr>
<tr><td colspan="2">準備運動</td><td colspan="2">準備運動</td><td colspan="2">準備運動</td><td>準備運動</td></tr>
<tr><td colspan="2">受け身</td><td colspan="2">受け身</td><td colspan="2">受け身</td><td>受け身</td></tr>
<tr><td colspan="2">基本動作</td><td colspan="2">基本動作</td><td colspan="2">基本動作</td><td>基本動作</td></tr>
<tr><td colspan="2">１・２年生で習得した技の復習</td><td colspan="2">前時の復習（対人的技能習得）</td><td colspan="2">前時の復習（対人的技能習得）</td><td rowspan="3">単元のまとめ</td></tr>
<tr><td colspan="2">対人的技能の習得（新たな技の習得）</td><td colspan="2">対人的技能の習得（新たな技の習得）</td><td colspan="2">対人的技能の習得（新たな技の習得）</td></tr>
<tr><td colspan="2">振り返り</td><td colspan="2">振り返り</td><td colspan="2">振り返り</td></tr>
</table>

●指導の工夫

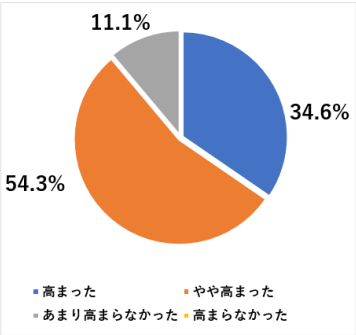
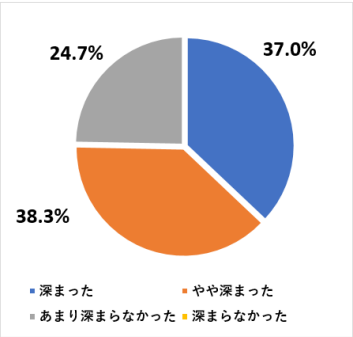
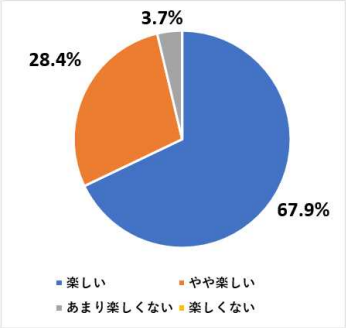
1　効果的に指導するための工夫
○　主に２時間続きの授業とし、継続した授業時間の活用により、効率的に時間を使えるようにするとともに、技の反復、応用の定着を図った。
○　外部指導者の模範となる技、受け身を通して視覚的に訴え、技の練習の際には教員含め、3人の巡回指導で細やかな指導を行った。
2　生徒の安全を確保するための工夫
○　本校には道場がないため、体育館を使用して武道の授業を行っている。本校にある、畳50畳以外にも市からマットを100枚借り、効率と安全を確保できるように工夫した。
○　「受け」と「取り」の位置を揃えるとともに、外部指導者２名、教員１名の計３名での巡回を通して、隣接する生徒同士の間隔を取り、技をかける際の安全を意識した。
○　受け身の練習時間の確保と、技をかける際の相手を思いやる精神を指導した。

●授業の様子

【　外部講師による技の説明　】
新たな技に取り組む前に、外部指導者が1つ1つポイントを説明しながら技を見せている様子。向きを変え、全員が見やすいよう配慮している。

【　対人的技能の習得　】
ペアで技の練習をしている様子。1つの技を細かく区切り、外部指導者が声をかけ、ポイントを押さえながら指導をしている。

●生徒の取組み方や意識の変容、感想など

1．多様な武道（※２種目以上または、柔道、剣道、相撲以外の武道）を学習したことで、武道への関心は高まりましたか。	2．多様な武道を学習したことで、伝統的な考え方や行動の仕方への理解は深まりましたか。	3．多様な武道を学習する授業は楽しいですか。
		

○　はじめは形式的な取り組みかただったが、知らず知らずのうちに合気道の授業が楽しみになっている自分がいた。やっていて楽しかったし、武道に対する興味が湧いた。
○　技がとてもかっこよかったです。難しかったけど、できるようになったときはとても嬉しかったです。
○　手や足の使い方でいくつも違う技をかけられるのはとても面白かった。多少、頭がこんがらがることもあったけど慣れていくうちに合気道への関心も高まっていった。
○　色んな作法があって見ていて綺麗だなと思いました。実際にしてみても楽しかったし、先生方の教え方が上手くて楽しい授業になりました。

●成果

○　３年間の合気道の授業を通して相手を敬う精神と基本的な技能を段階的に積み上げることができた。
○　３年生は最後に護身術の指導を受けることで実践的な動きを身に付けることができた。
○　運動が苦手な生徒にも外部指導者が付くことで手厚い支援ができた。
○　楽しく学ぶ雰囲気を外部指導者と共につくることができた。
○　技の解説を実際に行いながら指導したので、理解しやすく、基礎を固めることができた。

●課題

○　合気道の授業を行うにあたって、現段階では外部指導者に来校してもらわないと指導するのは難しいと感じた。
○　今回の日程は、気候的に良い時期であったが、定期テストや行事等の関係で少し前後した方が良いかと感じた。
○　畳とマットの準備、片付けに時間を取られないような指導と手立てが必要だと感じた。

合気道	田辺市立上芳養中学校

●実践研究のねらい

○　地元にゆかりのある合気道における歴史について学び、外部指導者による指導によって専門的な知識や技能を身に付ける。

○　和合の心を養い、合気道の授業の中だけでなく日常生活においても人を大切にする心を養う。

●多様な武道の指導モデル　第１学年（１学級　９名）

<table>
<tr><th></th><th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th><th>6</th><th>7</th><th>8</th></tr>
<tr><td>種目</td><td colspan="8">合気道</td></tr>
<tr><td rowspan="5">学習の流れ</td><td rowspan="5">事前学習①（植芝盛平翁・歴史について）</td><td rowspan="5">事前学習②（畳の設置や受け身について）</td><td colspan="6">導入（あいさつ、点呼、本時の目標と展開について）</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">準備体操
基本動作・用語
受け身</td><td colspan="2">準備体操
基本動作
受け身</td><td colspan="2">準備体操
基本動作
受け身</td></tr>
<tr><td colspan="2">前時の振り返り
（前時の技）</td><td colspan="2">前時の振り返り
（前時の技）</td></tr>
<tr><td colspan="2">技の習得
（小手返し）</td><td colspan="2">新しい技の習得
（入り身投げ）</td><td colspan="2" rowspan="2">学習のまとめ
と振り返り</td></tr>
<tr><td colspan="4">本時の振り返り・まとめ</td></tr>
</table>

●指導の工夫

○　安全面について
- 畳の周りにスポーツ施設から借りたマットを設置し、安全面を考慮して場の設定を行った。
- 生徒同士の接触を避けるために、方向を揃えて、交互に並ばせるようにして、活動した。

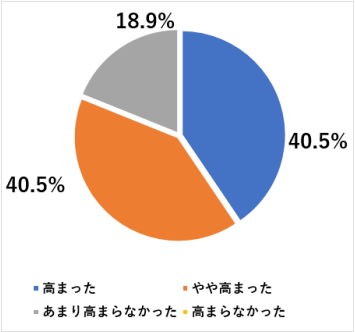
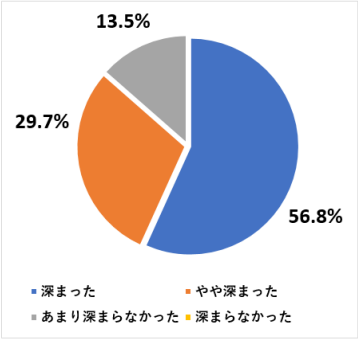
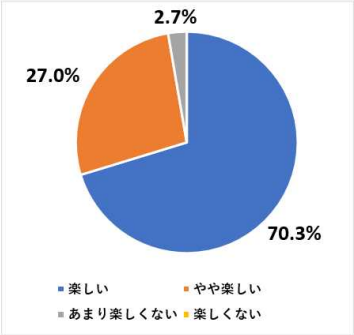
○　指導面について
- 外部指導者の専門的な指導を中心に行い、空いた時間等で教員による指導を織り交ぜた。
- 外部指導者や、教員が入り、ローテーションすることで、生徒全員とペアになり、習熟度を直接見取ることができた。

●授業の様子

【　基本動作の確認の様子　】
合気道を学ぶに当たって、送り足等の確認作業を行っている様子

【　交差持ち小手返しの様子　】
交差持ち小手返しを学習する際に教員も入ることで生徒一人一人の習熟度を直接見取ることができた。

●生徒の取組み方や意識の変容、感想など

1．多様な武道（※２種目以上または、柔道、剣道、相撲以外の武道）を学習したことで、武道への関心は高まりましたか。	2．多様な武道を学習したことで、伝統的な考え方や行動の仕方への理解は深まりましたか。	3．多様な武道を学習する授業は楽しいですか。
		

生徒の感想
- 合気道を初めてしてみて、楽しかった。
- 合気道の学習を毎年楽しみにしている。
- 先生と一緒に授業を受けることができて楽しかった。近くで教えてくれるので安心して取り組めた。
- 今年度した技を来年度には、もっと磨きをかけて、上手になりたい。
- もしものことがあったときに役立つ合気道を今のうちに身に付けておきたい。

●成果

○　合気道の授業を通して、地元にゆかりのある武道だということの学びとともに、礼儀・作法を学習することができたことが良かったと思う。生徒一人一人が武道と向き合う良い機会だった。
○　柔道や剣道と違い、体操服で行うことができ、保護者による経済的な負担も少なかった。
○　今まで担当教員が実施したことのない武道領域であったが、これからの授業に生かしていく学びとなった。

●課題

○　今年度は３年生16名、２年生12名、１年生９名と少人数だったので、目が行き届きやすく、手厚い指導を行えたが、担当教員が専門的な知識を身に付けて、生徒全員に配慮ができるようになる必要性を感じた。
○　マットを借りて場を設定したが、３年生の16名で実施した際にマットの枚数が少なく感じたので、実施人数とグループ分けについて、考慮する必要があると感じた。

合気道	田辺市立新庄中学校

●実践研究のねらい

○　外部指導者による専門的な指導、ＴＴによる指導補助により、限られた時数でより効果的な指導を目指す。
- 　連携した指導で、生徒の知識及び技能の習得を目指す。
- 　授業者が武道について学ぶ機会を確保し、授業者のスキルアップにつなげる。

○合気道を１・２年生で取り組み、本県発祥の武道の基礎を学ぶ。

●多様な武道の指導モデル　第２学年（１学級 39　名）

<table>
<tr><th></th><th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th><th>6</th><th>7</th><th>8</th><th>9</th></tr>
<tr><td>種目</td><td rowspan="8">オリエンテーション（合気道）</td><td colspan="8">合　気　道</td></tr>
<tr><td rowspan="7">学習の流れ</td><td colspan="8">導入（あいさつ、伝統的な行動の仕方、健康観察、本時の流れとめあての確認）</td></tr>
<tr><td colspan="8">準備運動</td></tr>
<tr><td colspan="2">基本動作の学習</td><td colspan="6">前時の復習</td></tr>
<tr><td colspan="3" rowspan="2">受け身の学習</td><td colspan="2">受け身の学習</td><td rowspan="3">まとめの学習</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">対人的技能の学習</td></tr>
<tr><td colspan="3">対人的技能の学習</td></tr>
<tr><td colspan="8">整理運動、本時の振り返り、次時の連絡、あいさつ</td></tr>
</table>

●指導の工夫

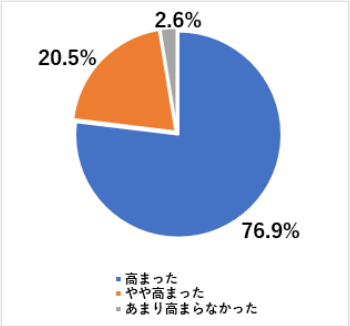
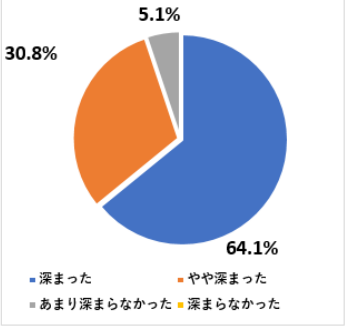
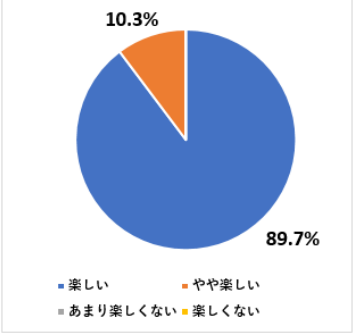
○　２時間続きの授業とし、継続して授業を行うことで、指導効率を高めた。
○　外部指導者による専門的で模範となる技を示した。
○　ペアでお互いを尊重し合えるように指導した。
○　外部指導者の方に、演武や模範演技をしていただき、本来の合気道の迫力や技のポイントを具体的に伝えてもらった。
○　技の指導は、外部指導者、教員３～４名で役割分担を明確にし、全生徒に目が行き届き、声をかけられる体制を整えたことで、事故を起こさせない、ケガをさせない安全体制となるように努めた。

●授業の様子

【　合気道　　】
天地投げ（簡潔な動きで、自分のバランスと相手のバランスを感じながら投げる）

【　合気道　】
小手返し（相手のバランスを崩し、相手の自由を奪う）

●生徒の取組み方や意識の変容、感想など

1．多様な武道（※２種目以上または、柔道、剣道、相撲以外の武道）を学習したことで、武道への関心は高まりましたか。	2．多様な武道を学習したことで、伝統的な考え方や行動の仕方への理解は深まりましたか。	3．多様な武道を学習する授業は楽しいですか。
		

アンケート結果は以上の通りである。１～３の項目で「高まらなかった」「深まらなかった」「楽しくない」の生徒が一人もいなかった。今年度は武道の授業構成を少し変え、技のレパートリーや武道の考え方をより多く取り入れたことで、内容の充実ができたと考える。

以下生徒の感想

- 昨年しなかった技に加えて、天地投げで相手のバランスを奪う感覚を初めて得られた。動きを一つ一つゆっくり指導してくれたので、はじめての技もうまくできたと思う。
- 楽しく武道の授業を受けることができた。２年生で武道の授業が終わりと聞き、もう少しやりたいという気持ちが出た。来年はないけれど、高校でもあったら受けてみたいと思った。

●成果

○　外部指導者の方が演武をしてくれたものをiPad等で撮影し、教員が指導する際に説明資料として活用した。映像をスローにしたり、正しい動きを何度も見たりすることができるので、生徒の理解度が深まった。

○　ペアを定期的に変えたことで、誰とでも心を合わせて技を完成させるように取り組む姿がみられた。

○　武道を通して、日本の伝統文化、礼儀作法、思いやりの気持ちを学ぶ良い機会となった。

●課題

○　地域に専門的な指導者がいるかどうか、１年生は来年度も楽しみにしている生徒が多いことから、指導を継続できるかどうか等が課題である。

○　ICTの活用をさらに進める必要がある。

○　安全面の対策のため、複数で指導にあたる必要があるため、今後も武道領域では指導者の人数確保に努めたい。

合気道	田辺市立中芳養中学校

●実践研究のねらい

○　田辺発祥である合気道を学習することで、住んでいる地域の文化に誇りを持ったり、愛着を深めたりできるようにする。
○「礼に始まり礼に終わる」などの伝統的な考え方を大切にし、自分で自分を律する克己の心に触れるとともに、人間形成につながることを理解し、取り組むことができるようにする。

●多様な武道の指導モデル　第　２学年（　学級　２２名）

<table>
<tr><th></th><th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th><th>6</th><th>7</th></tr>
<tr><td>種目</td><td colspan="7">合気道</td></tr>
<tr><td rowspan="3">学習の流れ</td><td rowspan="3">オリエンテーション</td><td colspan="6">導入（あいさつ、健康観察、本時の学習の見通し）</td></tr>
<tr><td>準備運動</td><td rowspan="2">外部講師による技の指導</td><td rowspan="2">前時の復習</td><td rowspan="2">外部講師による技の指導</td><td rowspan="2">前時の復習</td><td rowspan="2">外部講師による技の指導</td></tr>
<tr><td>基本動作の習得（受け身、体さばき）</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="6">振り返り</td></tr>
</table>

●指導の工夫

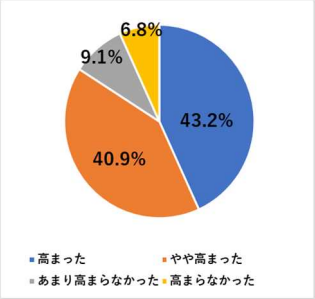
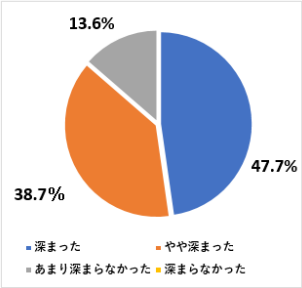
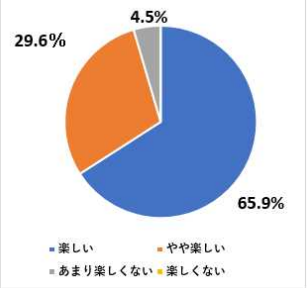
○　２時間続きの授業形態を基本とし、１時間目に本校教員による復習を中心とした指導、２時間目に外部講師による新しい技の習得に向けた指導を行った。また生徒が奇数の場合は講師の方がペアとなり、女子生徒が奇数の場合は女性の講師の方がペアとなるようにした。
○　本校教員と外部講師の複数名で巡回指導を行うことで、きめ細やかな指導に努めた。
○　本校体育館に畳を60畳敷いて行った。
○　毎時間ワークシートに振り返りを記入させるようにしたことで、知識及び技能の定着を図った。

●授業の様子

【　投げ技の様子　】
講師の先生が生徒とペアを組み直接指導を行っている様子

【講師の先生による指導の様子】
１つの技を丁寧に説明し指導を行ってくれている様子

●生徒の取組み方や意識の変容、感想など

１．多様な武道（※２種目以上または、柔道、剣道、相撲以外の武道）を学習したことで、武道への関心は高まりましたか。	２．多様な武道を学習したことで、伝統的な考え方や行動の仕方への理解は深まりましたか。	３．多様な武道を学習する授業は楽しいですか。
		

授業前にアンケートを行ったところ、武道の経験や知識がある生徒は１人であったが、授業後のアンケートの結果では、武道への関心が「高まった。やや高まった。」と回答した生徒や、伝統的な考え方や行動の仕方への理解が「深まった。やや深まった。」と回答した生徒が半数以上いた。

また、多様な武道を学習する授業は楽しいですか。という質問には、６割以上の生徒が楽しいと答えている。授業後の生徒の感想では、「来年も合気道に取り組みたい」や「武道の伝統的な考えが深まりました」などの前向きな感想が多かった。

●成果

○　生徒にアンケートをとったところ、約６割の生徒が楽しかった単元として合気道をあげていた。
○　外部講師による授業は大変充実したものであり、専門性はもちろんのこと、模範演技などの迫力、実際に生徒が技を受けてみるなど、教員だけではできない授業を実施することができた。
○　外部講師による指導の効果は生徒だけではなく、教員の指導力向上にもつながっている。

●課題

○　現在は外部講師による授業ができているが、今後、教員だけで授業を行う際に、専門性や技術指導の面で不安が残る。
○　生徒の興味・関心をさらに高めるための工夫を考える必要がある。
○　畳の準備、片付けに時間を取られないように指導と手立てが必要だと感じた。

合気道	田辺市立東陽学校

●実践研究のねらい

○　合気道発祥の地として、合気道の歴史、人物学習を行うとともに、武道ならではの礼儀作法や対人的技能を学び、「和合の心」について理解を深める。
○　２年間かけて合気道の基本動作、受け身、対人的技能を学び、技能の定着を図る。
○　外部指導者による専門的な指導、ＴＴによる連携で生徒の知識及び技能の習得を目指す。指導、援助の役割分担を明確にし、より効果的な指導を目指す。

●多様な武道の指導モデル 第１・２学年（１学級67名 2学級80名）

<table>
<tr><th></th><th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th><th>6</th><th>7</th></tr>
<tr><td>種目</td><td colspan="7">合気道</td></tr>
<tr><td rowspan="4">学習の流れ</td><td rowspan="4">オリエンテーション</td><td colspan="6">導入（健康観察・本時の流れの説明）</td></tr>
<tr><td colspan="6">準備運動</td></tr>
<tr><td rowspan="2">基本動作の学習
受け身の学習</td><td rowspan="2">新たな対人的技能の習得</td><td>基本動作
受け身</td><td rowspan="2">新たな対人的技能の習得</td><td>基本動作
受け身</td><td rowspan="2">新たな対人的技能の習得</td></tr>
<tr><td>前回学習した対人的技能の復習</td><td>前回学習した対人的技能の復習</td></tr>
<tr><td colspan="6">整理（振り返り・次時の連絡）</td></tr>
</table>

●指導の工夫

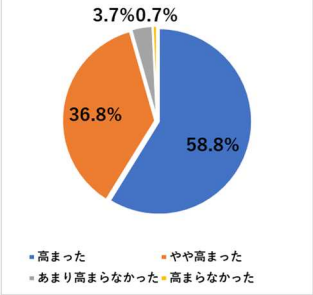
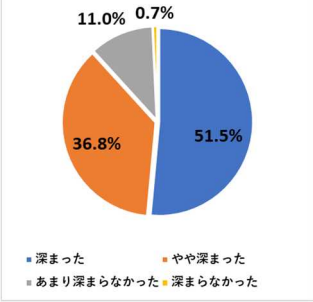
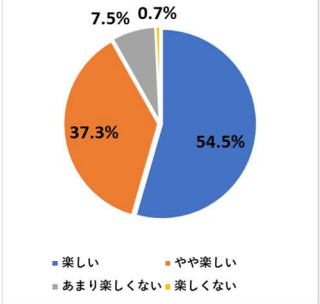
１、効果的に指導するための工夫
○　専門性の高い外部指導者の模範となる技、受け身等を視覚的に伝えた。また、外部指導者の模範となる技を動画で撮り、教員の教材研究としても活用した。
○　技の練習の際には教員を含め、巡回指導で細やかな指導になるように努めた。また、ワークシートの活用により、技のポイント、本人が工夫した点などを記入し、知識及び技能の定着を図った。
○　主に２時間続きの授業とし、継続した授業時間の活用により、効率的に時間を使えるようにするとともに、技の反復、応用の定着を図った。
２、生徒の安全を確保するための工夫
○　本校には武道場がないため、体育館を使用して武道の授業を行っている。本校にある畳を使用し、効率と安全を確保できるよう工夫している。さらに畳がすべらないように、水を床にスプレーし、拭いてから、畳を敷くようにした。
○　「受け」と「取り」の位置を揃えるとともに、外部指導員２名、教員１名での巡回を通して、隣どうしの間隔をとるようにし、技をかける際の安全を意識した。

●授業の様子

【　外部講師による指導　】
今年度、3つの技の習得を図ったが、取り組む前に、相手への敬意・礼儀の大切さを指導する様子。

【　基本動作の習得　】
後ろ受け身の反復練習する様子。1つ1つの動きを区切りながらポイントを押さえていく。

●生徒の取組み方や意識の変容、感想など

1．多様な武道（※２種目以上または、柔道、剣道、相撲以外の武道）を学習したことで、武道への関心は高まりましたか。	2．多様な武道を学習したことで、伝統的な考え方や行動の仕方への理解は深まりましたか。	3．多様な武道を学習する授業は楽しいですか。
		

＜感想＞
・初めて合気道を体験しました。最初は「合気道ってどんな武道なんだろう？」と少し不安でしたが、先生が優しく教えてくれて、安心して取り組むことができました。
・授業の中で特に印象に残ったのは、相手の力を利用して動きをコントロールする技術です。自分の力をただ使うだけではなく、相手と調和することが大切だということを学びました。
・相手を尊重しながら自分の力をコントロールするという精神は、普段の生活でも役立つと思った。

●成果

○　外部指導者の技の説明の際には、わかりやすい言葉を選び、細かいポイントを伝えた。さらに、１つの技を５～７つに動きを区切って指導し、生徒の理解が一定進んでから、区切る数を減らすことで、流れるように指導することができた。外部指導者の専門性が高く、教員は指導と併せて生徒の安全管理にも注力することができ、生徒達も技を深く理解することができた。基本動作の内容では、グループで練習する時間を設け、指示役、生徒役に分かれてお互いで声を掛け合いながら意欲的に取り組むことができた。外部指導者との役割分担や連携を明確にした指導計画を作成し、生徒に対してよりきめ細かな指導を行うことで、効果的な指導が可能となると考える。

●課題

○　合気道は力ではなく体の使い方やタイミングが重要であり、慣れるまで難しく感じる生徒が多いように感じた。指導者が見本を何度も示し、生徒が視覚的に理解しやすいようにすることが大切であることから、生徒に示す方法の工夫が必要となる。

合気道	田辺市立明洋中学校

●実践研究のねらい

○　合気道発祥の地として、合気道の授業をとおして武道特有の対人的技能を学び、「受け」と「取り」の役割を理解する。
○　合気道を通じて和合の精神や礼儀作法・受け身・対人的技能を3年間継続して学ぶことにより、作法や技能の定着を図る。
○　外部指導者による専門的な指導、TTによる連携で生徒の知識及び技能の習得を目指す。指導・援助の役割分担を明確にし、より効果的な指導を目指す。

●多様な武道の指導モデル　第１～３学年（９学級２５０名）

<table>
<tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td></tr>
<tr><td>種目</td><td colspan="8">合気道</td></tr>
<tr><td rowspan="8">学習の流れ</td><td colspan="2" rowspan="8">〈昨年度の復習〉
・基本動作確認
・昨年度習得した技の確認</td><td colspan="6">導入（挨拶・健康観察・本時の目標・本時の学習の見直し）</td></tr>
<tr><td colspan="5">準備運動</td><td rowspan="6">学習のまとめ</td></tr>
<tr><td colspan="5">基本動作・受け身の練習</td></tr>
<tr><td colspan="5">前時の復習</td></tr>
<tr><td colspan="5">（対人的技能の復習）</td></tr>
<tr><td colspan="5">対人的技能の復習</td></tr>
<tr><td colspan="5">（技の習得）</td></tr>
<tr><td colspan="6">振り返り</td></tr>
</table>

●指導の工夫

１．効果的な指導のための工夫
- 事前授業を２時間行うことで基本動作や受け身などの技能をより定着させることに努めた。また、２・３年生については昨年度の復習を行うことで、よりスムーズに技能定着を図った。
- 外部指導者を招いた授業では、２時間連続で行い、より時間を効果的に使うことができた。また、外部指導者から模範となる動作を示してもらうことで、よりわかりやすい指導となり、技能習得につなげた。さらに、担当教員と連携することでより細やかな指導を行うようにした。

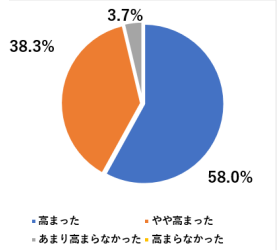
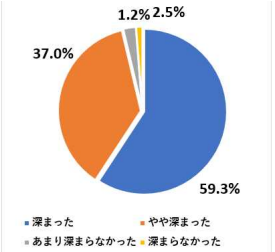
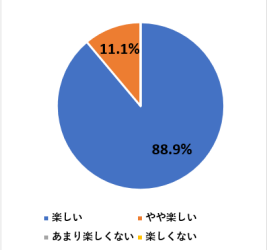
２．生徒の安全を確保するための工夫
- 合気道の本格的な授業に入る前に、事前学習として受け身や礼儀作法の学習を行うことで、スムーズに合気道授業の導入へとつなげたり、怪我や事故の防止につなげたりした。
- 体育館にマットを敷いて指導するため、生徒同士の間隔が広くとれるよう体育館全体にマットを敷き、十分な広さを確保できるよう工夫した。
- 「受け」と「取り」の位置を揃えるとともに、外部指導者と教員が巡回することで、隣同士や技をかける際の安全を意識した。

●授業の様子

【　合気道の技の習得　】
外部指導者から指導を受ける様子

【　外部講師の技の説明　】
習得する技について、実際に生徒に示しながら説明している様子

●生徒の取組み方や意識の変容、感想など

1．多様な武道（※２種目以上または、柔道、剣道、相撲以外の武道）を学習したことで、武道への関心は高まりましたか。	2．多様な武道を学習したことで、伝統的な考え方や行動の仕方への理解は深まりましたか。	3．多様な武道を学習する授業は楽しいですか。
		

・　今日の技は「片手持ちの一教表」でした。技の他にも合気道の動作や礼儀を学ぶことができました。はじめは、足の送り方や座り方を間違えたり、小手の返し方が分からなかったりしたけど、３年間で少しずつ上手になりました。合気道をとおして、心も体も強くなれた気がします。これからの生活でも合気道で学んだことを何かのヒントにしていきたいと思います。

・　相手に危害を加えるわけではなく、相手の攻撃から自分の身を守るために合気道があるのだと思いました。合気道を始める前に相手と向かいあって礼をするところに誠意が感じられました。合気道の基礎をしっかりと身に付けて、今後の生活に生かしていきたいです。

●成果

○　合気道の指導において外部指導者の存在は大変重要である。専門性が高く、模範となる動作を見せてもらえること、細かなポイントのアドバイスなど、きめ細かな指導をしてもらうことができた。また、教員と外部指導者で指導の連携を図ることで、より安全で効果的な指導を行うことができた。

○　３年間継続して授業を行うことで、各学年のつながりをもって技を習得できるとともに合気道を通じて相手を思いやる心や礼儀について全学年に指導することができた。また、１・２年生については、来年度の合気道の授業が楽しみであるという感想が見られた。

○合気道は、運動が比較的苦手な生徒も、技を習得することができ、達成感を得られるのが大変良い点であり、合気道の授業を楽しいと感じている生徒が多い。

●課題

○　合気道指導者の確保と、打合せの時間の確保が課題である。合気道有段者の方々は、各々仕事があるため、授業時間に講師として指導していただける人が限られる。また、教員との連携は大事であるが、そのための時間についても、それぞれの業務終了後に設定する必要があった。

○　事前授業は教員２名での指導であったため、支援を要する生徒への対応が難しかった。

○　教員研修を進めることと外部指導者との役割分担や連携を明確にした指導計画について、引き続き検討していく。

合気道	田辺市立龍神中学校

●実践研究のねらい

○　合気道の礼法、基本動作、受け身、対人的技能を習得させるとともに、合気道が様々な武道の要素を取り入れて成立したことを理解させるようにする。

○　専門的な知識及び技能をもつ外部指導者と担当教員との授業を通して、生徒がより効果的に知識及び技能を習得するための指導計画の確立を目指す。

●多様な武道の指導モデル　第３学年（１学級　１８名）

<table>
<tr><th></th><th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th><th>6</th></tr>
<tr><td>種目</td><td colspan="6">合気道</td></tr>
<tr><td rowspan="6">学習の流れ</td><td colspan="6">導入（あいさつ、健康観察、本時の学習の見通し）</td></tr>
<tr><td colspan="6">準備運動</td></tr>
<tr><td>受け身</td><td rowspan="3">対人的技能の習得（新しい技の習得）</td><td>受け身</td><td rowspan="3">対人的技能の習得（新しい技の習得）</td><td>受け身</td><td rowspan="3">「護身術」対人的技能の習得（新しい技の習得）</td></tr>
<tr><td>基本動作</td><td>基本動作</td><td>基本動作</td></tr>
<tr><td>１・２年生で学習した技の復習</td><td>前時の復習（対人的技能の習得）</td><td>前時の復習（対人的技能の習得）</td></tr>
<tr><td colspan="6">整理（本時の振り返り・健康観察・あいさつ）</td></tr>
</table>

●指導の工夫

１　効果的に指導するための工夫

○　生徒が、外部指導者の模範となる技を理解するため、外部指導者２名を講師として招く。また、担当教員は合気道の知識及び技能を習得して授業に臨めるよう、外部指導者から事前に指導を受け、連携を図る。

○　生徒の学習効果を高めるために、２時間続きの授業展開を計画し、前時の復習と新しい技の習得が十分できる時間を確保する。

２　生徒の安全を確保するための工夫

○　準備運動を行う時間を十分にとることにより、けがの防止に努め、３人体制で授業を展開する。

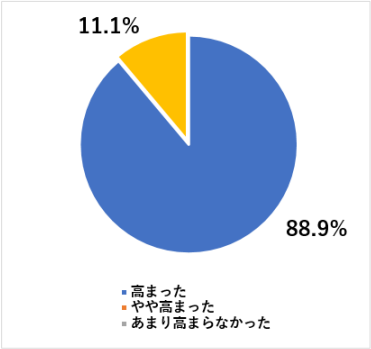
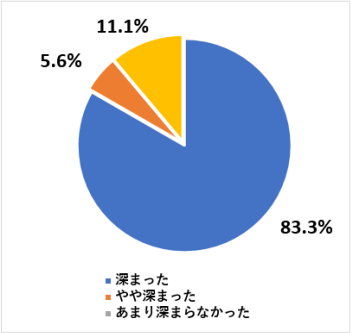
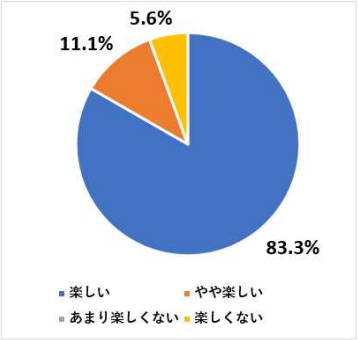
○　８５畳のたたみとその周りにマットを敷きつめることにより、効率的で安全な指導に努める。

●授業の様子

【ペアによる対人的技能の習得練習】
男女ペアによる、習ったワザの復習

【外部指導者による模範演技】
合気道のまとめ・護身術の技の模範

●生徒の取組み方や意識の変容、感想など

1．多様な武道（※２種目以上または、柔道、剣道、相撲以外の武道）を学習したことで、武道への関心は高まりましたか。	2．多様な武道を学習したことで、伝統的な考え方や行動の仕方への理解は深まりましたか。	3．多様な武道を学習する授業は楽しいですか。
		

生徒の感想
- ○　難しい技もあったけれど、全部できるようになった。
- ○　五味田先生（外部指導者）と古川先生（外部指導者）が面白く教えてくださったので楽しかったです。
- ○　護身術も学べたので、いざというときに身を守れるようにしたいです。

●成果

- ○　３年間継続して取り組んだことで、生徒の技への関心が高まり、護身術を中心に身を守る方法について学習し、理解を深めることができた。
- ○　体格差や性差関係なく組むことで、生徒はより合気道を楽しむことができ、今後も合気道に取り組んでいきたいというアンケートもあったことから、生涯スポーツとして考えることができた。
- ○　生徒は、礼儀・作法を学習し、対人における敬意や相手を尊重する大切さを学ぶことができた。

●課題

- ○　生徒数が減少する中で、実技の実践経験を多く取り入れるための指導の工夫が必要であると考える。田辺市内の同じ少人数クラスの学校との合同授業等、武道領域に限らず、外部指導者の活用しやすい方法を検討していきたい。

合気道	田辺市立高雄中学校

●実践研究のねらい

○　合気道で、基本動作、受け身、対人技能を学ぶことで、技能の定着を図る。
○　外部指導者による専門的な指導、TTによる連携で、生徒の技能の習得を目指す。指導と援助の役割分担を明確にし、より効果的な指導を目指す。
○　田辺市にゆかりのある植芝盛平が創始した武道に触れることで、地元田辺の良さや地域について深く知る機会とする。

●多様な武道の指導モデル　第１学年（４学級１４６名）

<table>
<tr><th></th><th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th><th>6</th><th>7</th><th>8</th><th>9</th></tr>
<tr><td>種目</td><td rowspan="6">オリエンテーション
基本動作の確認</td><td colspan="8">合気道</td></tr>
<tr><td rowspan="5">学習の流れ</td><td colspan="8">導入（あいさつ・健康観察、本時のめあて）</td></tr>
<tr><td colspan="8">準備運動</td></tr>
<tr><td colspan="2">基本動作の復習</td><td colspan="2">小手返しの復習</td><td colspan="2">入り身投げの復習</td><td>四方投げの復習</td><td rowspan="2">実技テスト</td></tr>
<tr><td colspan="2">小手返しの習得</td><td colspan="2">入り身投げの習得</td><td colspan="2">四方投げの習得</td><td>テストに向けた練習</td></tr>
<tr><td colspan="7">振り返り（ワークシート記入）</td><td>学習のまとめ</td></tr>
</table>

●指導の工夫

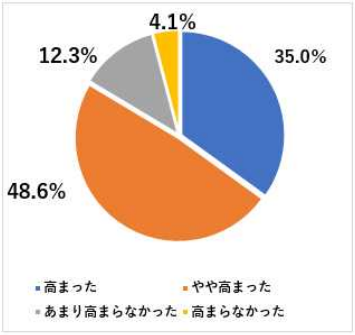
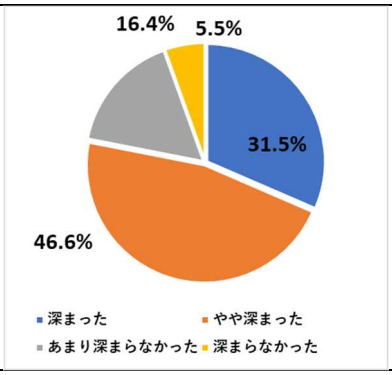
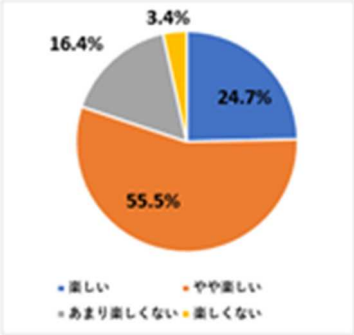
１　効果的に指導するための工夫
○　主に２時間続きの授業とし、継続した授業時間の活用により、効率的に時間を使えるようにするとともに、技の反復、応用の定着を図った。
○　外部指導者の模範となる技、受け身を視覚的にわかりやすく伝えるように工夫し、技の練習の際には、教職員含め、３～４名の巡回指導で細やかな指導を行った。
○　ワークシートの活用により、技のポイント、本人が工夫した点、仲間や先生に教えてもらった点を記入し、知識及び技能の定着を図った。
２　生徒の安全を確保するための工夫
○　本校には道場がないため、体育館を使用して武道の授業を行っている。本校にある畳５０畳に加えて、同じ田辺市内の中学校から５０畳の畳を借りて、効率と安全を確保できるように工夫した。
○　受けと取りの位置を示して、受け身を取る際に、畳のスペースが確保できるように外部指導者と教職員で巡回指導を行うようにして取り組んだ。

●授業の様子

【　外部講師による指導　】
外部講師による技の見本や説明を見聞きし、取り組んでいる様子

【　合気道の技の習得　】
四方投げの習得に向けてペアで取り組んでいる様子

●生徒の取組み方や意識の変容、感想など

1．多様な武道（※２種目以上または、柔道、剣道、相撲以外の武道）を学習したことで、武道への関心は高まりましたか。	2．多様な武道を学習したことで、伝統的な考え方や行動の仕方への理解は深まりましたか。	3．多様な武道を学習する授業は楽しいですか。
		

・　合気道という武道に触れる機会がなかったので、取り組むことができて良かったです。
・　初めてだったので、難しかったけど、何回かやっていくうちに少しずつできるようになりました。
・　五味田先生（外部指導者）の話し方が面白く、とてもわかりやすかったです。

●成果

○　外部指導者の模範となる技を見たり、直接指導を受けたりすることで、生徒たちが視覚的に技に触れることができ、より見通しをもった学習をすすめることができた。
○　専門的な指導に加えて、多くの指導者の目があるため、安全かつ効果的に指導を行うことができた。
○　柔道衣や防具といった、道具の購入の必要がなく、体操服で安心して取り組むことができた。

●課題

○　外部指導者に授業に入ってもらったことで、指導者の人数が増え、安全性を高めることができたが、２クラス合同で行う計画だったため、個に応じた指導が難しく感じた。
○　教員の合気道に関する指導力向上を意識していく必要がある。
○　畳の準備や片付けなどに、時間がかかるため、場の工夫が必要である。

合気道	田辺市立近野中学校

●実践研究のねらい

○　和合の心を養い、合気道の授業の中だけでなく日常生活においても人を大切にする心を養う。
○　合気道で、基本動作、受け身、対人的技能を３年間継続して学び、ペアワークでより発展的な受け身の習得を図ることによって、技能の定着を図る。
○　外部指導者による専門的な指導、担当教員との連携で生徒の知識及び技能の習得を目指す。指導、援助の役割分担を明確にし、より効果的な指導を目指す。

●多様な武道の指導モデル　第１・２・３学年（３学級１４名）

<table>
<tr><th></th><th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th><th>6</th><th>7</th><th>8</th></tr>
<tr><td>種目</td><td colspan="8">合気道</td></tr>
<tr><td rowspan="4">学習の流れ</td><td rowspan="4">オリエンテーション</td><td colspan="7">導入（健康観察・本時の流れの説明）</td></tr>
<tr><td colspan="7">準備運動</td></tr>
<tr><td>基本動作の学習
受け身の学習</td><td>基本動作の学習
受け身の学習</td><td>新たな対人技能の習得
天地投げ</td><td>基本動作
受け身
前回学習した対人的技能の復習</td><td>新たな対人技能の習得
四方投げ</td><td>基本動作
受け身
前回学習した対人的技能の復習</td><td>新たな対人技能の習得
小手返し</td></tr>
<tr><td colspan="7">整理（振り返り・次時の連絡）</td></tr>
</table>

●指導の工夫

１　効果的に指導するための工夫
○　主に２時間続きの授業とし、継続した授業時間の活用により、効率的に時間を使えるようにするとともに、技の反復、応用の定着を図った。
○　外部指導者の模範となる技、受け身を通して視覚的に訴え、技の練習の際には教員含め、３人の巡回指導で細やかな指導を行った。
○　男子生徒９名、女子生徒５名のため、担当教員も参加することで、生徒の習熟度を見取るとともに、学校全体の交流を深めることにも努めた。

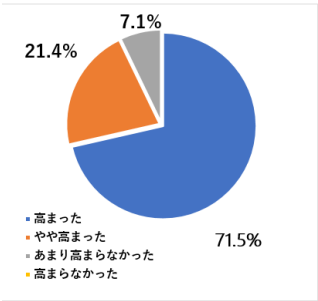
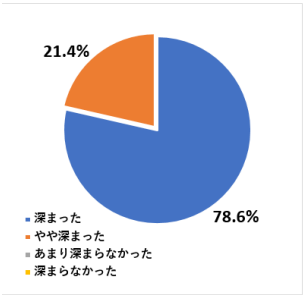
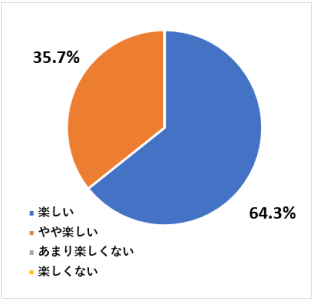
２　生徒の安全を確保するための工夫
○　本校には道場がないため、体育館を使用して武道の授業を行っている。新たに購入した畳ストッパーを用いて、効率と安全を確保できるように工夫している。
○　「受け」と「取り」の位置を揃えるとともに、外部指導員２名、教員３名の５名で指導し、隣接する生徒同士の間隔を取り、技をかける際の安全を意識した。
○　受け身の練習時間の確保と、技をかける際の相手を思いやる精神を指導した。

●授業の様子

【　二人の外部講師　】
３つの技の習得を図ったが、生徒が取り組む前に、外部講師が技を見せ、1つ1つのポイントを丁寧に指導していただいた。

【　和合の心　】
技の習得の前に、相手に対する礼儀「和合の心」を大切にすることを重要視している様子。

●生徒の取組み方や意識の変容、感想など

１．多様な武道（※２種目以上または、柔道、剣道、相撲以外の武道）を学習したことで、武道への関心は高まりましたか。	２．多様な武道を学習したことで、伝統的な考え方や行動の仕方への理解は深まりましたか。	３．多様な武道を学習する授業は楽しいですか。
		

【生徒の感想】
○　僕は、合気道をするのは２回目で、初めて「天地投げ」をしました。最初は難しそうだなと思ったけど、この学習をしていくうちに結構できるようになって、うれしかったです。「四方投げ」や「小手返し」は去年もしたけど、今年の方がスムーズにできたなと思います。今年の合気道も楽しかったし、良い経験になりました。五味田先生、大村先生ありがとうございました。来年もよろしくお願いします。

●成果

○　合気道の授業を通して、礼儀や相手を思いやる気持ちの意識付けができた。意欲的に取り組む生徒が多く、来年度も授業を受けたいという意見が多かった。可能であれば、継続して来年度も行いたい。
○　保健体育科専門の教員がいない中での武道の実施は困難であるため、地域の専門的な外部指導の方に指導いただくことで専門的な技能の向上だけでなく、安全面や興味関心の向上にも繋がった。

●課題

○　武道の授業では、専門性の高い外部講師による指導が必至になるのではないかと考える。是非とも、来年度も同じ外部講師に指導していただきたい。
○　教員が複数体制で指導し、安全管理を徹底すること。
○　畳の準備、片付け等を段取りよく協力して行うこと。
○　併設の小学校と、体育館利用時間の調整が必要であること。

合気道	田辺市立衣笠中学校

●実践研究のねらい

○　合気道を通じて和合の精神や礼儀作法・基本動作・受け身・対人的技能を２年間継続して学ぶことにより、作法や技能の定着を図る。
○　外部指導者による専門的な指導で生徒の知識及び技能の習得を目指す。指導・援助の役割分担を明確にし、より効果的な指導を目指す。

●多様な武道の指導モデル　第１～２学年（６学級１４２名）

<table>
<tr><th></th><th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th><th>6</th><th>7</th><th>8</th></tr>
<tr><td>種目</td><td colspan="8">合気道</td></tr>
<tr><td rowspan="6">学習の流れ</td><td colspan="2" rowspan="6">オリエンテーション（合気道の歴史、理念、基本動作、受け身の練習）</td><td colspan="6">導入（挨拶、健康観察、本時の目標）</td></tr>
<tr><td colspan="6">準備運動</td></tr>
<tr><td colspan="6">基本動作、受け身の練習</td></tr>
<tr><td colspan="6">対人的技能の復習</td></tr>
<tr><td colspan="6">新しい技の習得</td></tr>
<tr><td colspan="6">まとめ、振り返り</td></tr>
</table>

●指導の工夫

１．効果的な指導のための工夫
- 　事前授業を２時間行うことで基本動作や受け身などの技能をより定着させることができた。また、２年生については昨年度の復習を行うことで、よりスムーズに技能定着を図ることができた。
- 　外部指導者を招いた授業では、２時間連続で行い、より時間を効果的に使うことができた。また、外部指導者から模範となる動作を示してもらうことで、よりわかりやすい指導となり、技能習得につながった。さらに、教員と連携することでより細やかな指導を行うことができた。

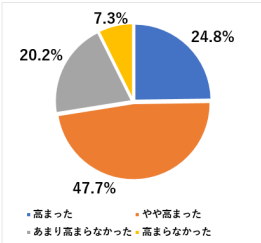
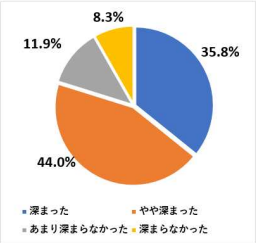
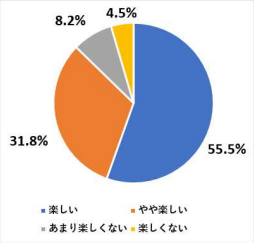
２．生徒の安全を確保するための工夫
- 　合気道の本格的な授業に入る前に、事前学習として受け身や礼儀作法の学習を行っている。このことにより、合気道の授業がスムーズに行え、怪我や事故の防止につながった。
- 　「受け」と「取り」の位置を揃えるとともに、外部指導者と教員が巡回することで、隣同士や技をかける際の安全を意識した。

●授業の様子

【　合気道の技の習得　】
１年生の「小手返し」をペアで練習している様子

【　合気道の技の習得　】
２年生の「入り身投げ」をペアで練習している様子

●生徒の取組み方や意識の変容、感想など

１．多様な武道（※２種目以上または、柔道、剣道、相撲以外の武道）を学習したことで、武道への関心は高まりましたか。	２．多様な武道を学習したことで、伝統的な考え方や行動の仕方への理解は深まりましたか。	３．多様な武道を学習する授業は楽しいですか。
		

・　合気道をする前はどんなことをするのだろうと思っていたけど、実際にしてみると楽しく練習することができました。最後に先生たち（外部指導者）の演舞も見せてもらうことができてとてもかっこよかったです。ありがとうございました。

・　合気道の技を教えてもらう前は難しそうだと思っていたが、先生方がゆっくり楽しく教えてくださったので大変わかりやすく、技をすることができました。また来年もがんばって新しい技に挑戦してみたいと思います。

●成果

○　合気道の指導において外部指導者の存在は大変重要である。専門性が高く、模範となる動作を見せてもらえること、細かなポイントのアドバイスなど、きめ細かな指導をしてもらうことができた。また、教員と外部指導者で指導の連携を図ることで、より安全で効果的な指導を行うことができた。
○　２年間継続して授業を行うことで、各学年のつながりをもって技を習得できるとともに合気道を通じて相手を思いやる心や礼儀について指導することができた。
○　合気道は、運動が比較的苦手な生徒も、技を習得することができ、達成感を得られるのが大変良い点であり、合気道の授業を楽しいと感じている生徒が多い。

●課題

○　合気道指導者の確保と、打合せの時間の確保が課題である。合気道有段者の方々は、各々仕事があるため、授業時間に講師として指導していただける人が限られる。また、教員との連携が大事であるため、今年度は夏季休業中に時間をとって指導内容や方法、注意点など打ち合わせすることができた。
○　事前授業は担当教員１名での指導であったため、支援を要する生徒への対応が難しかった。
○　教員研修を進めることと外部指導者との役割分担や連携を明確にした指導計画について、引き続き検討していく。

3 参考【平成21～令和5年度授業研究会開催内容一覧】

(1)幼稚園

校種	領域	内 容	学年	園名	授業者	年度
幼稚園	健康	運動遊び	年少～年長	和歌山市立湊幼稚園	全教員	26
		運動遊び －親子運動遊び－		九度山町立九度山幼稚園	全教員	26
		運動遊び		和歌山市立宮前幼稚園	全教員	27
		運動遊び		和歌山市立中之島幼稚園	全教員	28
		運動遊び	5歳児	和歌山市立中之島幼稚園	北川 泰大 上西 美穂	29

(2)小学校

校種	領域	内 容	学年	学校名	授業者	年度
小学校	体つくり運動	多様な動きをつくる運動遊び	1年	和歌山市立今福小学校	岩﨑 裕子	23
		多様な動きをつくる運動遊び		和歌山大学教育学部 附属小学校	渡辺 圭	24
		多様な動きをつくる運動遊び	2年	海南市立大野小学校	岩橋 由理	28
		多様な動きをつくる運動	3年	海南市立大野小学校	辻 直敬	29
		体力を高める運動 －パワーアップ大作戦－	5年	橋本市立紀見小学校	石井 美行	21
		体力を高める運動		由良町立由良小学校	里森 翔	24
		体力を高める運動		紀美野町立野上小学校	安田 雄一	25
		体力を高める運動		和歌山市立中之島小学校	後藤 雅俊	30
		体ほぐしの運動・体力を高める運動		田辺市立田辺第三小学校	塩路 文哉	30
		体力を高める運動 －いろいろな用具を使って－	6年	海南市立黒江小学校	阪口 貴史	21
		体力を高める運動 －縄跳び運動－		新宮市立王子小学校	山本 健一	21
		体力を高める運動 －ミニ駅伝・走るっておもしろい－		紀の川市立長田小学校	小川 強	22
		体力を高める運動		海南市立巽小学校	服部 康雄	23
		体力を高める運動		岩出市立根来小学校	山脇 勇人	28
		体ほぐしの運動・体力を高める運動		岩出市立山崎北小学校	熊代 悟志	R1
	器械運動	器械・器具を使っての運動遊び	1年	和歌山市立中之島小学校	森下 華菜子	27
		跳び箱運動	3年	印南町立清流小学校	山下 展弘	22
			5年	上富田町立市ノ瀬小学校	蕨野 寿	22
				岩出市立中央小学校	高橋 智紀	23
			5・6年	古座川町立高池小学校	橘 創	25
			6年	和歌山市立野崎西小学校	山田 充洋	27
		マット運動	3年	有田川町立藤並小学校	寺村 太樹	29
			4年	日高町立志賀小学校	北山 憲昭	21
				有田川町立藤並小学校	寺村 太樹	28
			5年	海南市立中野上小学校	中家 佳紀	22

校種	領域	内 容	学年	学校名	授業者	年度
小学校		マット運動	5年	紀の川市立粉河小学校	池本 光夫	28
			4･5･6年	那智勝浦町立太田小学校	永立 琢人	22
			6年	紀の川市立調月小学校	森奥 健太	25
			全学年	那智勝浦町立太田小学校	堀口 徳正	27
	陸上運動	走･跳の運動遊び －とびっこマスターになろうぜ！－	2年	和歌山市立野崎西小学校	中筋 達也	22
		走･跳の運動 幅跳び	4年	紀の川市立田中小学校	森口 裕介	28
				紀の川市立田中小学校	森口 裕介	29
		短距離走･リレー	6年	田辺市立上秋津小学校	瀬田 公寛	21
		ハードル走		御坊市立湯川小学校	今北 知志	26
	水 泳	浮く･泳ぐ運動 －呼吸をしながらの初歩的な動き－	4年	美浜町立和田小学校	山本 恵史	26
		クロール･平泳ぎ	5･6年	有田川町立石垣小学校	生馬 裕久	22
	ゲーム	ボールゲーム －シュートゲーム－	1･2年	由良町立白崎小学校	玉井 貴憲 望月 志保	R1
		ボールゲーム	2年	串本町立西向小学校	河田 恵美	23
		ベースボール型ゲーム －ティーボール－	3年	有田川町立小川小学校	竹内 秀昭	21
				和歌山市立中之島小学校	稲垣 輝一	R4
		ゴール型ゲーム －タグラグビー－		和歌山市立西脇小学校	小杉 栄樹	21
		ネット型ゲーム －プレルボール－		有田市立港小学校	倉本 健吾	23
		ゴール型ゲーム －ポートボール－		和歌山市立中之島小学校	中筋 達也	28
		ベースボール型ゲーム －キックベースボール－	4年	高野町立高野山小学校	岡 恭行	26
		ゴール型ゲーム －アルティメット－		田辺市立鮎川小学校	尾﨑 亮	R4
	ボール運動	ゴール型･ネット型 －キンボール－	5年	橋本市立学文路小学校	大谷 裕幸	22
		ゴール型 －フラッグフットボール－		御坊市立塩屋小学校	橋本 晃和	23
		ゴール型 －タグラグビー－		白浜町立西富田小学校	嶝口 智一	24
		ネット型 －ソフトバレーボール－		和歌山市立川永小学校	南方 孝俊	26
				海南市立大野小学校	山下 勝也	28
				那智勝浦町立宇久井小学校	西 起也	R3
				和歌山市立今福小学校	貴志 優太	R4
				紀の川市立田中小学校	山本 祥	R5
		ベースボール型 －ティーボール－		和歌山市立中之島小学校	柳 政和	29
		ゴール型 －バスケットボール－	6年	紀の川市立西貴志小学校	谷口 博司	21
				すさみ町立周参見小学校	深海 真也	23
		ゴール型 －ハンドボール－		かつらぎ町立渋田小学校	上野 昌之	23
		ゴール型 －タグラグビー－		和歌山市立中之島小学校	中筋 達也	27
		ゴール型 －フラッグフットボール－		海南市立大東小学校	松尾 彰彦	R3
		ベースボール型 －TE-YA（庭球野球）－		高野町立高野山小学校	中野 太一	24

校種	領域	内　容	学年	学校名	授業者	年度
小学校	表現運動	表　　現	5年	美浜町立松原小学校	坂本　明菜	26
			6年	広川町立南広小学校	三角　　佑	25
				紀の川市立調月小学校	森奥　健太	28
	保健	病気の予防	6年	紀の川市立粉河小学校	上西　隆夫	28

(3) 中学校

校種	領域	内　容	学年	学校名	授業者	年度
中学校	体つくり運動	体力を高める運動	1年	かつらぎ町立笠田中学校	福島　浩彦	21
				白浜町立白浜中学校	桑原　仁史	23
				和歌山市立明和中学校	山田　靖子	30
			2年	新宮市立光洋中学校	角　利則	23
				田辺市立明洋中学校	中平　和徳 岩本　将広	30
	器械運動	マット運動	1年	紀の川市立打田中学校	森田 康介	22
			2年	田辺市立高雄中学校	宮野　好史	25
			3年	有田川町立金屋中学校	中澤　征司	21
		跳び箱運動	2年	紀の川市立貴志川中学校	森田 康介	29
		跳び箱運動・マット運動	1年	和歌山市立貴志中学校	中村　麻希	28
			2年	和歌山市立東和中学校	小川　泰伸	21
	陸上競技	ハードル走	2年	和歌山市立紀伊中学校	藤田　絢子	23
		ハードル走・ 走り幅跳び・走り高跳び	1年	橋本市立紀見北中学校	松本　久彦	24
		競走 －長距離走－	1年	串本町立西向中学校	堺　高行	21
				新宮市立城南中学校	橋本　紀彦	22
				有田市立保田中学校	蜂谷　俊幸	23
			3年	すさみ町立周参見中学校	寺本　雄介	21
				和歌山市立貴志中学校	宮﨑　潤	29
		混成競技	3年	印南町立切目中学校	山本　拓 寺嶋　俊人	27
		長距離走	3年	由良町立由良中学校	濱口　祐一	R1
	水　泳	泳法 －クロール・平泳ぎ－	3年	上富田町立上富田中学校	中平　啓太	22
	球技	ゴール型 －バスケットボール－	1年	印南町立印南中学校	中根　譲治	22
				和歌山市立西和中学校	尾崎　有希子	22
			2年	田辺市立中芳養中学校	井上　一光	R4
		ゴール型 －ハンドボール－	3年	紀美野町立野上中学校	中谷　理沙子	24
				紀の川市立貴志川中学校	小川　和	28
		ゴール型 －サッカー－		有田市立保田中学校	蜂谷　俊幸	26
				和歌山市立楠見中学校	下田　健斗	R4
		ネット型 －バレーボール－	2年	新宮市立城南中学校	成見　雅貴	24
				紀の川市立貴志川中学校	畑山　武宏	R5
		ネット型 －バドミントン－		みなべ町立上南部中学校	山本　尚貴	25
				海南市立第三中学校	下田　里奈	R3

校種	領域	内 容	学年	学校名	授業者	年度
中学校	武　道	柔 道	1年	日高町立日高中学校	中本 和志	21
				広川町立耐久中学校	森川 博司	22
				高野町立高野山中学校	木村 陽介	22
				岩出市立岩出第二中学校	千原 慶晃	R1
			2年	紀の川市立荒川中学校	林 剛	21
				岩出市立岩出第二中学校	東 芳弘	23
				岩出市立岩出中学校	藤田 圭造	25
				美浜町立松洋中学校	三原 史也	26
		剣 道	1年	海南市立下津第二中学校	岩尾 元	21
				御坊市立河南中学校	平林 常匡	23
			2年	和歌山市立西浜中学校	永瀬 覚	25
				海南市立第三中学校	芝﨑 公彦	28
			3年	海南市立第三中学校	芝﨑 公彦	29
	ダンス	創作ダンス	1年	海南市立亀川中学校	吉田 恵介	23
			2年	海南市立巽中学校	立花 大輔	22
		現代的なリズムのダンス	2年	有田川町立吉備中学校	小松 柔	28
			3年	有田川町立吉備中学校	小松 柔	29

(4) 高等学校

校種	領域	内 容	学年	学校名	授業者	年度
高等学校	体つくり運動	体力を高める運動	1年	県立新宮高等学校	丹羽 泰一郎	30
	器械運動	マット運動	1年	県立箕島高等学校	川嶋 英嗣	23
				県立海南高等学校	安永 元樹	R4
	陸上競技	競走 －長距離走－	1年	県立新翔高等学校	脇本 優生	24
				県立星林高等学校	山本 喜一郎	25
			2年	県立那賀高等学校	川畑 源大	29
	球技	ネット型 －バレーボール－	2年	県立那賀高等学校	谷 早織	22
		ゴール型 －バスケットボール－	1年	県立田辺工業高等学校	樫山 匠	27
			3年	県立桐蔭高等学校	外川 広興	28
				県立桐蔭高等学校	外川 広興	29
		ネット型 －テニス－	2年	県立桐蔭高等学校	中条 文弥	R5
			3年	県立神島高等学校	古川 一	R1
	武道	剣 道	1年	県立貴志川高等学校	柿原 千絵	24
			2年	県立那賀高等学校	塚本 浩史	28
	ダンス	現代的なリズムのダンス 創作ダンス	1年	県立桐蔭高等学校	迫田 妙	23
		現代的なリズムのダンス	1年	県立新宮高等学校	田寺 美絵	25
		創作ダンス	1年	県立有田中央高等学校	福田 亞唯	26

(5)特別支援学校

特別支援学校	体つくり運動	大縄跳び	小学部 低学年	県立みくまの支援学校	坂田　昌寛	26
		サーキット運動	小学部	県立紀北支援学校	小山　誓子	28
		縄跳び	中学部	県立紀北支援学校	江川　清司	28
		体ほぐしの運動・体力を高める運動	高等部	県立はまゆう支援学校	林　弘 道本　知紀 谷地　孝行 谷口　雄紀	R1
		体つくり運動遊び	高等部	県立紀北支援学校	津村　巧巳	R4
	陸上運動	陸上サーキット運動	中学部	県立みくまの支援学校	上山　喜寛	26
	球技	ベースボール型 ーフットベースボールー	高等部 全学年	県立みくまの支援学校	尾﨑　賀津	26
		ベースボール型 ーティーボールー	高等部	県立たちばな支援学校	山鷲　壮	27
		ゴール型 ーポンポンホッケーー	高等部 全学年	和歌山大学教育学部 附属特別支援学校	谷　重男	25
		キンボール	中学部	県立たちばな支援学校	湯森　昭人	27
		ゴール型 ーユニバーサルホッケーー	高等部	県立きのかわ支援学校	水本　大史 安達　青児 伴　茉樹 堂本　圭司	30
	武道	なぎなた	高等部	県立紀北支援学校	坂東　洲子	28
				県立紀北支援学校	坂東　洲子	29
	表現運動	リズムダンス	小学部 全学年	県立たちばな支援学校	池田　千奈	27
	自立活動	身体の動きを通して	小学部 中学部	県立紀北支援学校・愛徳分教室	川口　雅子	28
	体つくり運動・ボールを使った運動やゲーム	ボールで遊ぼう	小学部	和歌山大学教育学部 附属特別支援学校	籔本　安有美	R5

大好きな気持ちを
忘れないで♡

田中理恵

紀州っ子かがやき
エクササイズ＆ダンス

中学生用「ダンス」も踊ってみてね!!

提供：日本体育大学

田中理恵　Rie Tanaka

6歳から体操を始め、和歌山県立和歌山北高校から日本体育大学に進学。2010年ロッテルダム世界選手権では、最も美しい演技で観客を魅了した選手に贈られる「ロンジン・エレガンス賞」を日本女子選手で初めて受賞。2012年ロンドンオリンピックに出場し、団体8位入賞に貢献。
現在は、日本体育大学 児童スポーツ教育学部の教員をつとめる。

天翔りいら　Lyra Amato

2008年3月 宝塚歌劇団入団。「ME AND MY GIRL」で初舞台。「エリザベート」「ロミオとジュリエット」など数々の大作に出演し、ダンサーとして活躍。2013年3月「ベルサイユのバラ、オスカルとアンドレ編」にて退団。その後、ラジオのパーソナリティーやダンス講師、ダンスワークショップも開催。ディナーショーLIVE等へ出演し、舞台俳優、歌手、映像の分野など幅広く活躍している。

遠山大輔　Daisuke Tohyama

16歳からダンスを始める。アメリカへ渡りロイヤルカリビアンクルーズと契約。ダンサーとしてバハマやフロリダで活躍。帰国後、様々なミュージカルに出演。他にもTVCMや振付アシスタント・舞台演出など様々なジャンルで活躍中。主な出演作品は「遠い夏のゴッホ」「ピーターパン2012」「ロミオとジュリエット2013」「歴史にドキリ」等。

小学生用エクササイズ
「ワクワクわかやまワンダーランド」

振付／田中理恵（日本体育大学）、信田美帆（体操指導師）
作詞・作曲・ヴォーカル／古家学
協力／日本体育大学

中学生用ダンス
「STORY」

振付・作詞・ヴォーカル／天翔りいら（元宝塚歌劇団）
振付・ヴォーカル／遠山大輔（ダンサー・俳優）
作曲・編曲／立川智也

高校生用ダンス
「キミだけの場所」

振付・ヴォーカル／天翔りいら（元宝塚歌劇団）
振付・作詞・ヴォーカル／遠山大輔（ダンサー・俳優）
作曲・編曲／立川智也

●中学生・高校生用ダンス監修／学校法人りら創造芸術学園 山上範子

■企画／和歌山県教育委員会　■制作／株式会社和歌山放送・学校法人りら創造芸術学園・株式会社マザーランド　■著作／和歌山県